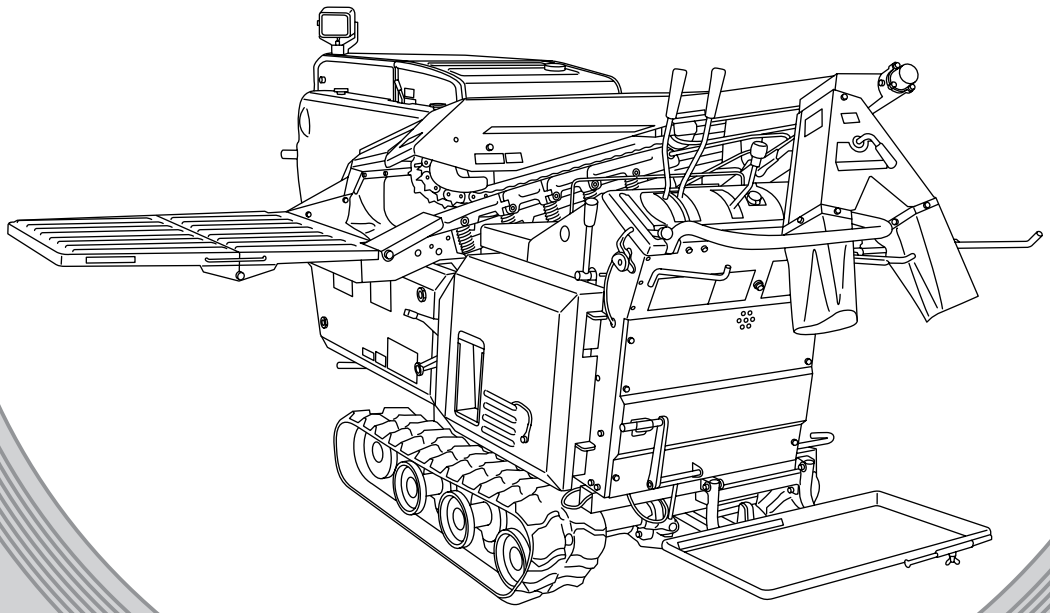
クボタハーベスタ

取扱説明書

HS 7000



OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

このたびはハーベスタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の脱こく作業に使用してください。
・この作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

ページ

● 安全な作業をするための注意事項は？ 安全作業のために 安全作業説明編

機械の安全な取扱いに関する基本事項，また機械に貼付けてある安全に関する表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。ご使用になる前によく読んで理解し必ず守ってください。

● 各操作レバーのはたらきを知るには？ 各部のはたらき ③

各操作レバーのはたらきを説明しています。よく理解し正しい操作をしてください。

● エンジンを始動し，ハーベスタを動かすには？ 運転のしかた ⑨

毎日，運転する前に機械の調子を点検してください。
正しい手順で行ない，エンジンの停止方法や安全装置の操作を体得してください。

● 上手な脱こく作業をするには？ 作業のしかた ⑱

ハーベスタ作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場の条件にあった機械の調整をして，安全な脱こく作業をしてください。

● 機械を長もちさせるには？ 手入れのしかた ㉕

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● 故障かなと思った時は？ 不調時の処置 ㊺

作業中のトラブルや不調，性能が低下している？と思ったらすぐに原因を調べて処置してください。

もくじ

安全作業のために……（安全作業説明編）

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて……1
2．仕様（装備）について……2
3．用語について……2

各部のはたらき……3

1．各部の名称……3
2．運転装置の取扱い……5
　1．エンジンコントロール関係……5
　2．操作レバー関係……6
　3．計器関係……7
　4．電装関係……8

運転のしかた……9

1．運転まえの点検……9
2．エンジンの始動と停止……10
　1．エンジンの始動のしかた……10
　2．エンジンの停止のしかた……12
3．運転のしかた……13
　1．発進・旋回のしかた……13
　2．停車のしかた……13
　3．移動走行のしかた……14
4．自動車への積込み・積降ろし……15
　1．自動車とアユミについて……16
　2．ハーベスタの扱いかた……16
5．ほ場の出入り……17

作業のしかた……18

1．作業まえの準備……18
　1．作物の条件について……18
　2．ほ場の条件について……18
　3．機械のセット……18
　4．各調節部の調整……21
2．脱こく作業のしかた……23
　1．こぎ胴回転の調整……23
　2．脱こく作業のしかた……23
　3．収こく操作のしかた……24

手入れのしかた……25

1．定期点検整備のしかた……25
2．給油・注油のしかた……27
　1．エンジンクランクケース……28
　2．トランスミッションケース……29
　3．脱こくギヤケース……29
　4．エアクリーナの掃除……30
　5．脱こくフィードチェン・レール台摺動軸への注油……30
3．燃料給油のしかた……31
　1．燃料の給油……31
　2．燃料フィルタの掃除……31
　3．エア抜きのしかた……31
　4．燃料ホースの点検……31
4．冷却水交換のしかた……32
　1．冷却水の点検……32
　2．ラジエータ冷却水の交換……33
　3．不凍液の注入のしかた……33
　4．ラジエータホースの点検……33
5．各部の点検と掃除のしかた……34
　1．エンジンカバーの掃除……34
　2．脱こく内部の掃除……35
　3．ワラ切カマの交換……36
　4．こぎ歯の点検……36
6．各部の点検と調整のしかた……37
　1．サイドクラッチレバーの調整……37
　2．走行クラッチレバー（駐車ブレーキレバー）の調整……37
　3．作業機クラッチレバーの調整……38
　4．脱こくカウンタベルトの調整……38
　5．エンジンファンベルトの調整……38
　6．揺動・1番ラセン駆動ベルトの調整……39
　7．2番ラセン・こぎ胴駆動ベルトの調整……39
　8．ワラ送りベルトの調整……40
　9．脱こくフィードチェンの調整……40
　10．クローラの調整……40

7．電装関係の点検のしかた……41
1．バッテリの点検と充電……41
2．電気配線の点検……42
長期格納のしかた ……43
1．シーズン終了時の手入れ……43
1．機械の掃除……43
2．サビ止めと注油……44
3．エンジンの手入れ……44
4．格納のしかた……44
2．再使用するときは……44
不調時の処置 ……45
1．エンジン部……45
2．走行部……46
3．脱こく部……46
付表 ……48
1．主要諸元……48
2．ベルト一覧表……49
3．アタッチメント（別売）一覧表……49
4．主な消耗部品……50
5．クボタ純正オイル……52
6．用語解説……53

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をする時は……（安-5）

⚠エンジンを始動する時は……（安-8）

⚠走行する時は……（安-9）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-11）

⚠ほ場で作業する時は……（安-12）

⚠１日の作業が終わったら……（安-15）

⚠長期格納する時は……（安-16）

2．表示ラベルについて……（安-17）

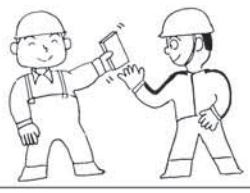
安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項で説明している安全説明は**ハーベスタ全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ● 酒気をおびた人 ● 妊娠している人 ● 16才未満の人 ● 指導者のいない運転未熟練者 ● 過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。 	このような服装は衣服が回転部に巻き込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠安全作業のポイント

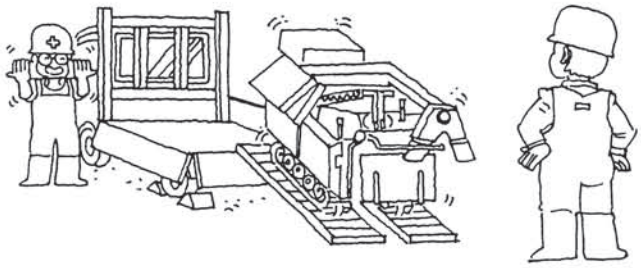
- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼替える
- エンジン，マフラ，（バッテリ），燃料タンクの周囲をきれいに掃除する
- 電気配線の外皮のはがれや燃料もれを点検する
- 油量の点検はエンジンが冷えているときに行う
- クラッチ，レバー関係が確実に働くか点検する
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
- エンジンが熱いときは燃料補給しない
- 機械は改造しない

エンジン始動

- 屋内での始動や作業は，窓や戸を開けて換気をする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- 始動前に各部のカバーの取付けを確認する
- 変速レバーを《N》（中立）に，走行クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》にする
- 周囲に障害物がないことを確認し，合図をして行う
- 手動でのエンジン始動時は始動ハンドルから手を放さない



走行運転　自動車への積込み・積降ろし

- アユミは，強度，幅，長さ（荷台高さの 4 倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは，自動車の荷台に平行に確実にかける
- 周囲を確認し，機械の周囲に人を近づけない
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速にして行う
- アユミ上では進路変更，変速操作はしない

走行運転

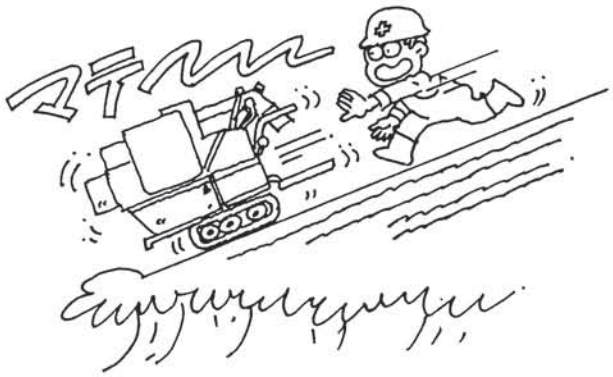
- 公道および夜間は自動車にのせて移動する
- 送り込台，補助袋受け棒，モミ受フロア，モミ受ハンガ，排じんダクト，ワラ送り装置は収納して走行する
- 発進，旋回は周囲を確認して低速で行う
- 脱こく部を動かしたままで走行しない
- 人や物を機械にのせない
- 運転中は，前後左右に気をくばり，わき見運転をしない

狭い農道，凸凹道路，坂道の走行

- 発進，旋回は低速で行う
- スピードを落として走行する
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使う
- 急な坂道では走行クラッチやサイドクラッチを切ったり，変速操作をしない
- 対向車を避ける時，道路の端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない

停車・駐車

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 坂道では駐車しない。やむをえず止めるときは，クローラに歯止めをする
- ワラクズの上や近くに機械を停止しない



ほ場作業　ほ場の出入り

- あぜ越えはアユミを使用し，低速であぜに対して直角に行う
- あぜ，溝，急傾斜はアユミを使用し，上がるときは前進，降りるときは後進で足元を確認して行う
- アユミ上では進路変更しない
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う

脱こく作業

- 走行を停止して行う
- 手袋を使用しない
- 手や衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れたりしない
- ワラクズの上で作業をしない
- 過労にならぬようゆとりを持って，作業の間に休憩を入れる
- 旋回，後進する時は，周囲，足元を確認して行う
- 詰まりの掃除は作業機クラッチレバーを《切》にしエンジンを停止して行う
- エンジン，マフラ等高温部に触れない
- ラジエータ キャップは熱いうちは触れない

補助者と作業をする時は

- 作業機クラッチレバーを《入》れる時，発進する時は合図をして行う

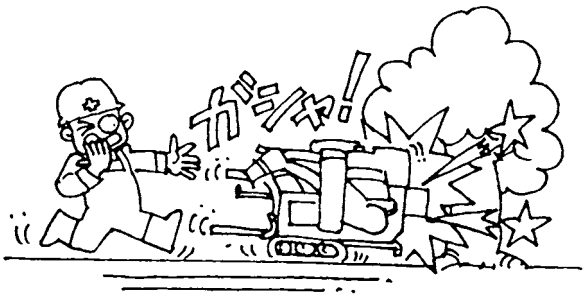
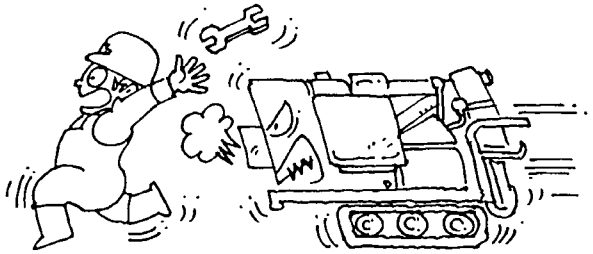
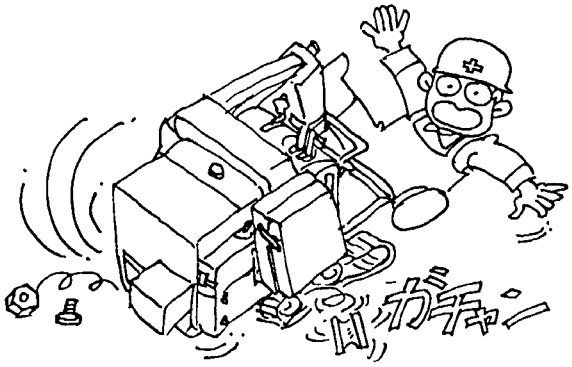
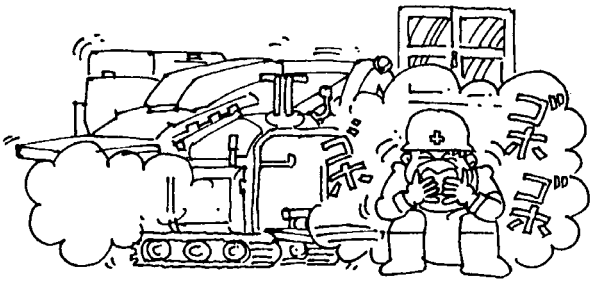
格　　納　1日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけエンジンを停止する
- 燃えやすい物の近くに止めない
- エンジン，マフラの周囲をきれいに掃除する

長期格納

- シーズンごとに定期点検をする
- 平坦な場所に置きエンジンを停止し，クローラに歯止めをする
- 燃料を満タンにし，燃料コックを「閉」にする
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける
- バッテリアースコードを外すか，バッテリを取外す

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械は稲・麦などの脱こく作業以外には使用しないでください。	バランスを崩して転倒したり，思わぬ事故を引起こします。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆機械を使用する前後に点検を行い，異常個所は直ちに整備してください。 ◆１シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動や作業は窓や戸をあけて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしないでください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 

⚠点検・整備及び掃除をする時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆点検・整備・掃除をする時は，平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください

機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠危険

◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。

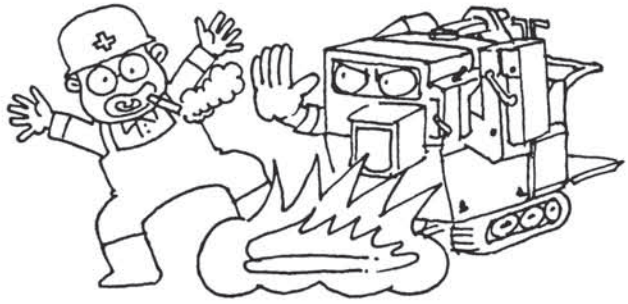
- 燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。
- エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。

⚠危険

◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか，作業前に点検してください。

- もれている場合はホースを交換する。
- 燃料ホースは２年ごとに交換する。

燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。

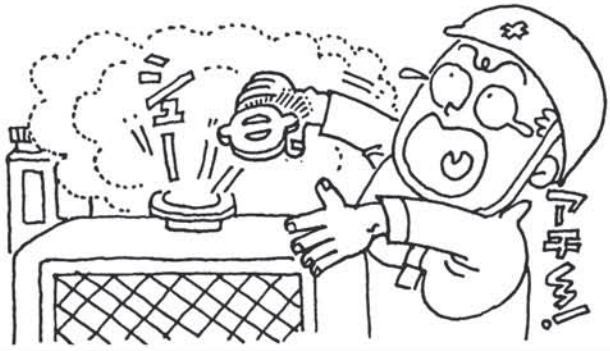


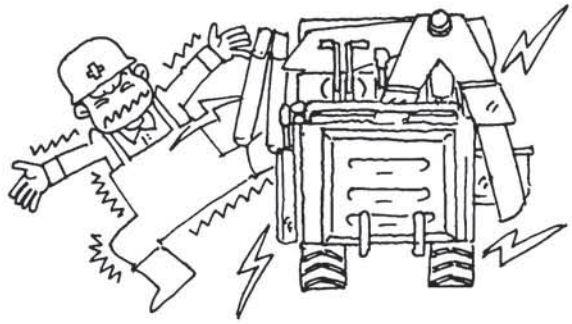
⚠警告

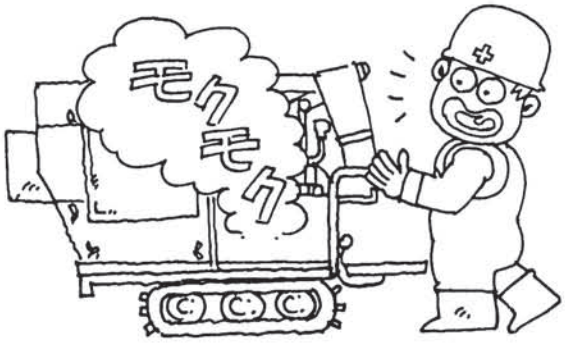
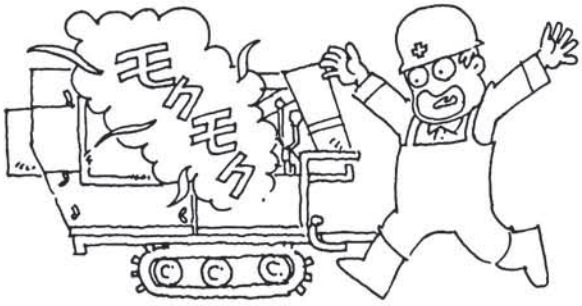
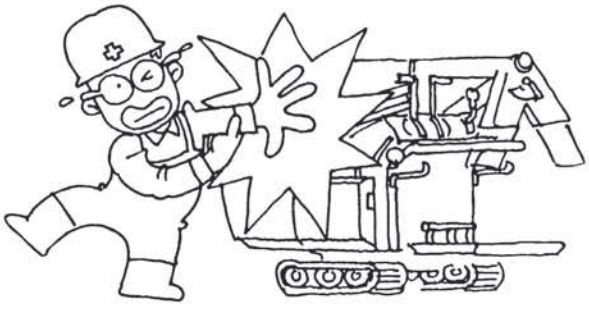
◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを外さないでください。

- 冷却水の点検などを行う場合は，エンジンを止め，冷えてからラジエータキャップをゆっくり開ける。

熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。

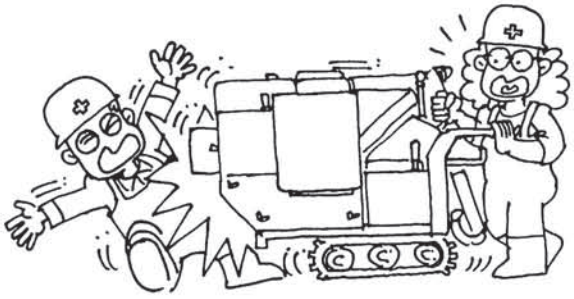
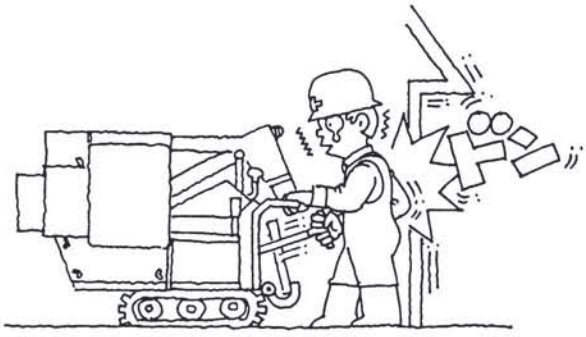


必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリの液槽口から爆発性のあるガスが出ますので，爆発事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子の取外しは，㊀側を取外した後㊉側を取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ● バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ● ㊉㊀を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 

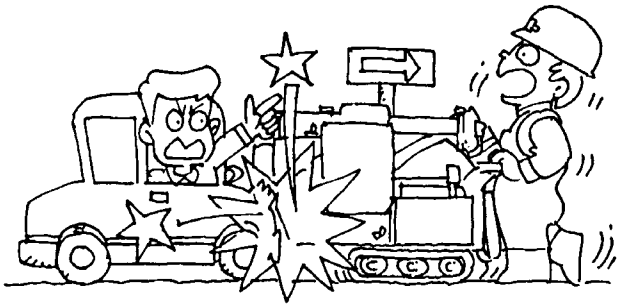
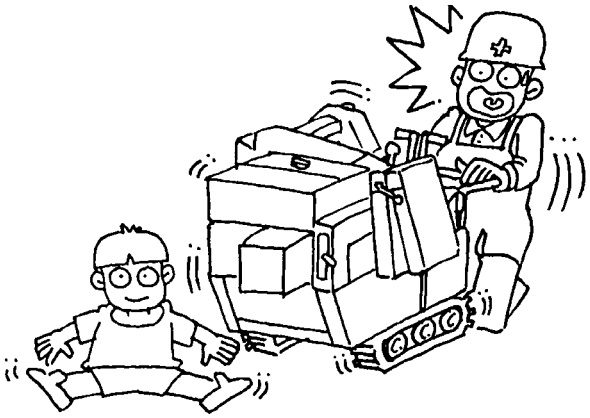
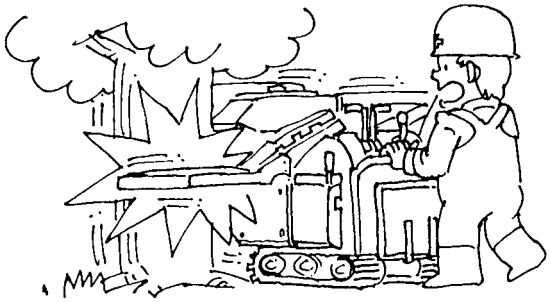
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆サイドクラッチレバー，走行クラッチレバーのきき具合を点検調整してください。 ●レバー，リンク，ワイヤに大きなガタや遊びがないか点検調整する。 ●クラッチ，レバー関係などの操作関係は確実に働くように調整する。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲のワラクズを掃除してください。	火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外した回転部のカバーなどは，全て取付けてください。	機械に巻き込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 

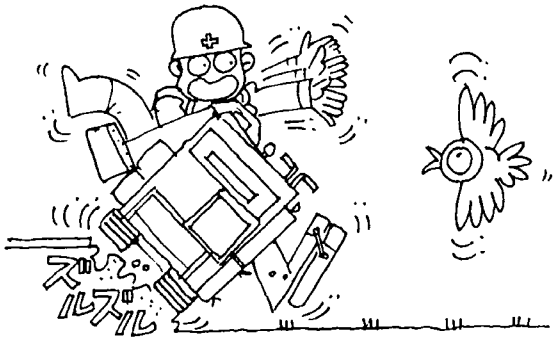
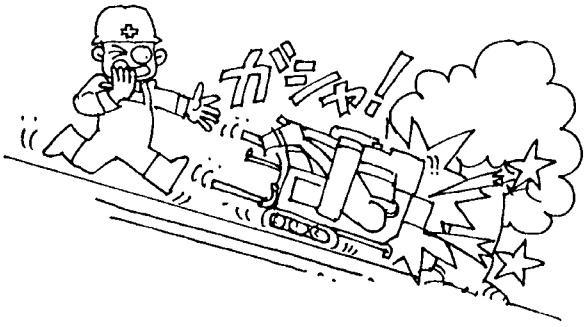
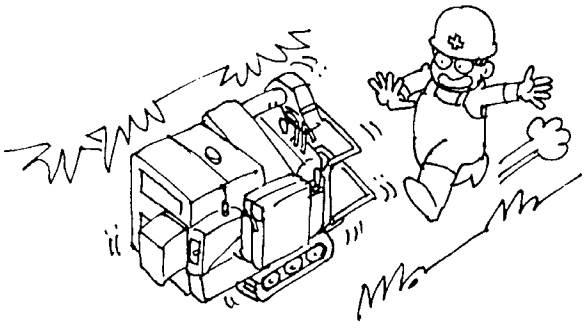
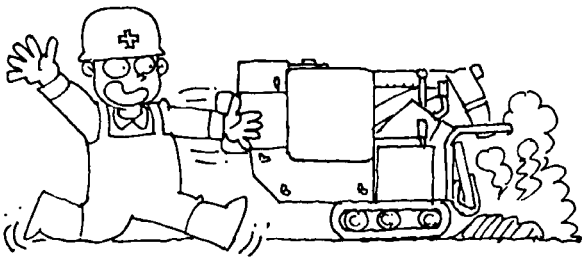
⚠エンジンを始動する時は……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動や作業は窓や戸をあけて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。
⚠警告 ◆エンジンを始動するときは，次の事を確認してから行なってください。 ●走行クラッチレバーを《切》にする。(駐車ブレーキをかける。) ●変速レバーを《N》(中立)にする。 ●作業機クラッチレバーを《切》にする。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆始動は正しい姿勢で行なってください。 ●始動ハンドルを回す時は，周囲に障害物がないことをたしかめて機械に人を近づけない。	ハンドルが飛び，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆手動でのエンジン始動時は，始動ハンドルを回し手を放さない。	

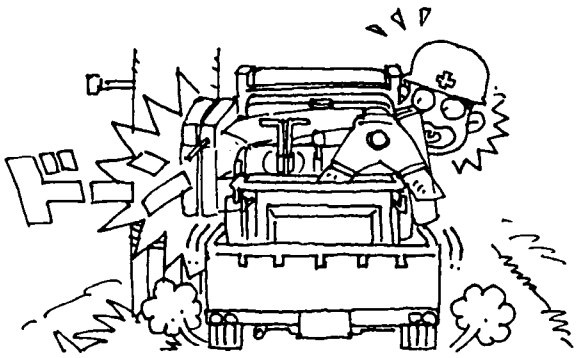
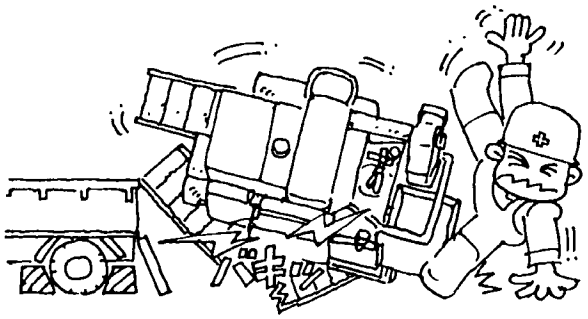
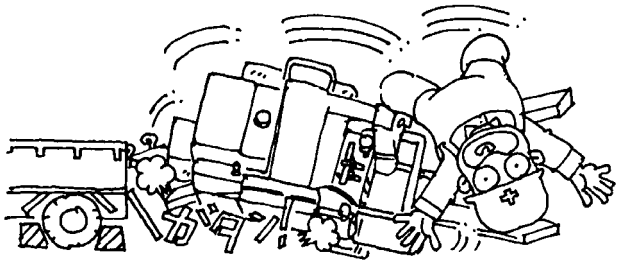
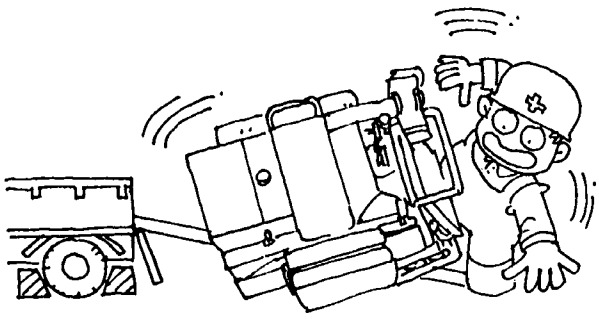
⚠走行する時は……

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆この機械は「道路運送車両法」に適合していませんので，公道は走行できません。公道の移動は自動車（トラック等）にのせて運搬してください。 ⚠警告 ◆夜間の移動は自動車（トラック等）にのせて運搬してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆発進する時は，機械の周囲から人を遠ざけて，「低速」で発進してください。 ◆後進する時は，背後に障害物がないことを確認して行う。 ◆作業機クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ◆子供を機械にのせたり近づけたりしないでください。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆急発進，急停止，急旋回はしないでください。 ●旋回する時は，「低速」で行う。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。 ◆走行時は補助袋受け棒，モミ受フロア，送り込台，ワラ送り装置，排じんダクトを収納し，人や物をのせないでください。	思わぬ傷害事故の原因となります。 

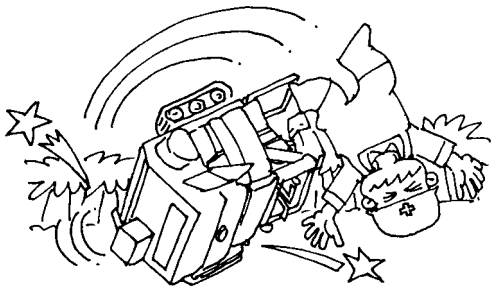
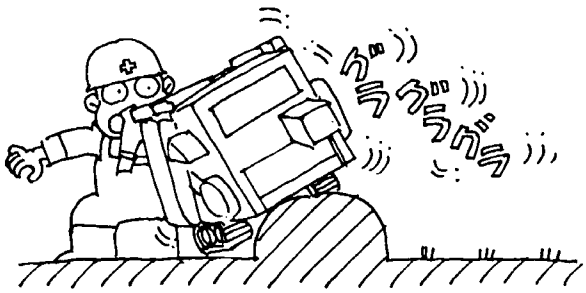
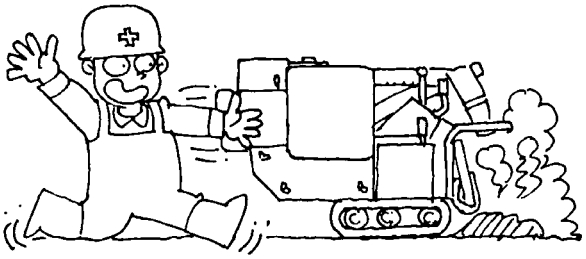
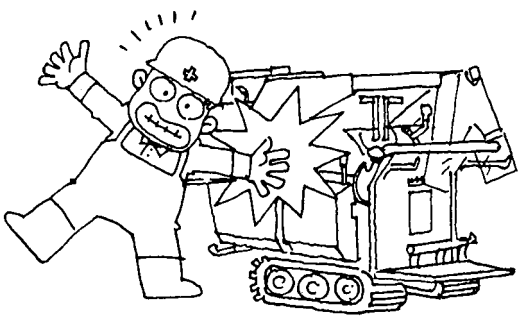
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂はスピードを落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆急な坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん停止して，変速を低速に入れ変えてから，登り降りする。 ●狭い農道，凸凹道路，坂道での発進，旋回は低速で行う。 ●傾斜地や急な坂道では，サイドクラッチ操作をしない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では駐・停車しないでください。やむをえず坂道の途中で駐車する時は駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆燃えやすいものの近くには駐車しないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラクズの上や枯草の近くに止めない。	マフラの排気で火災になることがあります。 

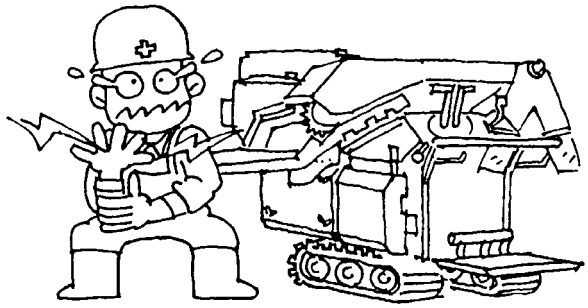
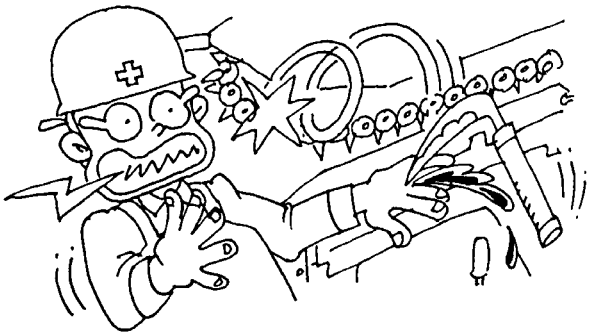
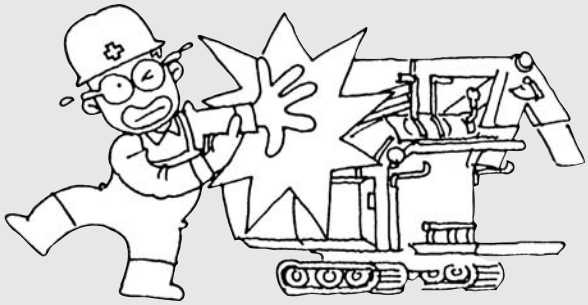
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

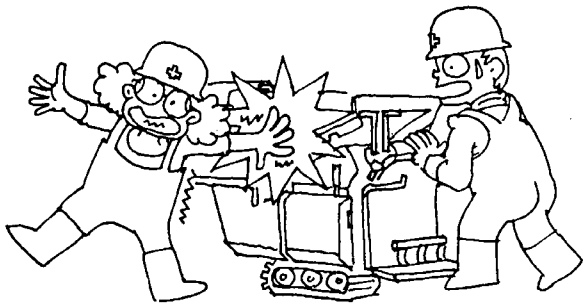
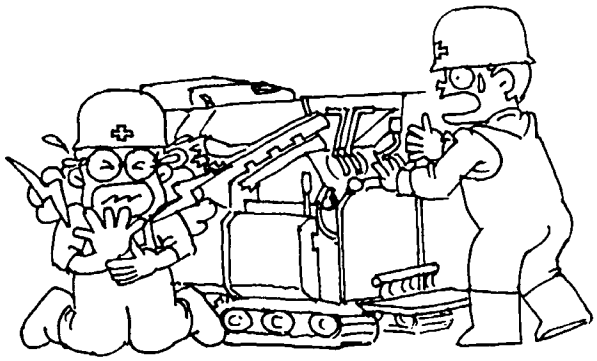
必ず守ってください ⟶ **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ● 自動車はエンジンを停止し変速を 1 速か後進に入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをする。	思わぬ事故を引起こします。 
⚠警告 ◆アユミは，強度，幅（クローラ幅に合ったもの），長さ（荷台高さの 4 倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ● 機械の重量に耐える強度のもの（金属製）を使用する。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真っ直ぐにかけてください。 ● 荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。 ● 補助者の立会誘導のもとに行う。 ● 積込み，積降ろしのときは機械の周囲に人を近づけない。	アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。 ● 機械をアユミに対して真っ直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。 ● 積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行なってください。 ● 機械がアユミの上にのりはじめたら機械から離れ，機械が自動車にのってから近づき，機械を停止させます。	進路変更すると急旋回して，転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業する時は……

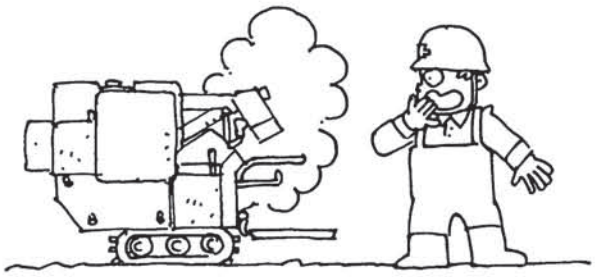
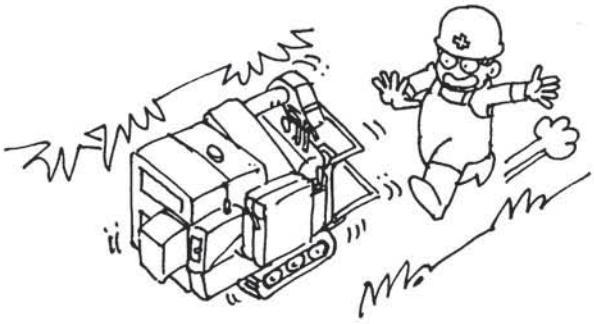
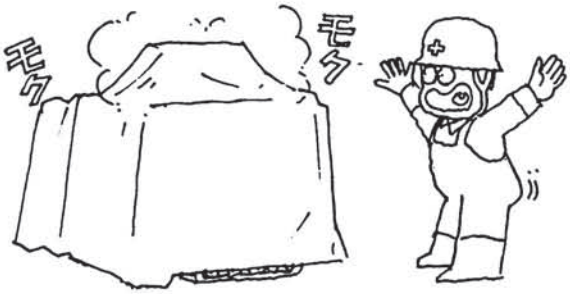
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆急傾斜，溝，あぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●ほ場に入る場合，下りは後進，上りは前進で低速で行う。 ●アユミを使用する時は，「自動車への積込み・積降ろし」の内容に従って行う。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆あぜ越えはアユミを使用し，低速であぜに直角に横切るようにしてください。 ●あぜがくずれないことを確認して行う。	アユミを使用しないと転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに止める。 ●脱こく作業時，ワラクズの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆脱こく作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れないでください。 ●脱こく作業は走行を停止して行う。 ●手袋使用禁止。 ●供給口が見えなくなるほど大量の作物を供給しない。 ●排ワラがたまったら，脱こく作業を中断して除去又は機械を移動する。	傷害事故の原因となることがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まり等の除去や，脱こく部の調整をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。 ●脱こく部や搬送部の詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●供給口，脱こく部，排ワラ部の周辺は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから掃除及び調整する。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って脱こく部や排ワラ部の掃除をしないでください。 ●排ワラ部にワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行う。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆夜間作業を行わないでください。 ●やむをえず夜間作業をする時は，適切な照明をしてください。	機械に巻き込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 

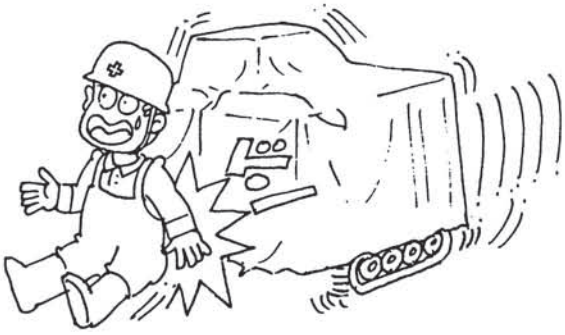
必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆補助者との共同作業をする時は，作業前によく打合わせをしてください。 ●発進するときや作業機クラッチを入れるときは合図する。 ●旋回するときは周囲を確認する。	傷害事故の原因となります。 
◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。 ●補助者に機械の機構や運転操作のしかた（緊急停止の方法等）をよく知らせておく。 ●作業中は補助者以外の人を機械に近づけない。 ●運転者は常に補助者の状態を確認しながら作業をする。	傷害事故を引起こすことがあります。 

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	➡	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆1日の作業が終了したら，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン・マフラ・（バッテリ）・燃料タンクの周囲のワラクズを掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけてください。 ●変速レバーを《低速》に入れ，駐車ブレーキをかける。 ●始動キーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱い間は，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

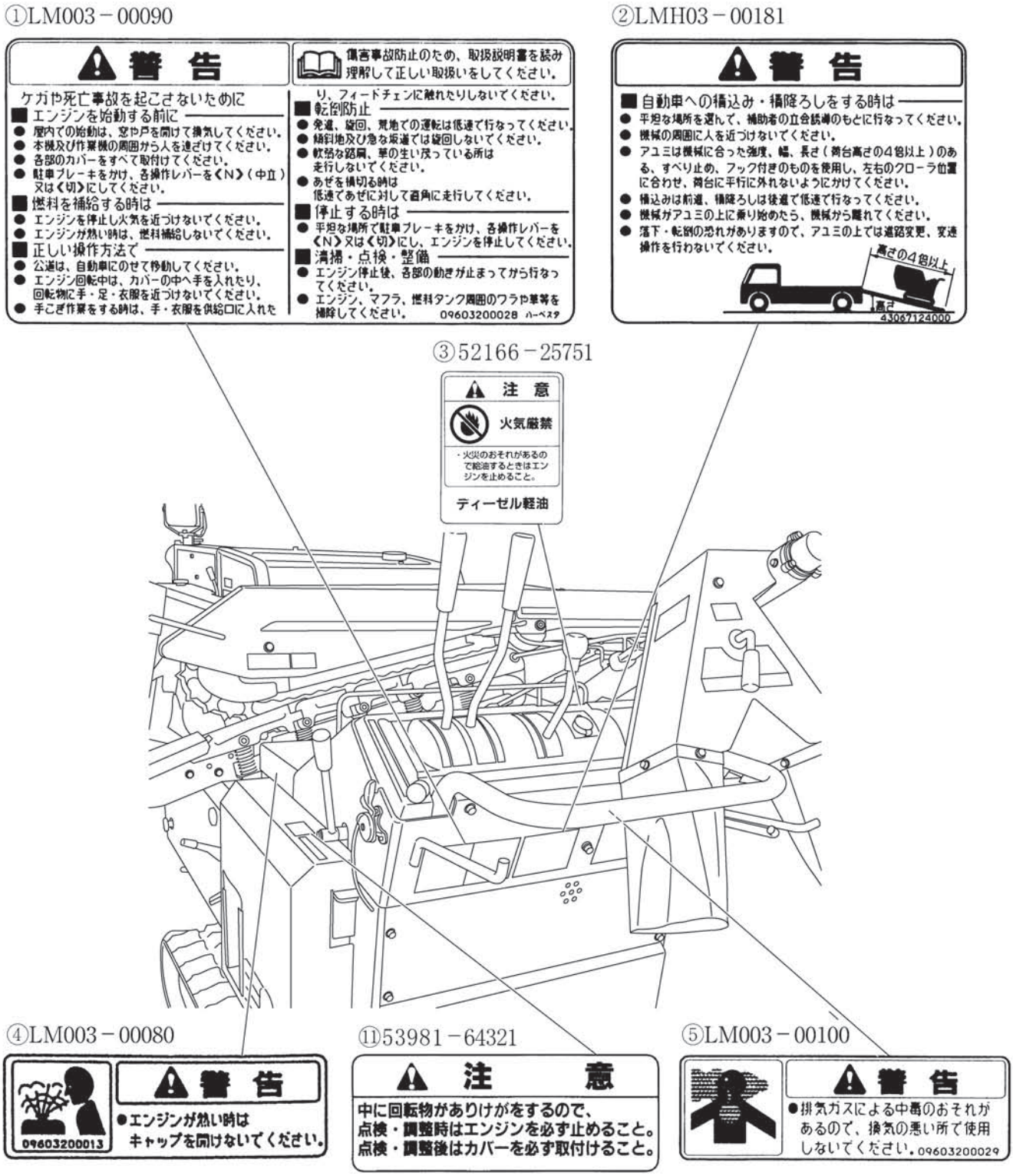
⚠長期格納する時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆各部の掃除をして平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけてください。 ● 変速を「低速」に入れ，クローラに歯止めをする。 ● 始動キーを抜取っておく。 ● 故障個所，部品の摩耗があれば，早目に修理，交換する。 ● ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締めつける。 ◆バッテリアースコード（㊀側）を外すか，バッテリを取外してください。 ◆燃料コックを閉じてください。 ● 燃料を満タンにし，燃料コックを「閉」にする。	機械が動き出したりして，思わぬ事故の原因になることがあります。 
⚠注意 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 ● １年ごとに定期点検・整備をお買いあげ先で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。	整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

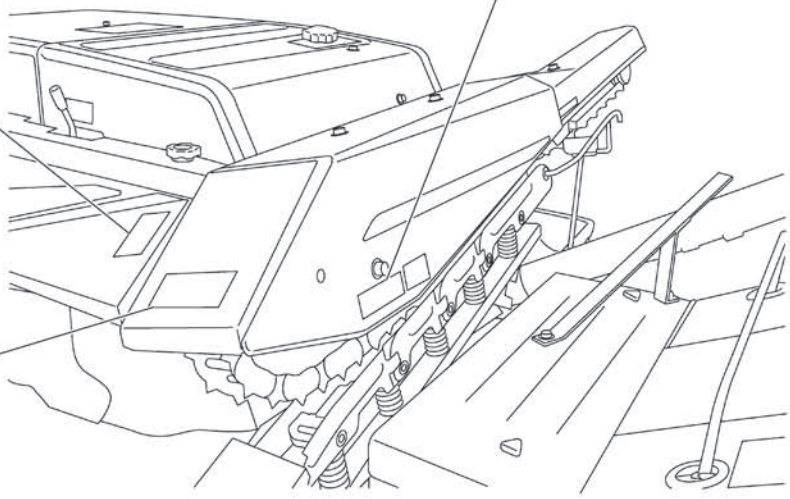
また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。



⑥LM003－00110

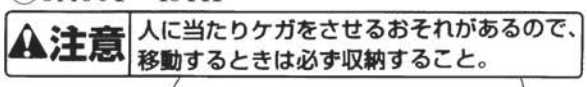
⑦LM003－00130

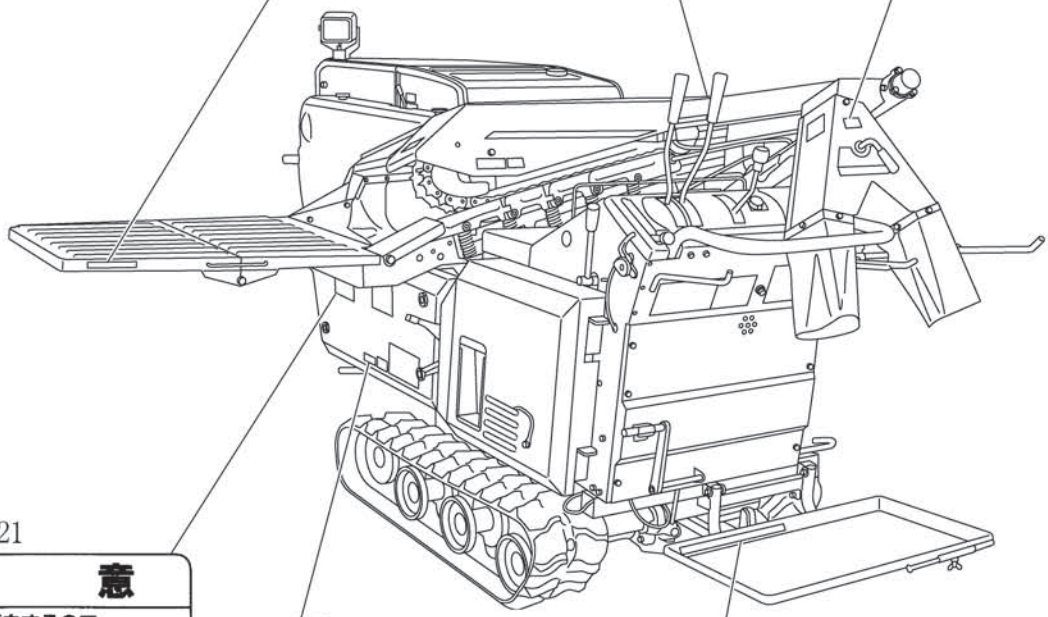
⑧LMH03－00241



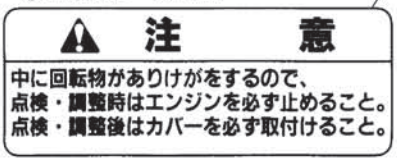
⑩ LMH03－00031

⑨5H601－43441

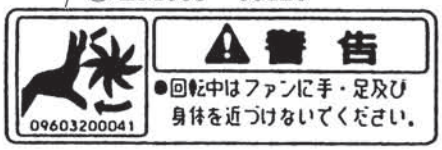




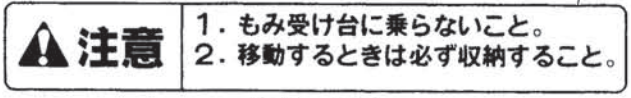
⑪53981－64321

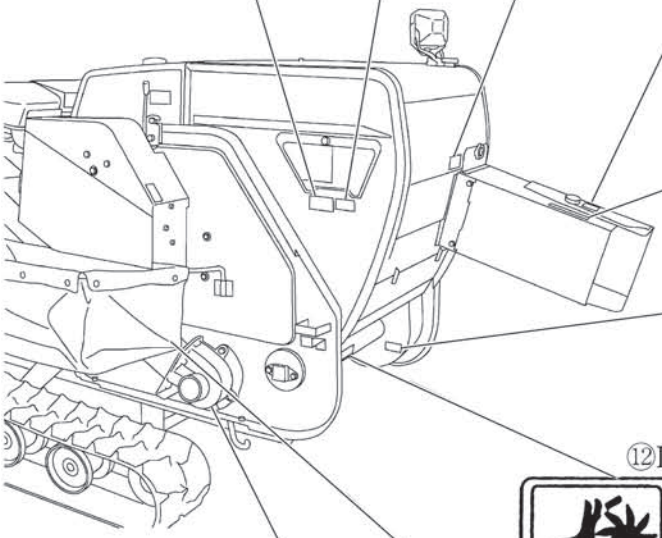


⑫ LM003－00120



⑬56421－52131





⑪53981－64321

注　意

中に回転物がありけがをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

⑭LMH07－00021

注　意

●排塵ダクトを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

43077147000

⑯53981－64341

掃　除　口

注意

中に回転物がありけがをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

⑮LMH03－00231

警　告

●ケガをするおそれがあるので排塵ダクトの中に手を入れないでください。

43077177000

⑨5H601－43441

注意　人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⑯53981－64341

掃　除　口

注意

中に回転物がありけがをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

⑫LM003－00120

警　告

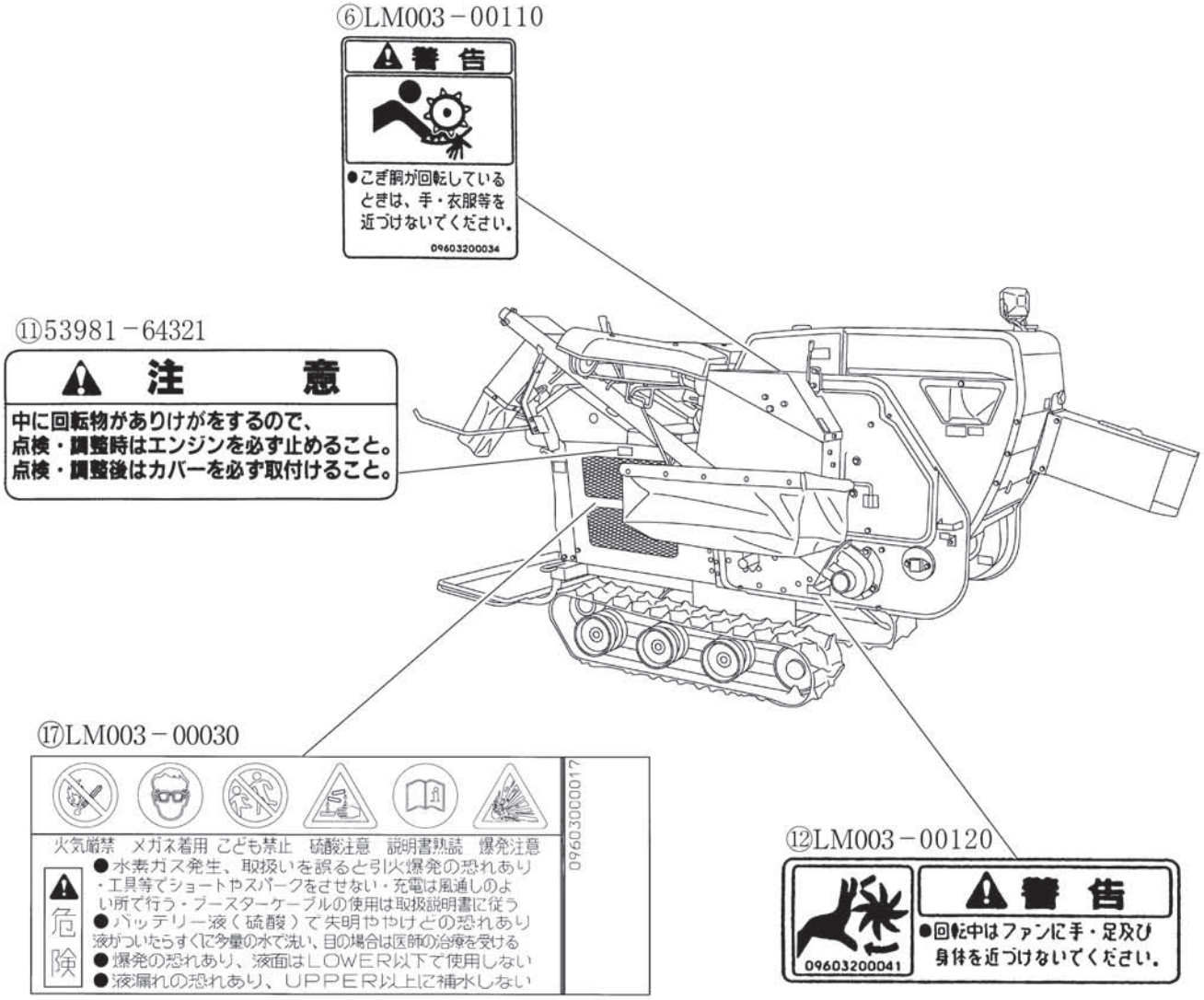
●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。

09603200041

注　意

中に回転物がありけがをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

⑪53981－64321



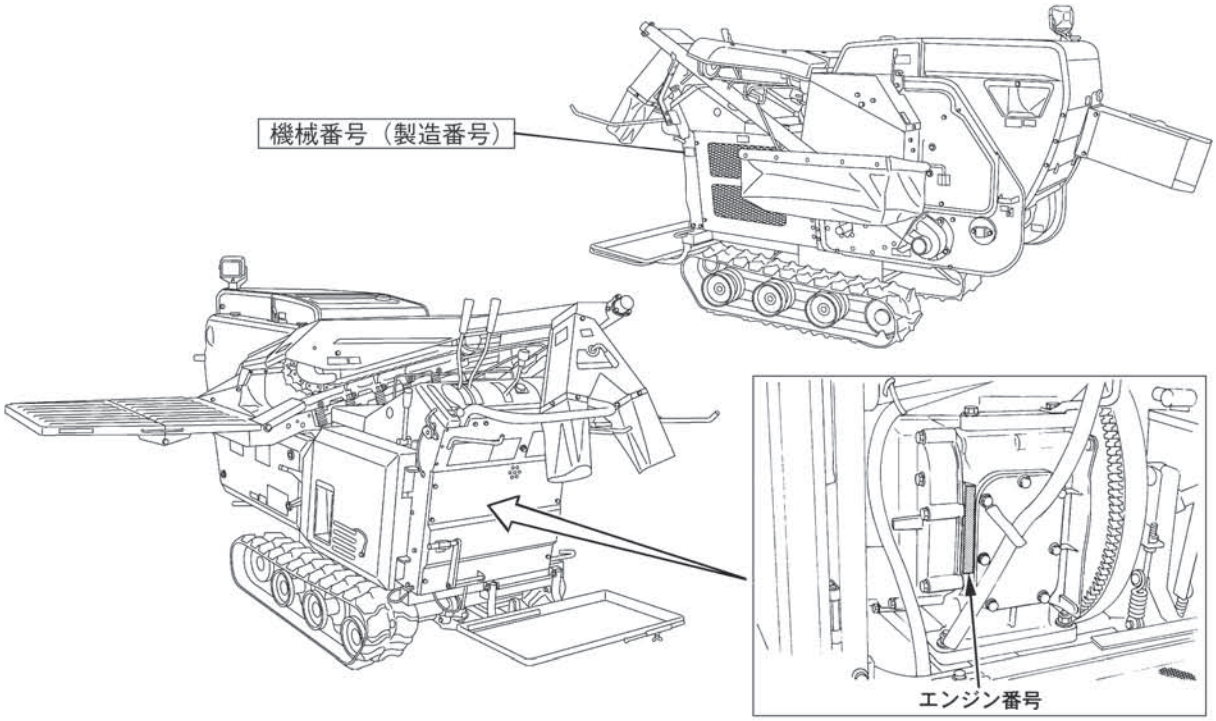
No	部品名称	部品番号	No	部品名称	部品番号
①	ケイコクラベルハーベスタ	LM003－00090	⑩	チュウイラベル	LMH03－00031
②	ケイコクラベルツミ・オロシ	LMH03－00181	⑪	ラベル(テンケン，チュウイ)	53981－64321
③	ラベル（キュウユ）	52166－25751	⑫	ケイコクラベルファン	LM003－00120
④	ケイコクラベル	LM003－00080	⑬	ラベル(ホジョデッキ)	56421－52131
⑤	ケイコクラベルハイキ	LM003－00100	⑭	チュウイラベルカバー	LMH07－00021
⑥	ケイコクラベルコギドウ	LM003－00110	⑮	ケイコクラベルハイジン	LMH03－00231
⑦	ケイコクラベルチェン	LM003－00130	⑯	ラベル(ソウジコウチュウイ)	53981－64341
⑧	チュウイラベルカサイボウシ	LMH03－00241	⑰	キケンラベルバッテリ	LM003－00030
⑨	ラベル（シュウノウ）	5H601－43441			

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。

・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは**「お買いあげ先」**にご相談ください。その際**「型式」**・**「機械番号（製造番号）」**と**「エンジン番号」**をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後 9 年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・機械は**稲・麦の脱こく作業**に使用してください。

・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を改造しないでください。
改造すると本来の性能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

HS7000型の主な仕様（装備）は次の表のようになっています。

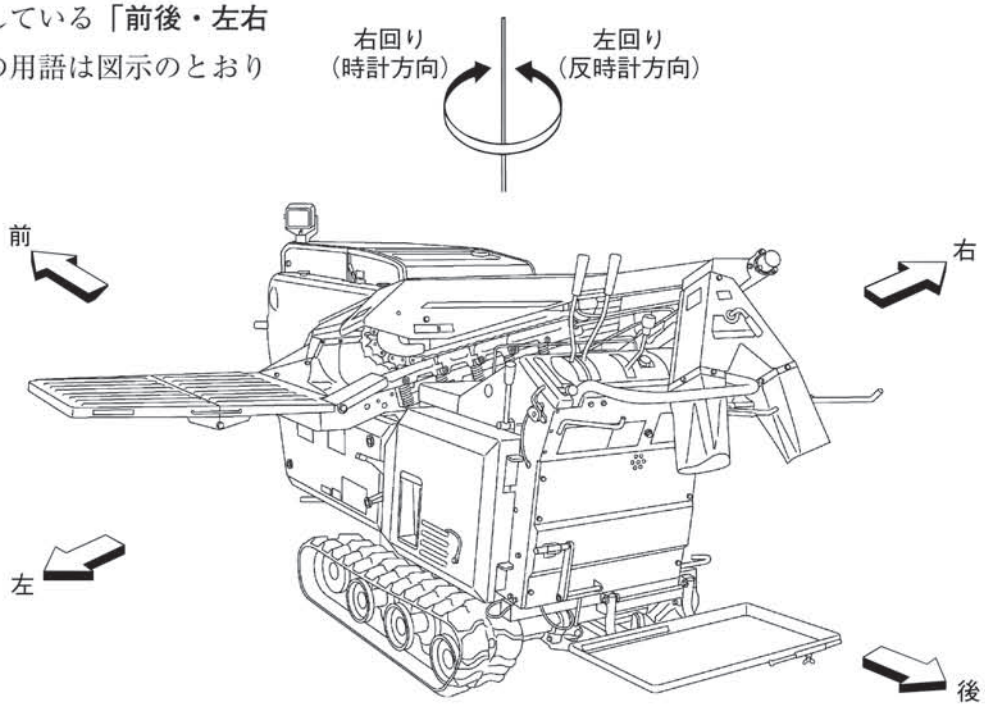
このため仕様（装備）が異なる点の追加説明をしておりますので，お買いあげの機械の仕様（装備）をお確かめのうえ，お間違いのないようにしてください。

名　　称	HS7000
機体質量(重量)(kg)	413
エンジン型式名	EA8－E3－MHB2
エンジン始動方式	セルスタータ

（詳細な仕様は48ページの「**主要諸元**」を参照ください。）

3. 用語について

(1) この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



(2) **マークの説明**

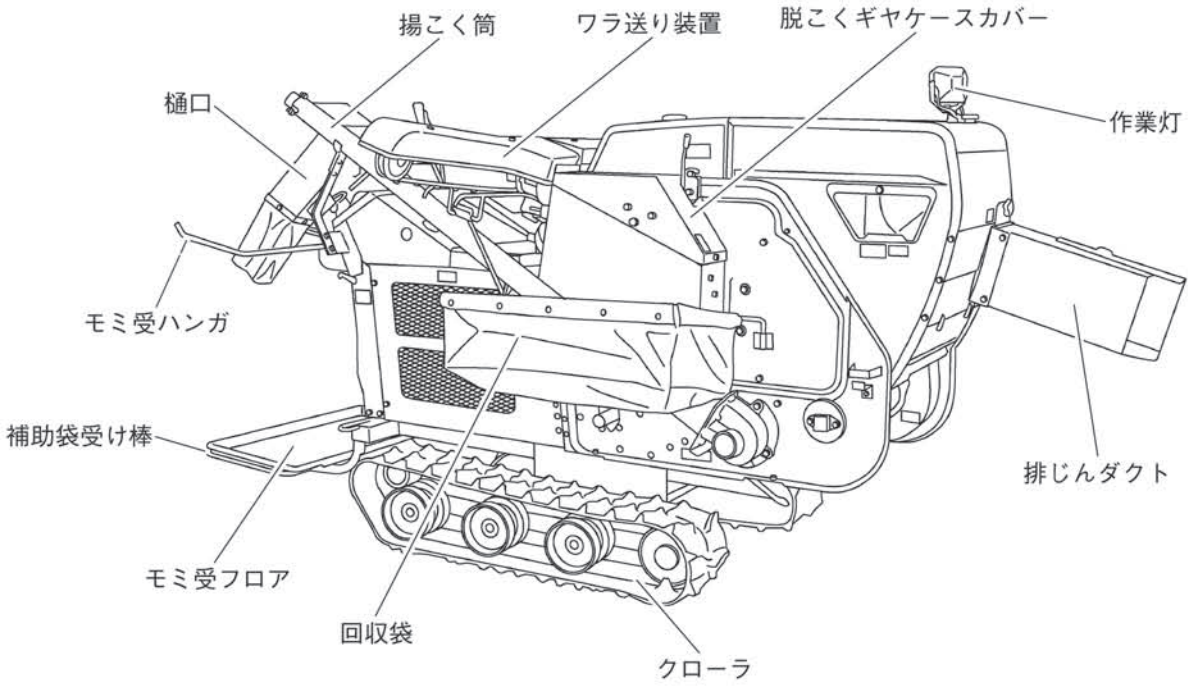
この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

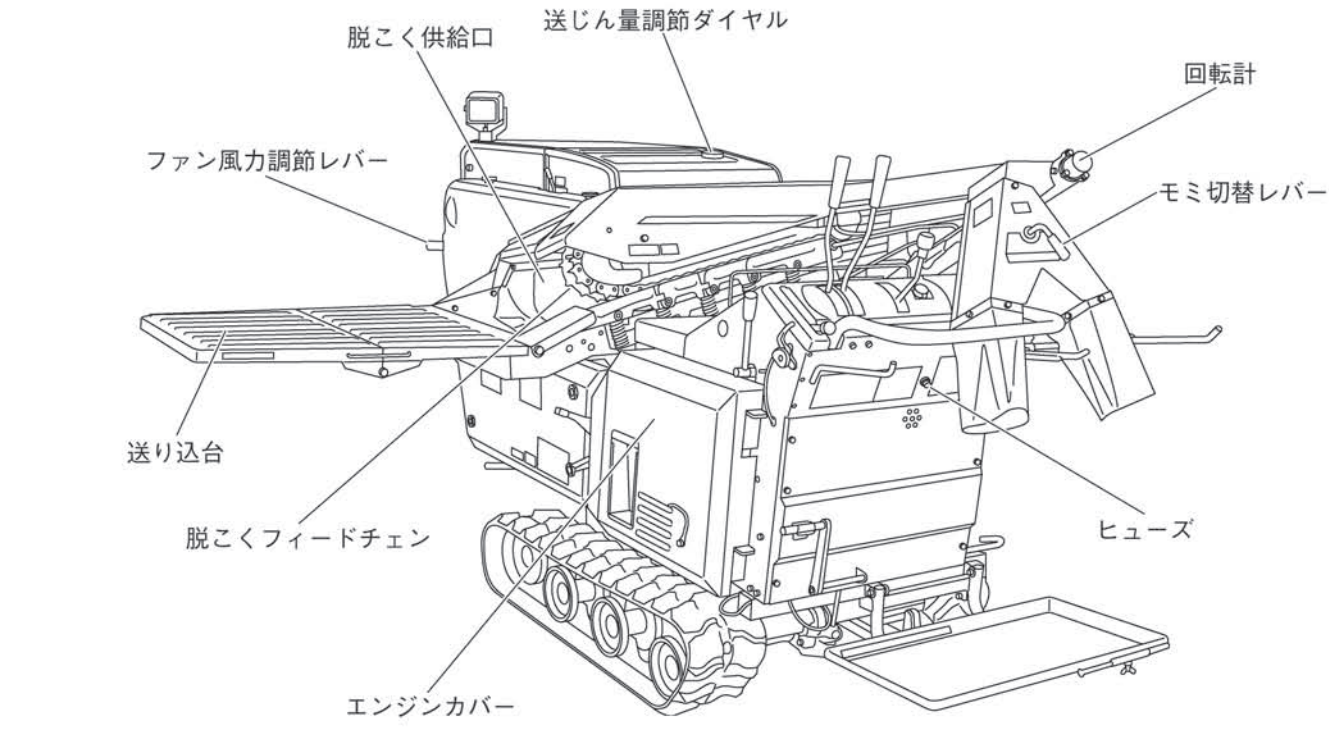
・ ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

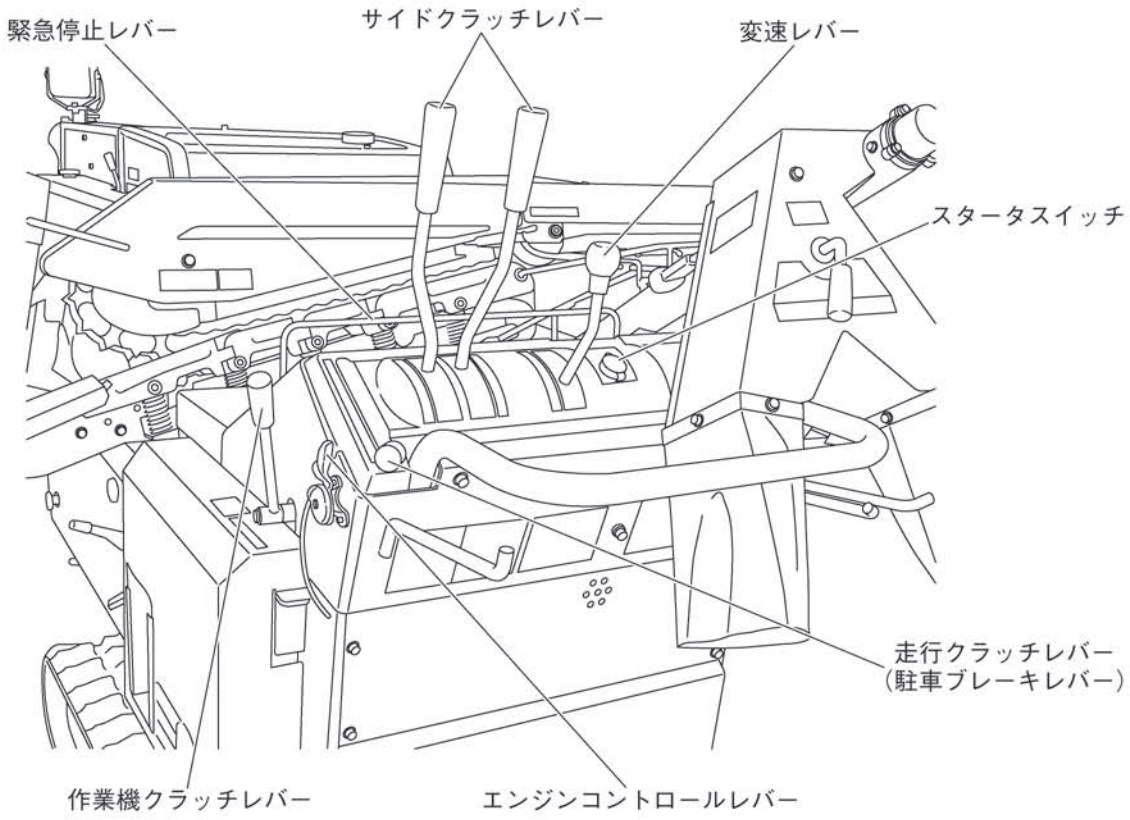
・ **取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

各部のはたらき

1．各部の名称

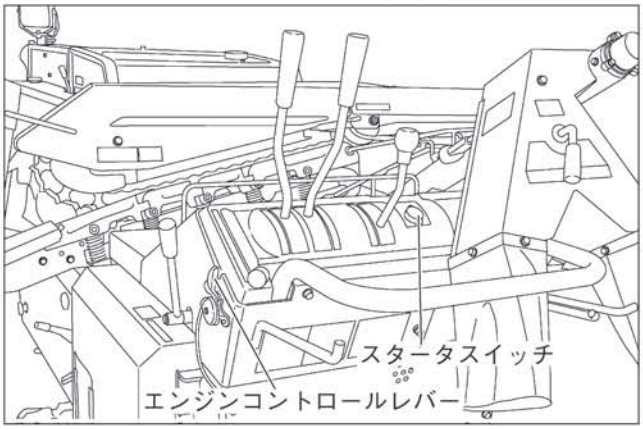





緊急停止レバー
サイドクラッチレバー
変速レバー
スタータスイッチ
走行クラッチレバー
(駐車ブレーキレバー)
作業機クラッチレバー
エンジンコントロールレバー

2．運転装置の取扱い

1．エンジンコントロール関係



❶ スタータスイッチ（始動キー）

エンジンを始動するときに使用します。スタータスイッチを《**始動**》位置に回すとエンジンが始動します。手を放せば自動的に《**運転**》位置に戻ります。

❷ エンジンコントロールレバー

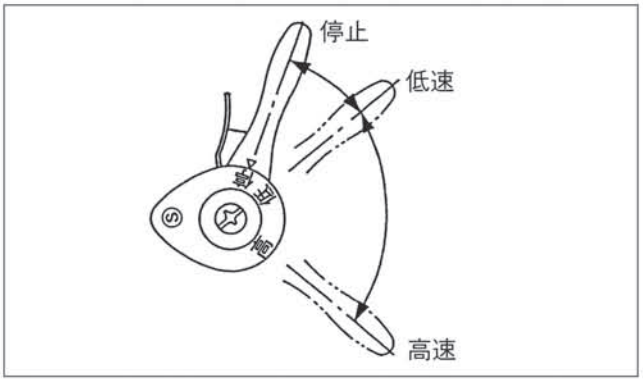
エンジン回転の調整とエンジン停止のときに使用します。

《**高**》側にするとエンジン回転が上がり，

《**低**》側にするとエンジン回転が下がります。

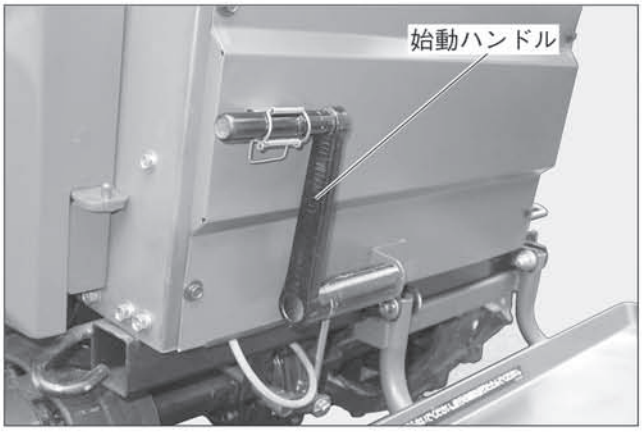
《**停**》の位置にするとエンジンが停止します。

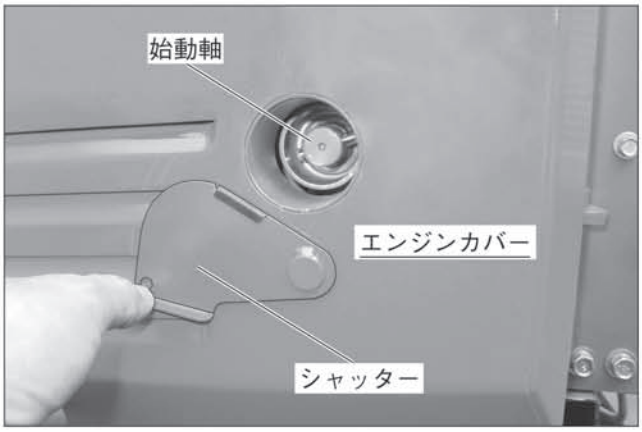
始動時は《**高**》の位置にします。

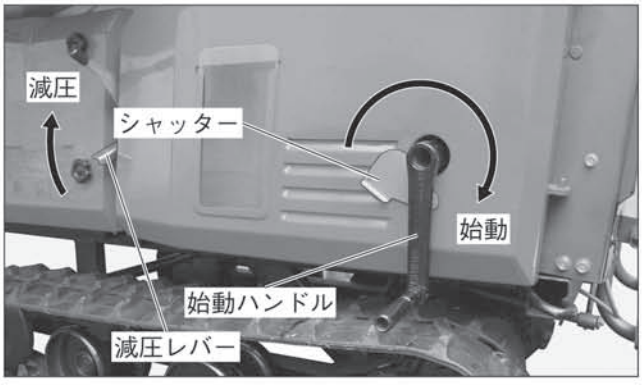


❸ 始動ハンドル

エンジンを手動で始動するときに使用します。エンジンカバーシャッターを回し，始動ハンドルを始動軸に差込み，減圧レバーを引上げて時計回り方向（矢印方向）に勢いよく回しエンジンを始動します。



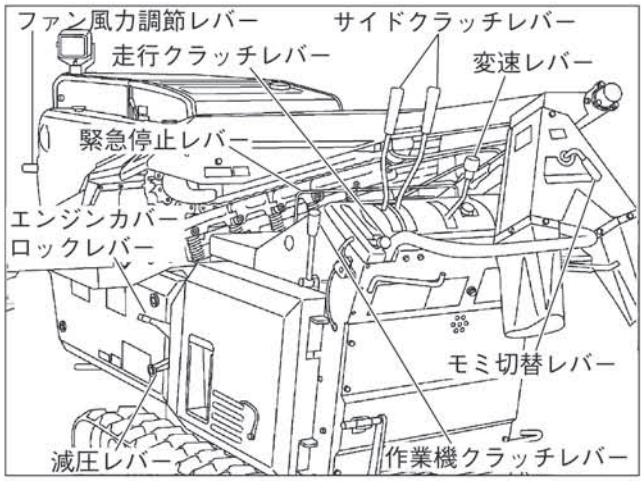




取扱いのポイント

- **走行クラッチまたは作業機クラッチが《入》のとき，エンジン始動はできません。**

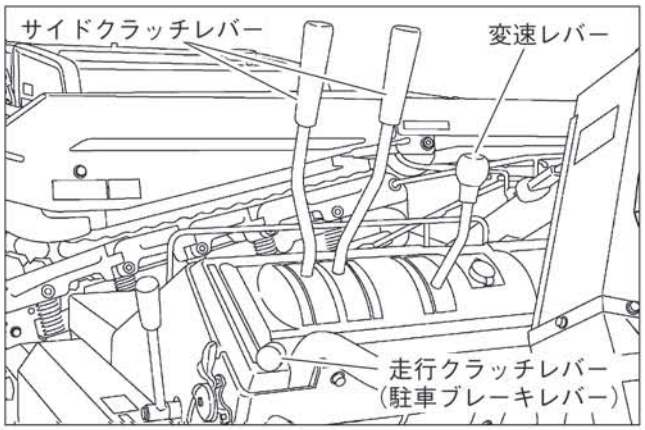
2．操作レバー関係



❶ 変速レバー

変速を前進3段《3》《2》《1》，中立《N》後進《R》に切り替えるレバーです。

前進	《3》（高速）	移動走行（路面の良い所）
	《2》（中速）	移動走行
	《1》（低速）	移動走行，自動車への積込み，あぜ越え
中立	《N》	エンジンの始動，停止時，格納時
後進	《R》	移動，自動車からの積降ろし，あぜ越え



❷ 走行クラッチレバー（駐車ブレーキレバー）

機械を走行，停止させる時に使用します。また，駐車ブレーキレバーとしても使用します。《入》位置にすると，エンジンの動力をトランスミッションへ伝え，機械が前進または後進します。

《切》位置にすると，エンジンの動力が断たれて機械が止まり，駐車ブレーキがかかります。

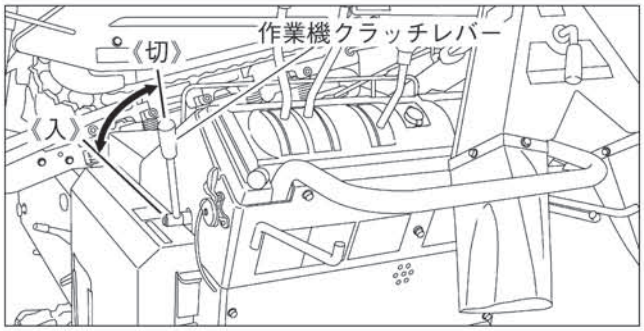
❸ サイドクラッチレバー

機体の方向を変えるときに使用します。旋回したい側のレバーを引くと，引いた側に機体が旋回します。

少し引くと引いた側のクローラへの伝達力が断たれ，さらに引くとクローラがロックされます。

❹ 作業機クラッチレバー

脱こく部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

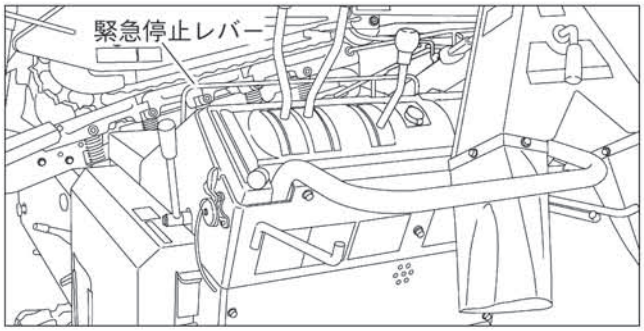


取扱いのポイント

- **作業中はエンジン低速回転では作業機クラッチレバーを《入》にしないでください。詰まりの原因となります。**
- **作業機クラッチレバーを《切》にするときはエンジンを低速回転にしないで，脱こく部を1～2分間空運転し脱こく内部のゴミや残留こく粒を排出してから《切》にしてください。**

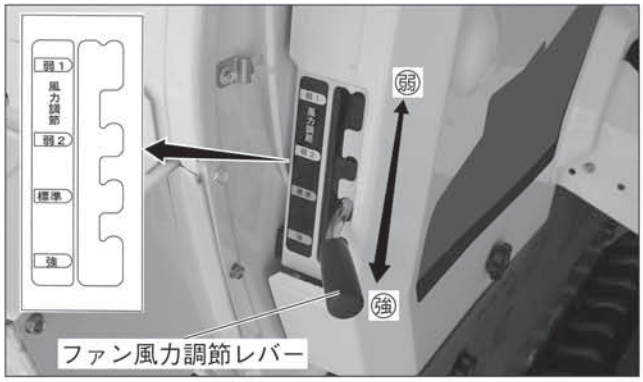
❺ 緊急停止レバー

脱こく作業中などに万一トラブルが発生した時に，緊急に脱こく部の運転を停止させるクラッチレバーで，操作しやすいループ型のレバーです。緊急停止レバーを《入》にした後は，作業機のクラッチレバーを《切》にすると戻ります。



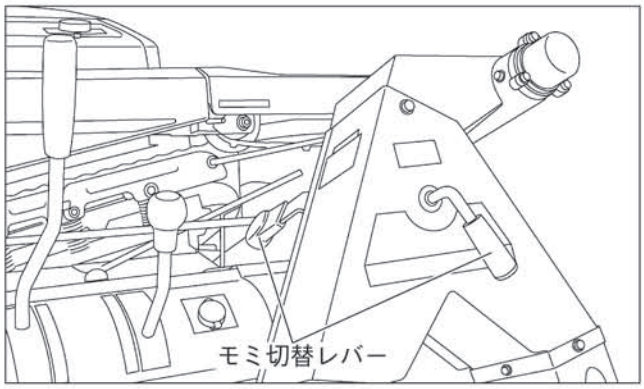
❻　ファン風力調節レバー

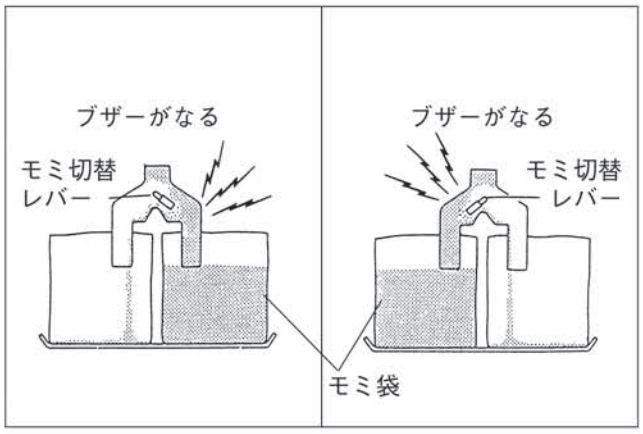
脱こく条件によってファンの風力を調節するレバーです。



❼　モミ切替レバー

モミが出る側を切替えるレバーです。レバーの向き側にモミが出ます。片側のモミ袋がいっぱいになると警報ブザーが鳴りますのでレバーを切替えます。脱穀作業者側からも切替ができます。



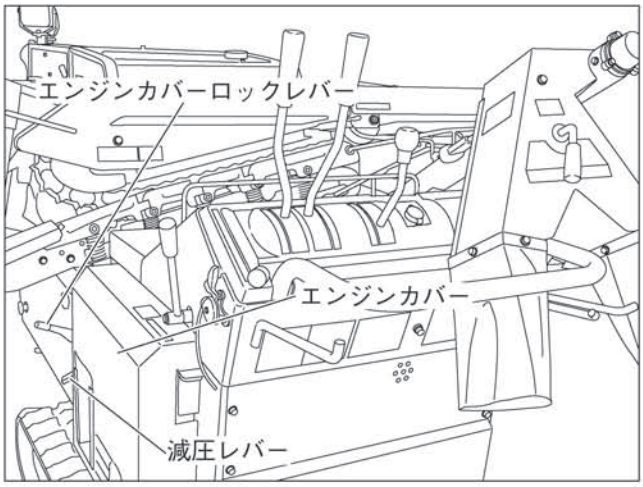


取扱いのポイント

- モミ袋を交換しないで作業をつづけると，両側のモミ袋がいっぱいになり，詰まりの原因になります。

❽　エンジンカバーロックレバー

エンジンカバーを閉めたときに，固定するレバーです。

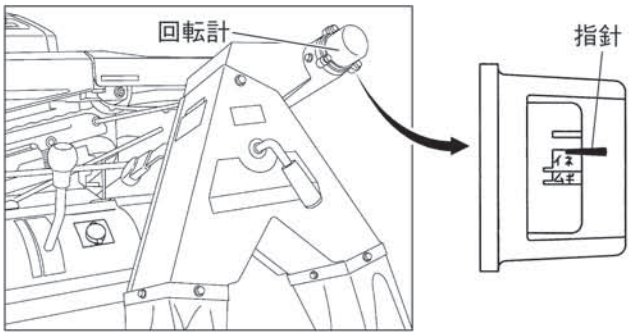


❾　減圧レバー

エンジンの始動を容易にする装置です。

3．計器関係

❶　回転計



こぎ胴の回転数を表示します。

こぎ胴回転数はエンジンを始動し，作業機クラッチレバーを《入》位置にして回転計の指針を見ながらエンジンコントロールレバーで作物に合わせて回転数を調整します。

「適正こぎ胴回転数」

- 稲・ビール麦……指針を《イネ》の上限に合わせます。
- 麦……指針を《ムギ》の上限に合わせます。

取扱いのポイント

- 損傷米が多いときは，こぎ胴回転計の指針を《イネ》の下限に合わせてください。

4. 電装関係

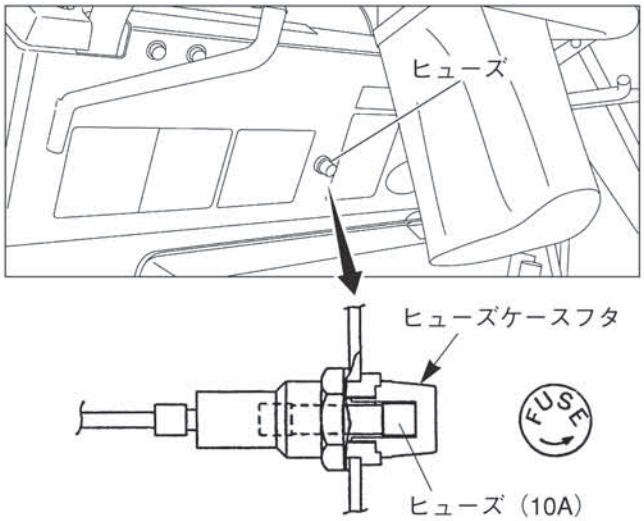
配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズおよびスローブローヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズおよびスローブローヒューズの状態をチェックします。

❶ ヒューズ（10A）

ヒューズが切れているとモミ警報ブザーは鳴りません。

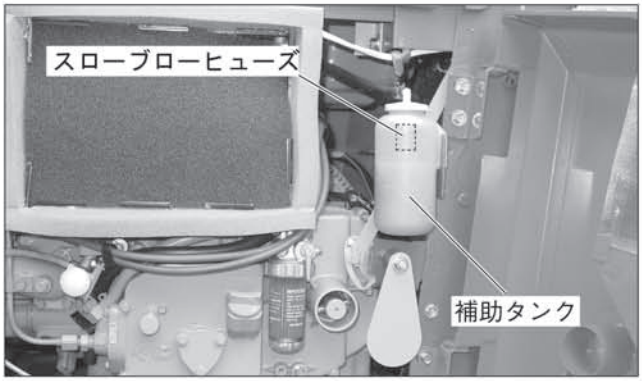
・交換はヒューズケースフタを矢印方向に回して取外します。



❷ スローブローヒューズ

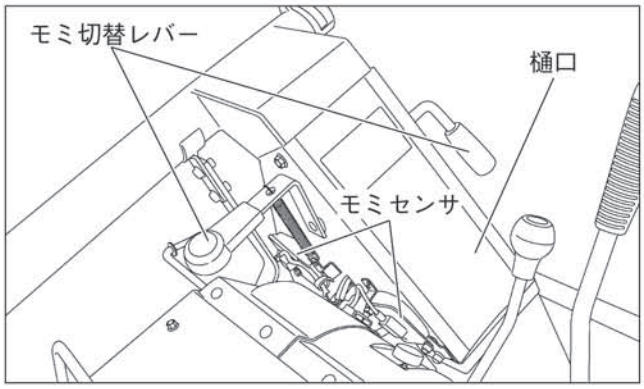
スローブローヒューズは補助タンクの裏側にあります。

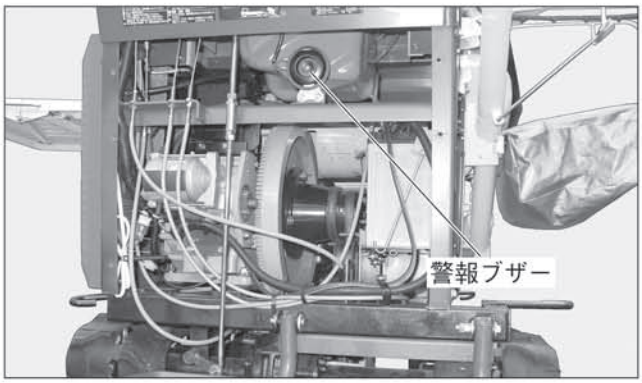
スローブローヒューズが切れるとすべての電気系統が作動しません。切れた原因を調べ修理後，純正部品のスローブローヒューズと交換します。



❸ モミセンサ，警報ブザー

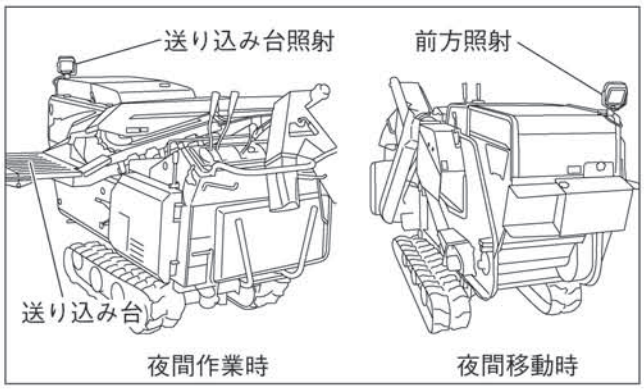
モミ袋がいっぱいになると，モミセンサが作動し警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったらただちにレバーを切替えてモミ袋を交換します。モミ袋を交換すると警報ブザーは鳴りやみます。

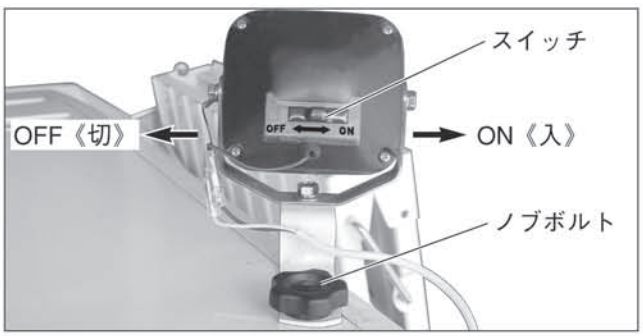




❹ 作業灯

夜間作業は送り込み台，夜間移動は前方を照射する様にノブボルトをゆるめてセットします。





運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参照して点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時には機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油をしないでください。

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。

◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷による燃料もれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，もれがあれば交換してください。

「運転まえの点検表」

No.	場　所	内　容	処　置	参照ページ
1	燃料タンク	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。 ・燃料ホースから燃料がもれていませんか。	・燃料を補給する。 ・ディーゼル軽油 ・タンク容量：7.0 L ・ホースを交換する。	31
2	ラジエータの冷却水	・冷却水がキャップの口元まで入っていますか。	・清水を補給する。 ・ラジエータ容量：1.6 L ・補助タンク：0.1 L	33
3	エンジンクランクケース	・オイルが汚れていませんか。 ・オイル面がケージの表示穴までありますか。	・オイルを補給する。 ・ディーゼルエンジン用オイル ・オイル量：2.3 L	28
4	エアクリーナ	・ダストカップとエアクリーナカバー内部にちりやほこりがたまっていませんか。	・掃除する。（エレメントの注意書を参照してください。）	30
5	エンジンカバー（左・右），ラジエータ防じんフィルタ	・ワラクズが目詰まりしていませんか。	・掃除する。	34
6	走行クラッチ（駐車ブレーキ）	・走行クラッチが切れますか。 ・駐車ブレーキがかかりますか。	・ワイヤ調整する。	37
7	サイドクラッチ（左・右）	・サイドクラッチが左・右とも切れますか。	・ワイヤ調整する。	37
8	緊急停止レバー	・作業機クラッチレバーが「入」状態で，脱こく部の緊急停止がききますか。	・作業機クラッチワイヤを調整する。	38
9	各レバー，ワイヤの摺動部	・スムースに動きますか。 ・油キレしていませんか。	・注油する。	37～40

2．エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジンを始動する前に点検・整備などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆このハーベスタには，エンジン始動時の安全装置が装備されています。走行クラッチレバーと，作業機クラッチレバーを《切》にしないとエンジンが始動できません。
手動でのエンジン始動時は，走行クラッチレバーと，作業機クラッチレバーを《切》にしないと始動ハンドルが差込めないため，エンジンが始動できません。走行クラッチレバーと，作業機クラッチレバーが《切》，変速レバーが《N》(中立) になっていることを確かめてから，エンジンを始動してください。
◆屋内で始動する時は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意

◆始動ハンドルを回す時は，周囲に人や障害物がないか確認してください。
◆エンジンが始動したら，手回しを止め，始動ハンドルを抜取ってください。

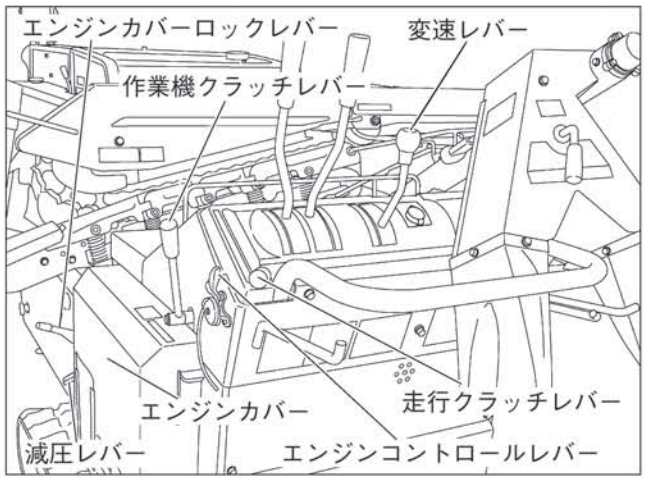
1．エンジン始動のしかた

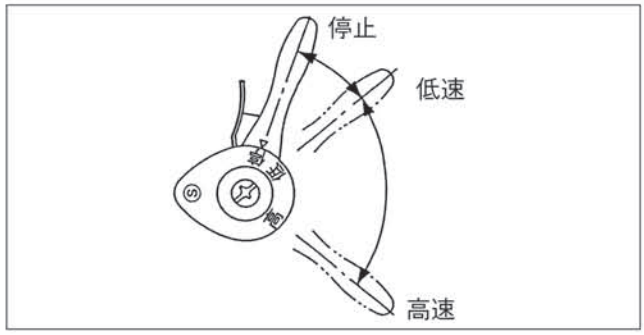
手動での始動のしかた

❶ 変速レバーを《N》(中立) の位置にします。

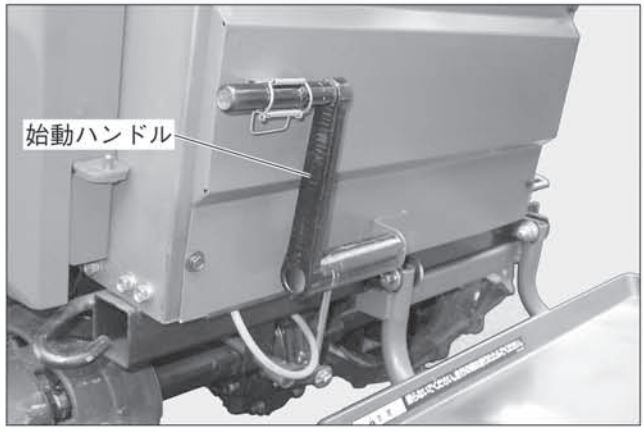
❷ 走行クラッチレバー・作業機クラッチレバーを《切》の位置にします。

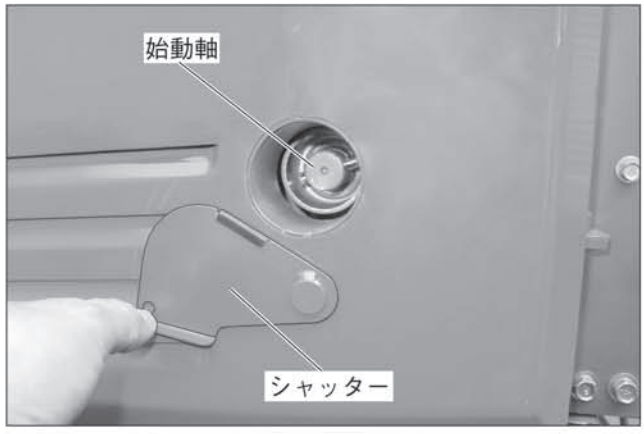
❸ エンジンコントロールレバーを《高》(高速) の位置にします。

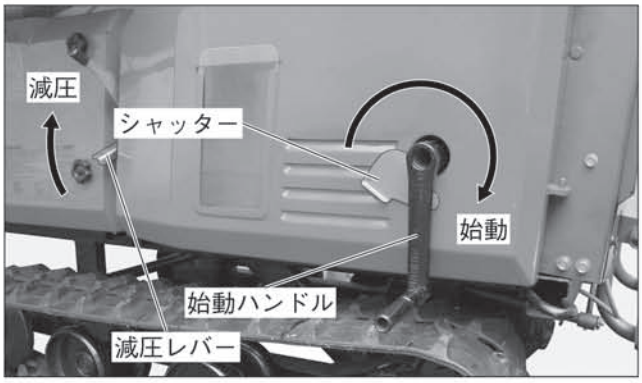




❹ 始動ハンドルを外してエンジンカバーのシャッターを回し，始動ハンドルを始動軸に差込み，左手で減圧レバーを引上げます。(矢印の方向)







❺ 右手で始動ハンドルを時計回り方向（矢印方向）に勢いよく回し，回転力がついたら減圧レバーをはなし，さらに力を入れて始動するまで回します。

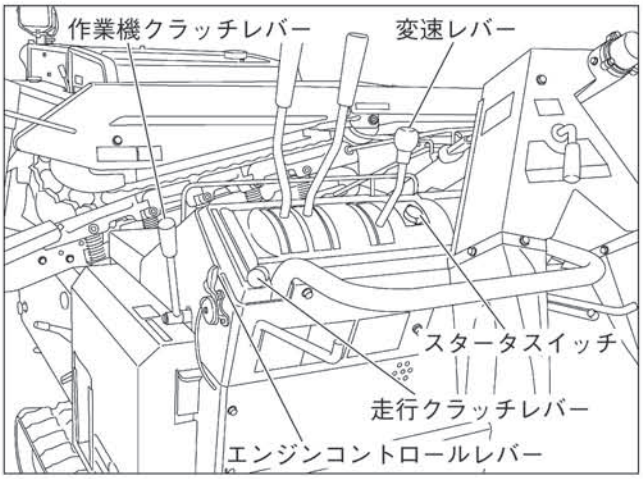
❻ エンジンが始動したら手回しを止め，始動ハンドルを抜取り，もとの位置に納めます。

❼ 始動後，エンジンコントロールレバーを《**低**》（低速）の位置にしてしばらく暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **走行クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にしないと，エンジン始動安全装置が作用して，始動ハンドルが差し込めないため，エンジンを始動することができません。**

［セルスタータでの始動のしかた］



❶ 変速レバーを《**N**》（中立）の位置にします。

❷ 走行クラッチレバー・作業機クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸ エンジンコントロールレバーを《**高**》（高速）の位置にします。

❹ スタータスイッチを右に回して《**運転**》，さらに《**始動**》の位置にするとセルモータが回転してエンジンが始動します。

❺ エンジンが始動したらスタータスイッチから手をはなします。始動後，しばらくエンジンコントロールレバーを《**低**》（低速）の位置にして暖機運転をします。

「セルスタータが使用できないとき」

バッテリの容量低下でセルスタータが使用できない時は，始動ハンドルでエンジンを始動することができます。この時，走行クラッチレバー，作業機クラッチレバーは《切》にしてください。

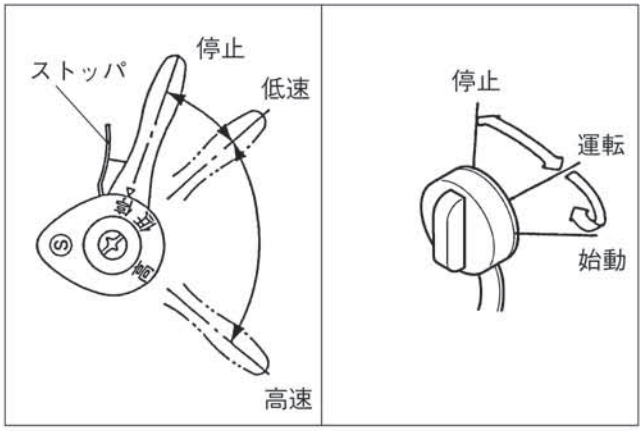
取扱いのポイント

- スタータスイッチは連続使用しないでください。10秒たっても始動しないときは，いったんスイッチを切って，30秒ほど停止してから再度スタートしてください。
- エンジン始動後は，エンジンコントロールレバーを《低》位置にし，約５分間暖機運転してください。

2．エンジンの停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーのストッパを動かして《停》（停止）の位置にします。

❷ スタータスイッチを《停止》の位置にします。



取扱いのポイント

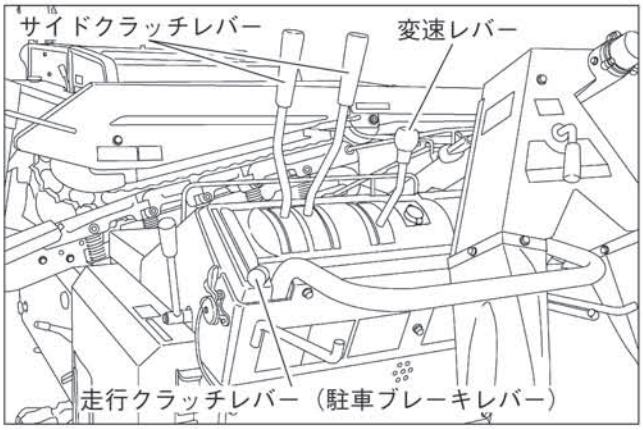
- スタータスイッチを《停止》にしてもエンジンは停止しません。エンジンコントロールレバーを《停》の位置にしてください。
- エンジン停止後はスタータスイッチを《停止》の位置にしてください。バッテリが放電します。
- 作業終了後エンジンを停止するときは，２～３分間低速回転で冷却運転を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。

3．運転のしかた

1．発進・旋回のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆発進するときは周囲を確認してからゆっくり行なってください。
◆旋回する時はエンジンコントロールレバーでエンジン回転を低速にして，周囲を確認して行なってください。
◆変速レバーは走行クラッチレバーを切って操作してください。
◆高速で走行しているときは，サイドクラッチレバーを操作しないでください。



❶ 始動直後はエンジンの温度が低く，オイルが各部にゆきわたっていないので「**暖機運転**」(約５分間）を励行します。

❷ 変速レバーを走行する条件に合わせた位置にセットし，エンジンコントロールレバーを《**低**》（低速）にし走行クラッチレバーを《**入**》にすると発進します。

前進	《3》（高速）	移動走行（路面の良い所）
	《2》（中速）	移動走行
	《1》（低速）	移動走行，自動車への積込み，あぜ越え
中立	《N》	エンジンの始動，停止時，格納時
後進	《R》	移動，自動車からの積降ろし，あぜ越え

❸ 発進後はエンジンコントロールレバーで走行速度を調整します。

❹ 機械の方向を変える時は，エンジンコントロールレバーを《**低**》（低速）にし旋回する側のサイドクラッチレバーを引きます。

さらに強く引くとサイドブレーキが作用し，機械が「**急旋回**」します。

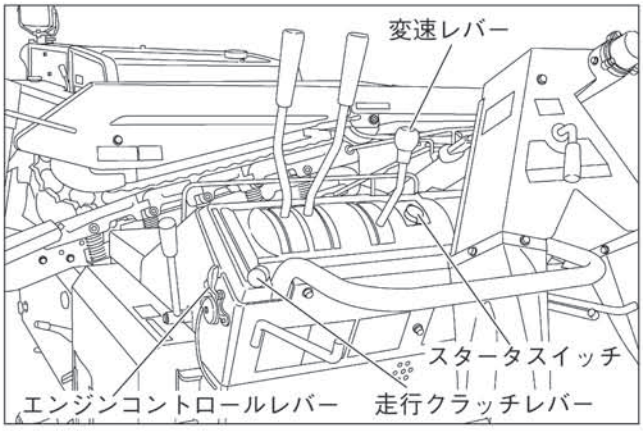
取扱いのポイント

●**変速レバーが入りにくいときは，変速レバーを《N》(中立）にして走行クラッチレバーを「入」「切」の操作を行い，《切》にしてあらためて変速をしてください。**

2．停車のしかた

⚠警告 火災・傷害事故防止のために

◆燃えやすいものの近くには止めないでください。
◆機械は平坦な場所を選んで止めてください。
◆坂道では駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車するときはクローラに「歯止め」をしてください。
◆機械から離れる時は，平坦な場所に置き走行クラッチレバーを《切》（駐車ブレーキ）の位置にしてエンジンを停止してください。



❶ 走行クラッチレバーを《**切**》（駐車ブレーキ）にします。

❷ 変速レバーを《**N**》（中立）にします。

❸ エンジンコントロールレバーのストッパを動かして《停》（停止）の位置にします。
❹ スタータスイッチを《停止》の位置にします。

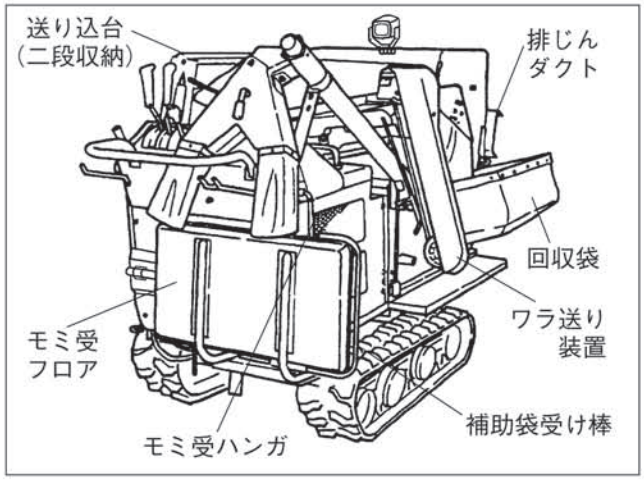
3．移動走行のしかた

●走行するときは，つぎのことを守り「**安全な速度**」で運転します。

⚠警告 ◆この機械は「道路運送車両法」に適合していませんので，公道は走行できません。
公道を移動する時は自動車（トラック等）にのせて輸送してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆移動走行する前に，補助袋受け棒は収納しモミ受フロアは折りたたんでください。また，機械の上には人(子供等）や物（モミ等）をのせないでください。
◆各操作レバーは正しく操作し，わき見運転や片手運転はしないでください。接触や転落の原因になることがあります。
◆坂道や凸凹，カーブの多い道路では，高速運転はしないでください。
◆高速で走行するときは，サイドクラッチレバーを操作しないでください。操作すると急旋回し事故を起こすことがあります。
◆側溝のある農道や，両側が傾斜している農道を走行するときは，路面を確認してください。路肩がくずれて転倒し傷害事故を起こすことがあります。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行してください。
◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆急な坂道では，変速レバーを《N》（中立）位置にしたり，サイドクラッチレバーや走行クラッチレバーを《切》位置にしないでください。エンジンブレーキがきかなくなり，暴走することがあります。
◆溝やあぜを横断したり，軟弱な場所を通るときには,「低速」にしてください。高速運転では，スリップや転倒の原因になります。
◆砂利道など路面が悪いところでは，低速または，自動車（トラック等）で運搬をしてください。



❶ 作業機クラッチレバーは《切》の位置にします。
❷ ワラ送り装置は収納状態にし，回収袋は取外します。
❸ 送り込台（手こぎ台）は，上へ折りたたみます。(二段収納)
❹ モミ受フロアを上へ折りたたみます。
❺ 補助袋受け棒を収納します。
❻ 排じんダクトを折りたたみます。
❼ モミ受ハンガを収納します。

取扱いのポイント

- **ほ場間を移動するときは，路面の凹凸状態にあった速度を選んで機械に大きな振動やショックがかからないよう走行します。**
- **距離のある移動には自動車等を利用して運搬します。**

4. 自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

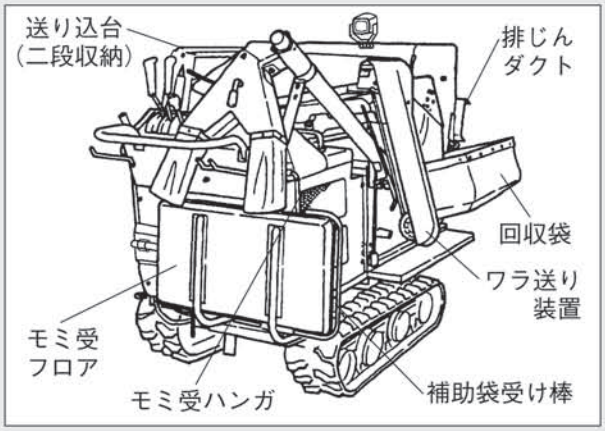
⚠警告 傷害事故防止のために

◆アユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び，自動車（トラック等）は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を「後進」(バック) に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅)，長さ（荷台高さの 4 倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用してください。

◆アユミのフックは段差のないように，またはずれないように荷台に平行にかけてください。

◆自動車への積込み・積降ろしの時は「回収袋」を取外し，「送り込台」・「排じんダクト」・「モミ受フロア」・「モミ受ハンガ」・「ワラ送り装置」「補助袋受け棒」を収納状態にしてください。



◆積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行なってください。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。補助者は機械の直前には立たないでください。また機械の周囲に人を近づけないでください。

◆自動車への積込み・積降ろし中はアユミの上で，サイドクラッチ，走行クラッチ，変速の各レバーは操作しないでください。急に方向転換したりして転落する恐れがあります。

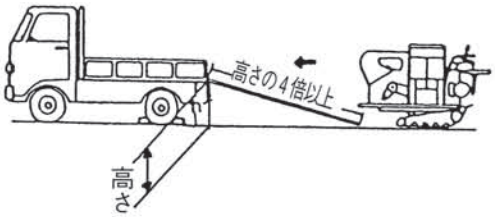
◆アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。機械がアユミの上に乗り始めたら離れてください。

◆機械が自動車に乗る直前や降りる直前では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗ってからまたは，降りてから近づいてください。

◆積込みが終わったら機械のフレームの四隅のフックにロープまたはワイヤをかけ機械を固定してください。

◆このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車とアユミについて



❶ 積載重量を超えない自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ変速を後進に入れタイヤに「**歯止め**」をします。

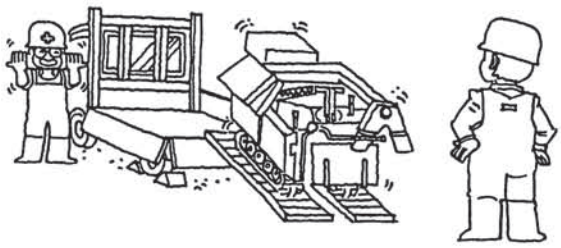
❸ アユミは自動車の荷台高さの４倍以上の長さ，機械の重量に合った強度と幅があり，すべり止め・フック付きのものを使用します。

❹ アユミは左右のクローラ位置に合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにし，「**横ずれ**」したり，「**はずれ**」たりしないように確実にかけます。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	30㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が250kg以上の重量にたえるもの

2．ハーベスタの扱いかた



❶ エンジンコントロールレバーを《**低**》（低速）にします。

❷ 積込みは《**前進**》，変速レバー位置は《１》（低速）で行い，積降ろしは《**後進**》，変速レバー位置は《R》（後進）で行います。

❸ 積込み，積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作をしないように発進前に左右のクローラをアユミにまっすぐにセットします。

❹ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

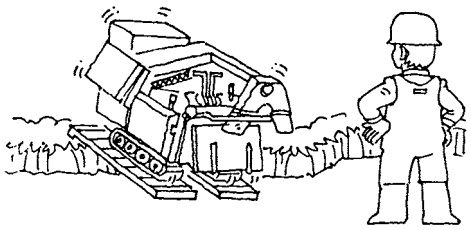
❺ 機械がアユミの上に乗り始めたら機械から離れます。

❻ 自動車に積込みが終わったら，走行クラッチレバーを《**切**》（駐車ブレーキ）位置にし，クローラに「**歯止め**」をし，ロープを機械の四隅の「**フック**」にかけて固定します。

5．ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆あぜ越えは，アユミを使用し「低速」であぜに「直角」に行なってください。
◆急傾斜・溝越えはアユミを使用してください。
◆アユミを使用する時は，「自動車への積込み・積降ろし」の内容に従って行なってください。（15～16ページ参照）
◆ほ場への出入り・アユミの上ではサイドクラッチ操作や変速操作をしないでください。
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。



❶ ほ場への出入りは「**アユミ**」を使用しあぜに「**直角**」に行います。
❷ 変速レバーは《1》（低速）でエンジンコントロールレバーを《**低**》（低速）にして行います。
❸ 急傾斜，溝越え，ほ場への出入りは「**アユミ**」を使用します。
❹ アユミを使用する時は，「**自動車への積込み・積降ろし**」（15～16ページ参照）の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

・ほ場や作物の条件が脱こく作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。それぞれの条件を整えて，機械をその条件に合った状態にセットして作業に入ります。

1．作物の条件について

❶　作物の乾燥

ぬれた作物（雨あがり・朝露）又は、刈取直後の作物は以下のような原因になりますので，乾燥（手でしごいてぬれない程度）するのを待ってから作業をします。

・能率があがらない
・選別不良
・詰まりやすい
・乾燥処理時間の増加

❷　病害虫におかされた作物

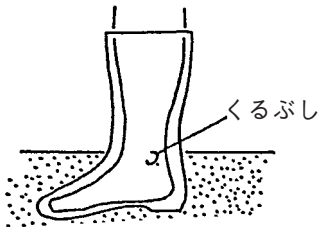
病害虫におかされた作物は以下のようなことがありますので，エンジン回転速度を守り供給の速度をおそくして行います。

・こく稈が折れやすい
・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶　湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「**くるぶし**」（10㎝）までは作業ができます。

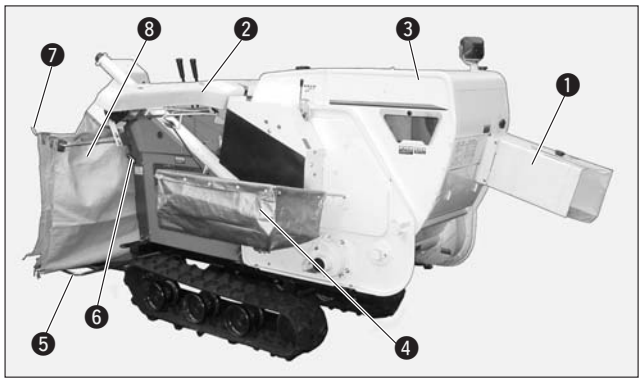


取扱いのポイント

- **機械の沈下を少なくするには，一度通ったクローラの跡はなるべく通らないようにしてください。**
- **作業がやりやすいように，なるべくほ場を乾かしてください。**

3．機械のセット

次の８ケ所を「**作業状態**」にセットします。



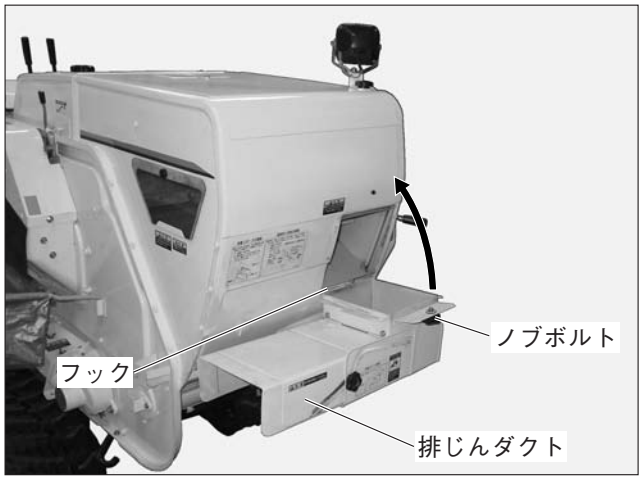
つぎの個所は移動走行，格納時は収納状態にしてあります。

作業まえに作業状態にセットします。

❶　排じんダクト

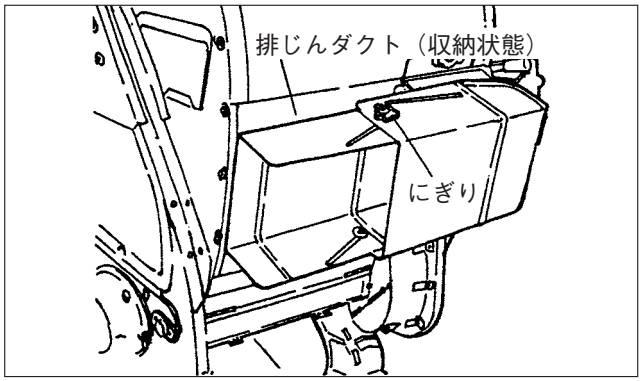
⑴　排じんダクトを取付ける。

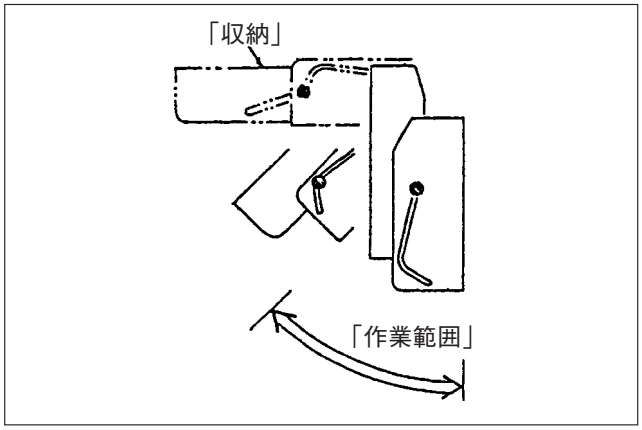
ダクトのフックを脱こく機前方の取付け穴に引っかけた後，ダクトを上方に回転させ，上部の取付けノブボルトで固定します。



⑵　作業状態にセットする。

ダクトを固定しているにぎりをゆるめ，風向き等を考慮して，「**作業範囲**」内の適切な位置に調整し固定します。





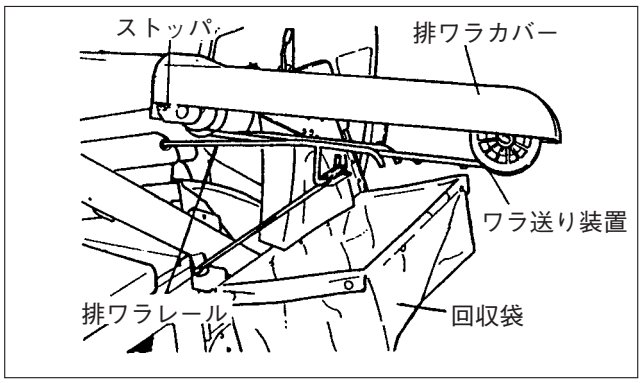
取扱いのポイント

- **排じんダクトを収納状態のまま使用すると，脱こく部の詰まりが発生します。作業する時は，ダクトを作業範囲に広げてください。**

❷ ワラ送り装置のセット

ワラ送り装置はワンタッチでセットできます。そのままストッパがかかる位置まで持上げます。

収納するときはストッパを手で外して下方へ折りまげます。

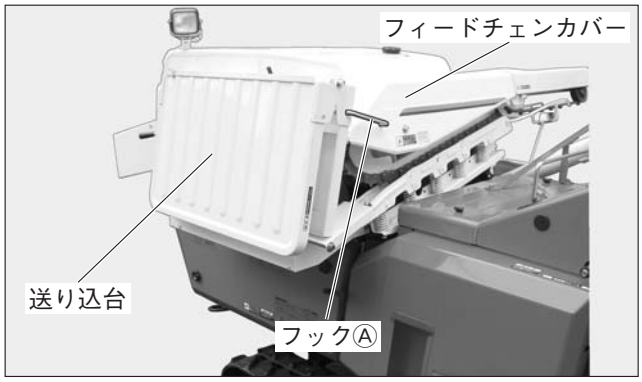


❸ 送り込台のセット

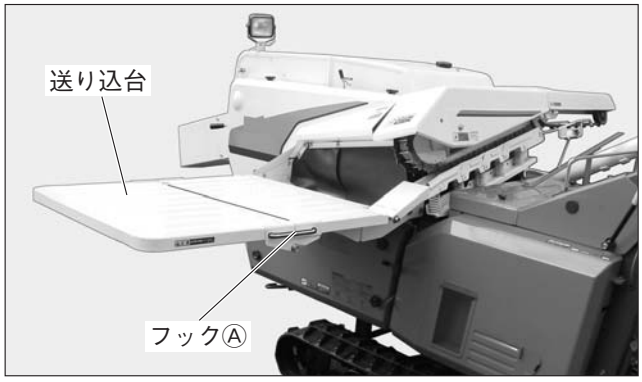
送り込台はフックⒶをフィードチェンカバーから外し，下方に倒します。

つぎに外側の送り込台をもち上げ，フックⒶ，Ⓑを差込めば通常の作業状態になります。

「収納状態」

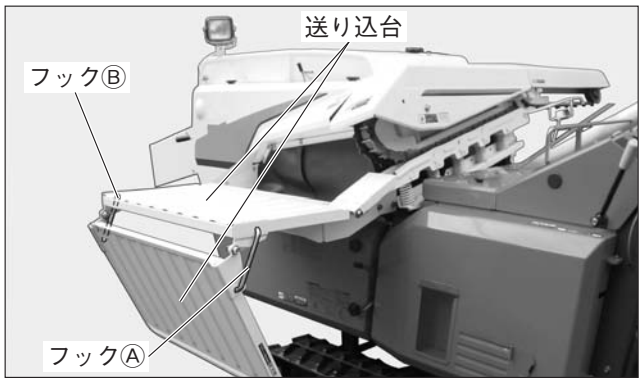


「通常の作業状態」



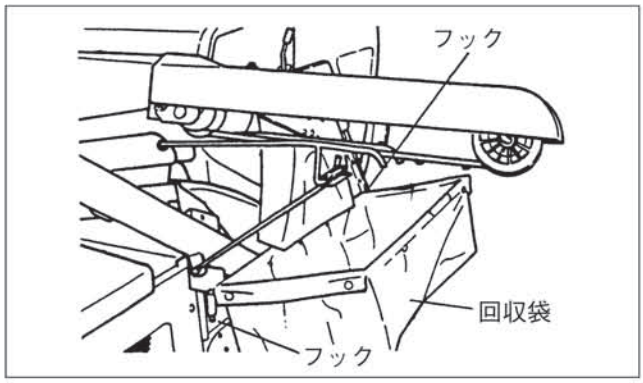
「狭い場所での作業状態」

狭い場所で作業するときはこの状態でフックⒶ，Ⓑを差込んで使用できます。



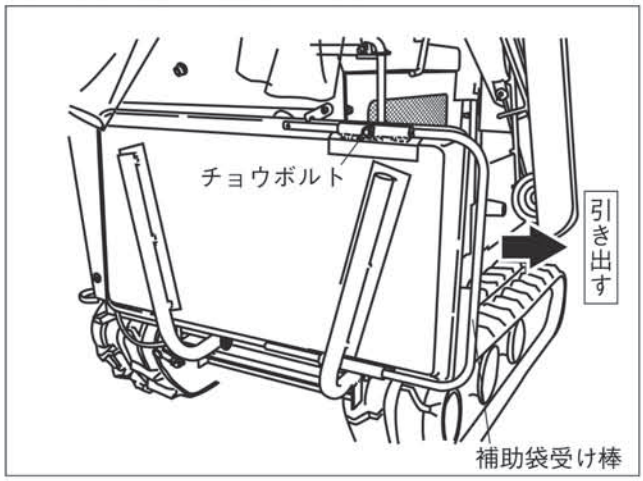
❹ 回収袋のセット

排ワラ出口部に回収袋のフックを差込みセットします。



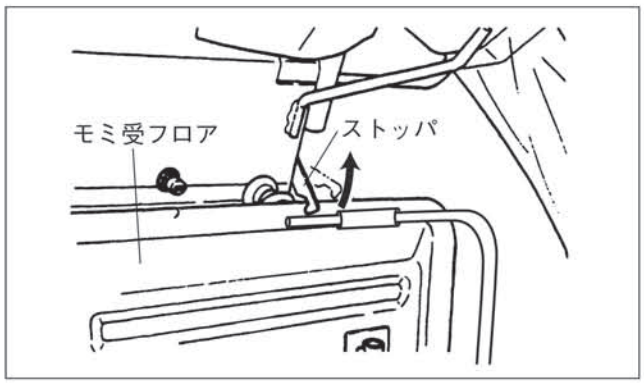
❺ 補助袋受け棒のセット

チョウボルトをゆるめて補助袋受け棒をいっぱいに引き出しチョウボルトで固定します。



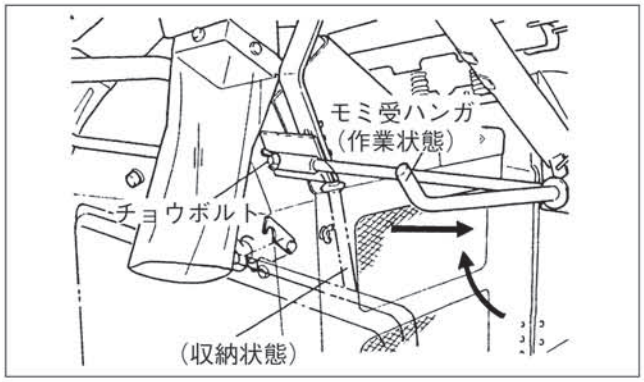
❻ モミ受フロアのセット

モミ受フロアはストッパを上方に持上げ，フロアを下方に倒します。



❼ モミ受けハンガのセット

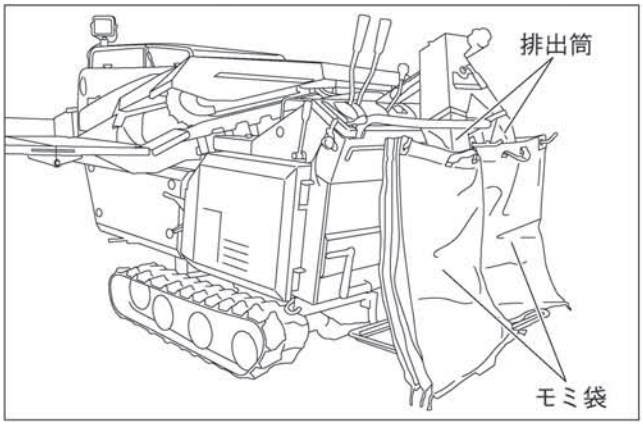
チョウボルトをゆるめてハンガを引き出しながら上方に持上げ，作業状態になったことを確認して，チョウボルトで固定します。



❽ モミ袋のセット

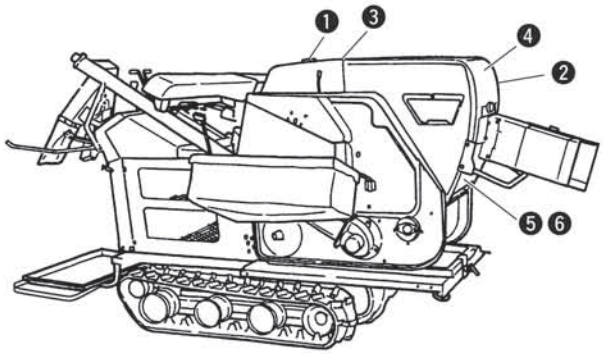
(1) モミ受ハンガの両側に同数のモミ袋を掛け，袋のチャックはすべて開けておきます。

(2) 左右の一番手前のモミ袋に吐出筒（ビニール筒）の先を中に入れます。



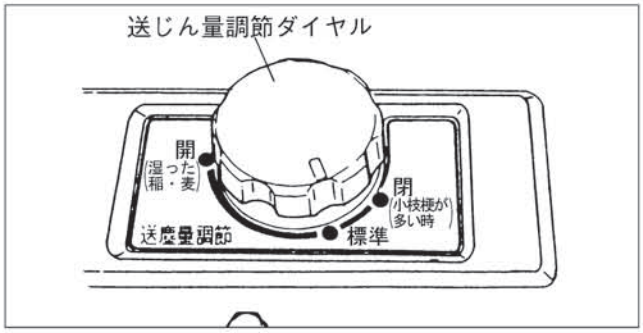
4．各調節部の調整

次の 6 ケ所の調節部を作業及び脱こく材料の条件によって調整します。



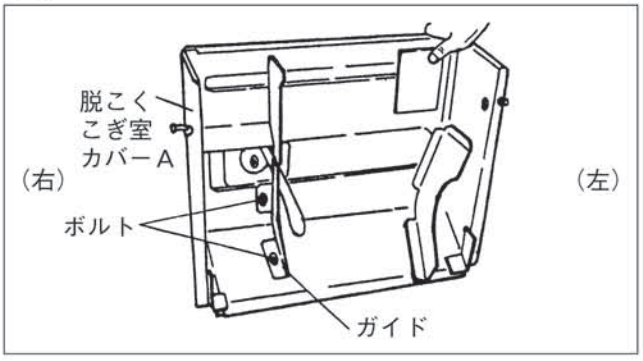
❶ 送じん量の調節

作業に応じて送じん量調節ダイヤルを切替えます。



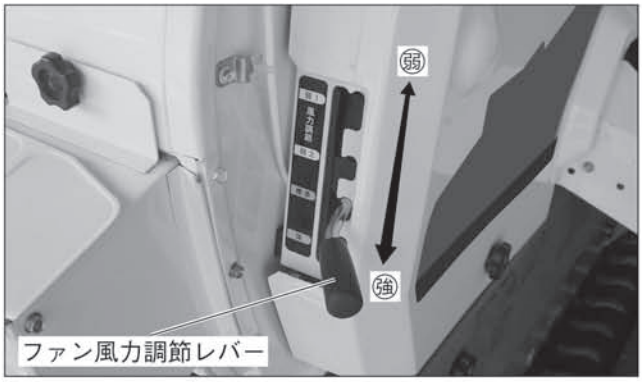
送じん量調節ダイヤル位置	作　業　条　件
開	湿った稲・麦
標　準	通常脱こく
閉	小枝梗が多い時
	3 番飛散が多い時

もみ水分の多い稲の作業で能率を上げるときは脱こくこぎ室カバーA裏側のガイドを 2 個所のボルトを外して取外します。(ガイドを取外したあとは付属品袋の中のナットを利用して穴をふさぎます。)



❷ ファンの風力調節

脱こく材料条件によって，レバーを所定のノッチに合わせ吸引ファンの風力を調節します。



レバーの位置	材　料　条　件
弱1	・低能率で作業するとき
弱2	・3 番飛散が多いとき
標準	・稲・乾燥材料
強	・稲・もみ水分の多い材料 ・麦・標準 ・詰まりが発生するとき

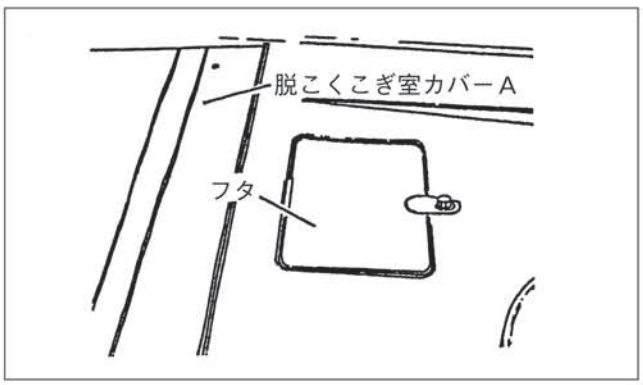
風力調節

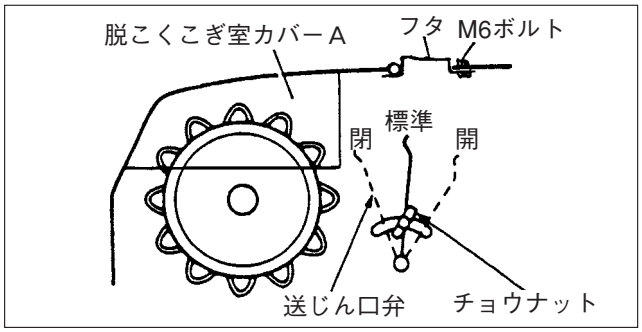
❸ 送じん口弁の調節

つぎの条件で調節する場合は，脱こくこぎ室カバーA，フタの順で外し，内部にあるチョウナットをゆるめ，送じん口弁を調節します。

・能率を上げたいときは《**開**》にセットします。

・乾燥材料で低能率作業の時のみ，3 番飛散が多い場合は《**閉**》にセットします。





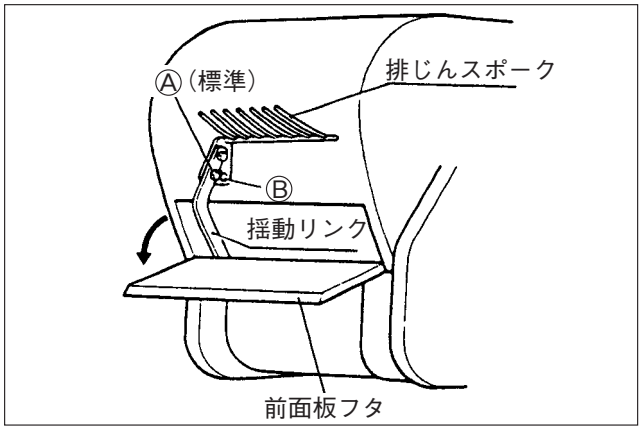
（工場出荷の時は「**標準**」セットにしてあります。）

❹ 排じんスポークの調節

もみ水分の多い稲，麦作業のとき，または排じんが悪いときはつぎのように排じんスポークを調節します。

⑴ 前面板フタをあけます。

⑵ 標準位置Ⓐに止めてあるボルトを外し，揺動リンクをⒷ穴にボルトを取付けてスポークを上げます。



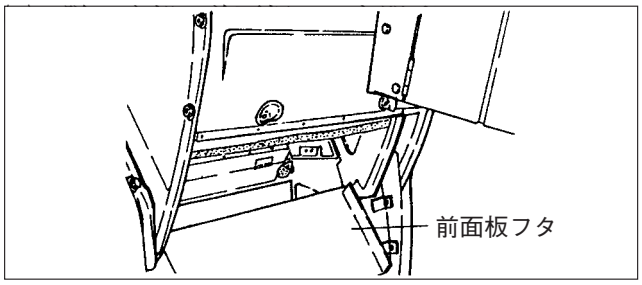
❺ 揺動板の稲・麦の調節

・**稲セット**……稲の脱こく作業

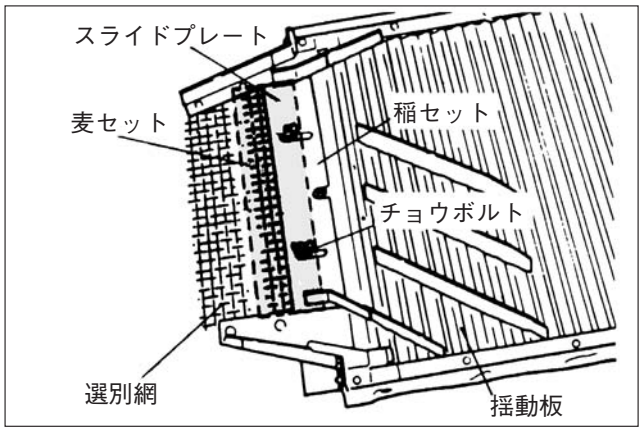
・**麦セット**……麦の脱こく作業，または稲でモミの中に穂切れ，枝梗（しこう），切ワラの混入が多い時

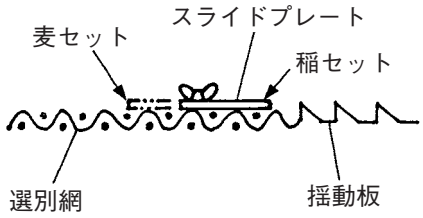
（工場出荷の時は「**稲**」セットにしてあります。）

麦脱こく作業をする時，脱こく部揺動板のスライドプレートをいっぱい引出し麦セットにします。



⑵ 揺動板の選別網後方のチョウボルトをゆるめ，揺動板側（稲セット）に調整されているスライドプレートをいっぱい引出し（麦セット），チョウボルトを締付けます。



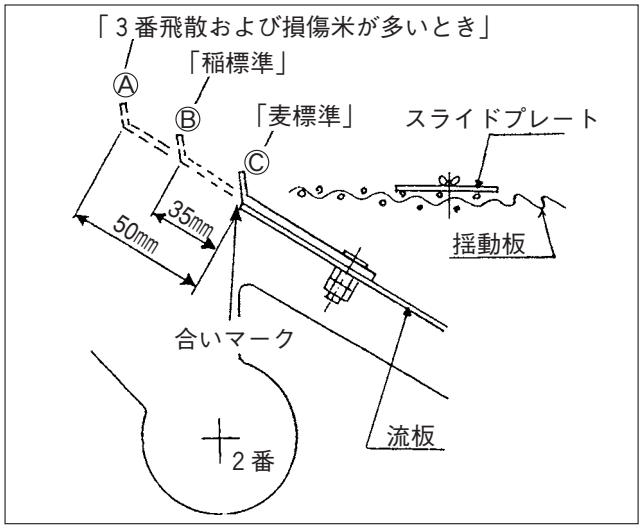


❻ 流板の調整

・工場出荷は「**稲標準**」Ⓑにセットしてあります。（合いマーク位置）

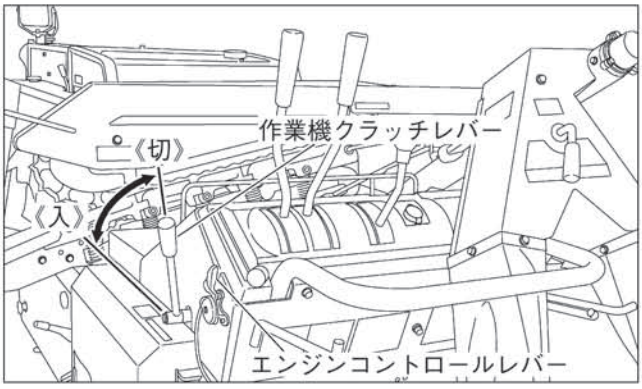
・「**麦標準**」は，Ⓒの位置にいっぱい押込みセットします。

・「**3番飛散および損傷米が多いとき**」は，Ⓐの位置にいっぱい引出して作業します。



2．脱こく作業のしかた

1．こぎ胴回転の調整



❶ エンジンを始動します。

❷ 作業機クラッチレバーを《**入**》れます。

❸ 回転計を見ながら「**こぎ胴回転数**」が適正回転になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。

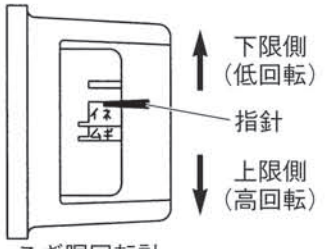
「適正こぎ胴回転数」

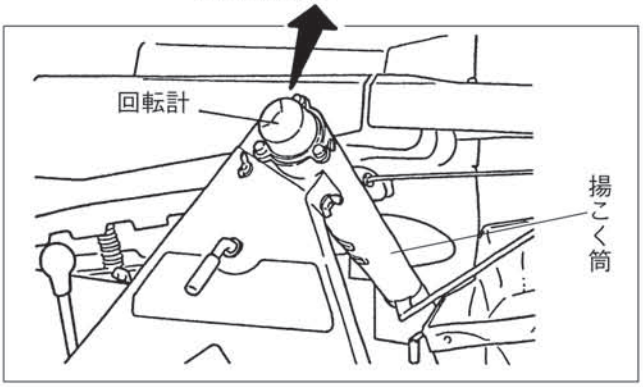
・**稲・ビール麦……**

・指針を《**イネ**》の上限に合わせます。

・**麦……**

・指針を《**ムギ**》の上限に合わせます。





取扱いのポイント

● 損傷米が多いときは，こぎ胴回転計の指針を《イネ》の下限に合わせてください。

2．脱こく作業のしかた

「こぎ胴回転数」が調整できたら，次の要領で脱こくします。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を移動しながらの脱こく作業はしないでください。機械を停止して行なってください。

◆ワラやワラクズの上で作業をしないでください。火災の原因となることがあります。

◆手や衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れたりしないでください。

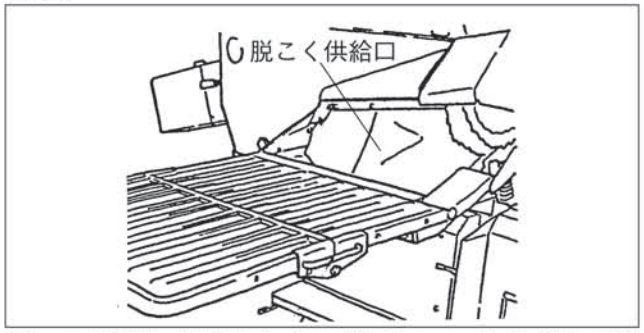
◆脱こく作業をする時は手袋をしないでください。

◆回転部に付着したゴミ，雑草，ワラクズなどの除去は，衣服が巻込まれたり手をはさまれたりすることがありますので，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆脱こく作業中など万一トラブルが発生した時は，緊急停止レバーを押して脱こく作業を停止してください。

◆作業機クラッチレバーを《入》れる時や移動する時は，補助者や周囲の人に合図をしてから行なってください。

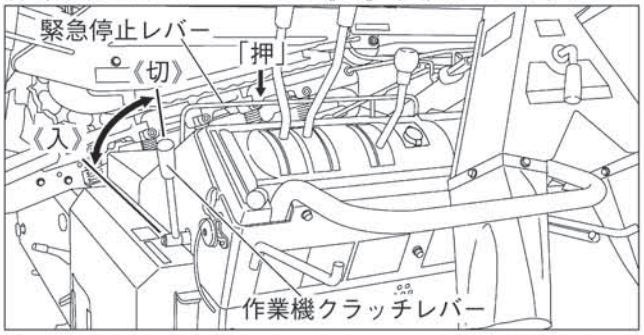
❶ 脱こく材料は供給口より一定間隔でこぎ入れます。



❷ こぎ残しが発生しない範囲で，できるだけ「**浅こぎ**」をします。

❸ 穂先を拡げながら穂先が少し先行するようにフィードチェンに供給します。

❹ 脱こく作業中に，万一トラブルが発生し「**緊急に作業を中止**」する必要がある場合は**緊急停止レバー**を押すと，脱こく部が止まります。その後，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にします。

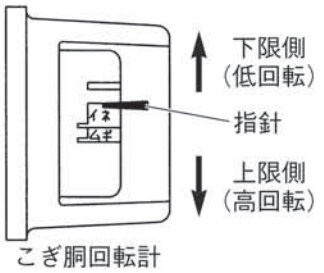


❺ 回収袋のクズを処理する場合等クズはかためて入れないで，ほぐしながら投入します。

❻ 脱こく後のワラは順次取除き，たい積しないようにします。

取扱いのポイント

- セットしたこぎ胴回転数が下限より下がるような過負荷運転はしないでください。詰まりの原因となります。
- 脱こく作業中，作業機クラッチレバーはエンジン低速回転では「入」れないでください。詰まりの原因となります。
- 作業機クラッチレバーを「切」るときはエンジン回転を低速にしないで，脱こく部を１～２分間空運転し脱こく内部のゴミや残留こく粒を排出してから「切」るようにしてください。
- もみ水分の多い材料を扱ぐときは，結束したヒモを切ってから扱いでください。
- 損傷米が多いときは，こぎ胴回転計の指針を《イネ》の下限に合わせてください。



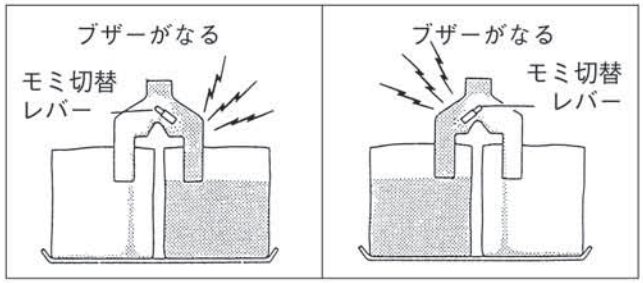
- 緊急停止レバーで脱こく作業を停止した時に作業機クラッチレバーを《切》にしてください。再び，作業機クラッチレバーを《入》にすると再始動します。

3．収こく操作のしかた

❶ 図のようにモミは片側から収こくされます。片側のモミ袋がいっぱいになると警報ブザーが鳴ります。

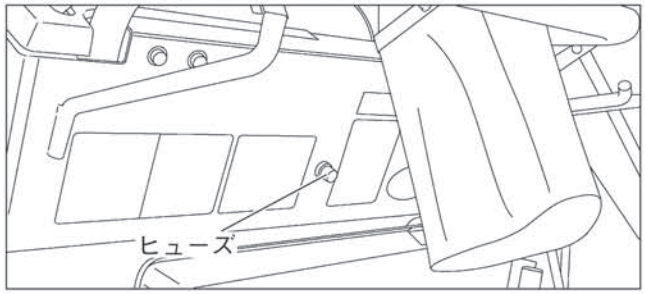
警報ブザーが鳴ったらただちにモミ切替レバーを切替えます。

❷ 切替えが終わったら，いっぱいになったモミ袋を交換します。（警報ブザーは鳴りやみます。）



取扱いのポイント

- 交換しないで作業をつづけると，両側のモミ袋がいっぱいになり，詰まりの原因になります。
- モミ袋がいっぱいになっても警報ブザーが鳴らないときは，ヒューズが切れていないか，端子の外れがないか確認してください。（８ページ参照）



手入れのしかた

1．定期点検整備のしかた

正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態を保つように「**定期点検整備表**」に従って定期的に点検し必要により掃除・調整・整備を行います。

取扱いのポイント

- **部品または機械を廃却する時は，「お買いあげ先」にご相談ください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

「**定期点検整備表**」（○：点検，●：交換）

分類	点検項目	シーズン前	運転前	50時間ごと	100時間ごと	格納時	整備内容	参照ページ
エンジン関係	(1) エンジンクランクケースの油量	○	○	●（初回のみ）	●		補給・交換	28
	(2) ラジエータ冷却水	○	○			○（抜取りまたは不凍液を入れること）	補給	33
	(3) エアクリーナ	○	○			○	掃除・エレメントは300時間ごとに交換	30
	(4) 燃料フィルタ		○		○（掃除）	○	掃除・交換	31
	(5) 燃料ホースの劣化ともれ	○	○			●	2シーズン毎交換	31
	(6) 燃料タンクの燃料	○	○			○（満タン）	補給	31
	(7) エンジンカバーとラジエータ防じんフィルタ	○	○			○	掃除	34
	(8) エンジンファンベルト	○				○	張り調整	38・49
電装部	(9) バッテリの液量	○				○	補給	41
	(10) 組配線の損傷	○				○	修復	—
	(11) 配線接続部の外れ	○					接続	8
	(12) 計器類の作動	○						7・23
走行部関係	(13) クローラの伸び	○	○			○	張り調整	40
	(14) トランスミッションケースの油量	○			●	○	補給・交換	29
	(15) サイドクラッチワイヤ(左・右)		○			○	張り調整	37
	(16) エンジンーミッションベルト		○			○	張り調整	37・49

分類	点検項目	シーズン前	運転前	50時間ごと	100時間ごと	格納時	整備内容	参照ページ
脱こく部関係	⑰ 脱こく主軸ー2番ラセン軸ー吸引ファンーこぎ胴軸ベルト	○				○	張り調整	39・49
	⑱ 1番ラセン軸ー揺動軸ベルトー脱こく主軸	○				○	張り調整	39・49
	⑲ エンジンーカウンタ軸ベルト	○				○	張り調整	38・49
	⑳ カウンタ軸ー脱こく主軸ベルト	○				○	張り調整	38・49
	㉑ ワラ送りベルト		○			○	張り調整	40
	㉒ 脱こくフィードチェン		○		○	○	張り調整	40
	㉓ ワラ切カマ	○				○	交換	36
	㉔ こぎ歯	○				○	増締・交換	36
	㉕ 脱こくギヤケースの油量	○				○	点検・補給	29
	㉖ 2番スロワ	○				○	掃除	35
	㉗ 揚こくラセンタッチ部	○				○	掃除	35
	㉘ ラセン底板	○				○	掃除	35

2．給油・注油のしかた

・工場出荷時は各給油・注油・給脂個所にオイルグリスが入っています。
・オイルの点検・交換は，**「運転まえの点検表」**（9 ページ）及び**「定期点検整備表」**（25～26ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却する時は，ご購入先に相談してください。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部に「油差し」で注油する時はエンジンを停止してから行なってください。
◆回転部・摺動部から摺動音が発生する時はエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

使用済み廃棄物の処理について

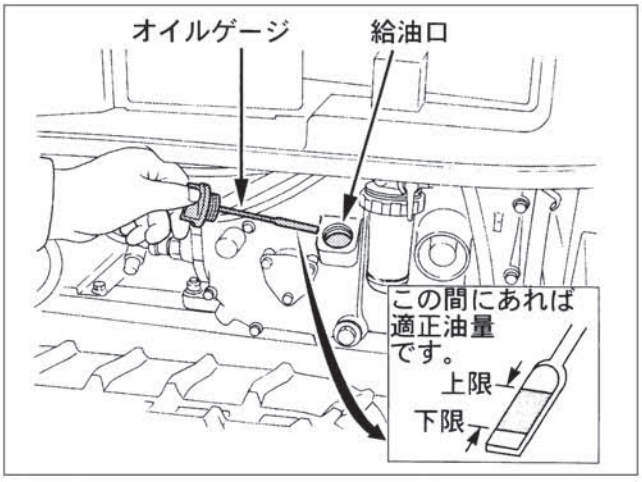
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
◆機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

「給油・注油・給脂・注水表」

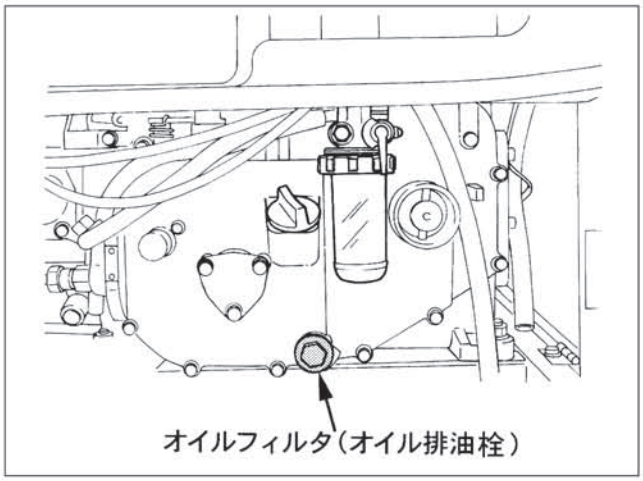
No.	個　所	種　類	分　類	容　量（L）	備　考
1	エンジンクランクケース	エンジンオイル	クボタ純オイル D30又はD10W－30	2.3	・運転まえに点検 ・初回50時間で交換 ・100時間毎に交換
2	トランスミッションケース	ギヤオイル	クボタ純オイル M80B又はM90	1.2	・シーズンまえに点検 ・100時間毎交換
3	脱こくギヤケース	ギヤオイル	クボタ純オイル M90又はM80B	0.25	・シーズン前点検
4	脱こくフィードチェン・レール台摺動部	エンジンオイル	クボタ純オイル 10W－30	適量	・運転まえに点検 ・シーズン終了後注油
5	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	7.0	・運転まえに点検
6	ラジエータ（補助タンク）	水	清水(水道水)又はクボタ不凍液	1.6（0.1）	・運転まえに点検

1．エンジンクランクケース

❶点検…エンジンカバーを開け，オイルゲージ先端をきれいにふきとり，もう一度さし込んでゲージの適正油量の間にオイルがあるか調べます。不足している時は，給油栓より適正油量まで補給します。



❷交換…(1)　エンジン下部の排油栓から排油し，排油栓を締め，新しいエンジンオイルをオイルゲージの「**適正油量**」まで給油します。



・クボタ純オイルディーゼルエンジン用を使用。
　外気温15℃未満：D10W－30
　外気温15℃以上：D30又はD10W－30

・オイル量…2.3L

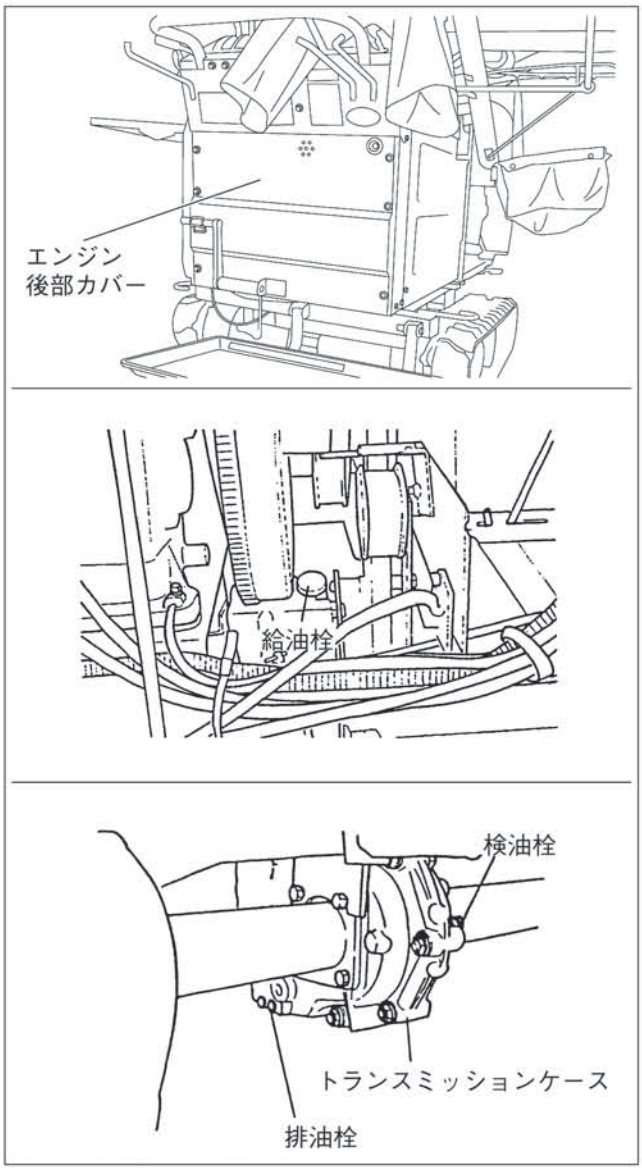
(2)　エンジンオイルの交換は，初回は50時間で交換し，２回目からは100時間ごとに交換します。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前か冷えているときに調べてください。**
- **オイルは良質のものを使用し，外気温により最も適した粘度のオイルを使用します。**

2．トランスミッションケース

❶**点検**…エンジン後部カバーを外し，検油栓を外して，オイルが口元まであるか調べます。不足している時は，給油栓より補給します。



❷**交換**…ケース下部の排油栓から排油し，排油栓を締め，新しいギヤオイルを検油栓の口元まで給油します。

・クボタ純オイルM80B又はM90

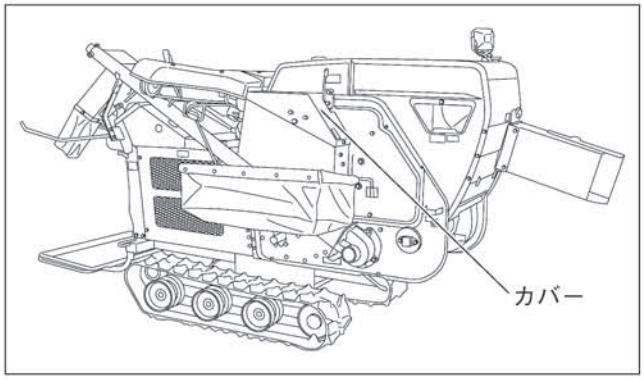
・**オイル量…1.2L**

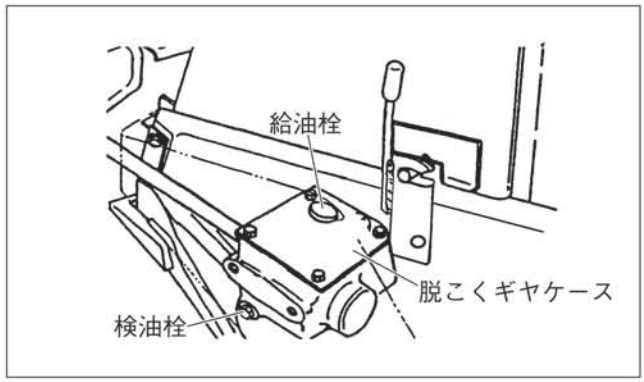
・100時間ごとに交換します。

3．脱こくギヤケース

❶**点検**…脱こくギヤケースカバーを取外し，検油栓を外して，検油栓の口元までオイルが入っているか調べます。

不足している場合は給油栓より給油します。





・クボタ純オイルM90又はM80B

・**オイル量…0.25L**

4．エアクリーナの掃除

ハーベスタ作業では，特にちりやほこりを吸いやすいので，必ずダストカップやエアクリーナカバーを点検し，内部にちりやほこりが半分以上たまらないように掃除してください。

❶エアクリーナの外し方

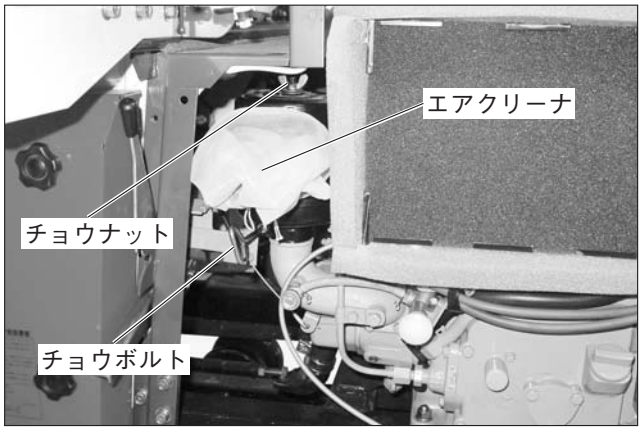
エンジンカバーを開け，エアクリーナ取付部のチョウボルトをゆるめて，セットで外します。

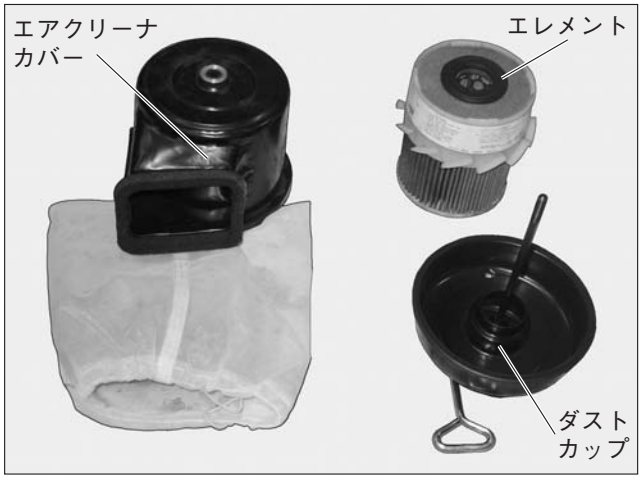
❷掃除

エアクリーナ上部のチョウナットを外し，ダストカップやエアクリーナカバーを外して，エレメントを取出し軽くたたきながらごみを落としてください。

清掃方法は，エレメントの注意書にくわしく書いてありますので，参照してください。

カーボンや油分の場合は，中性洗剤に15分間浸してから，数回ザブ洗いを行ないザブ洗いのあと，清水でよくすすいでから，通風のよい場所で自然乾燥してください。



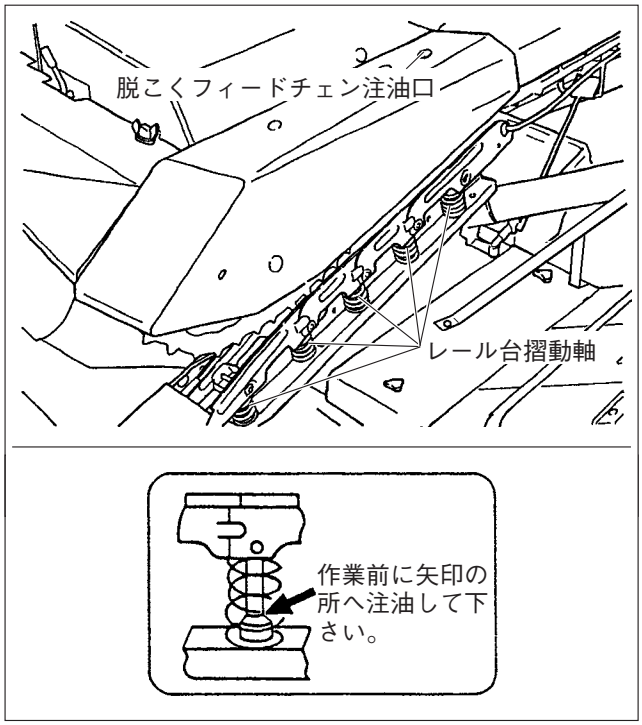


❸エアクリーナの取付け方

外し方の逆の手順で取付けます。

5．脱こくフィードチェン・レール台摺動軸への注油

❶注油…作業前にエンジンオイルを適量注油します。



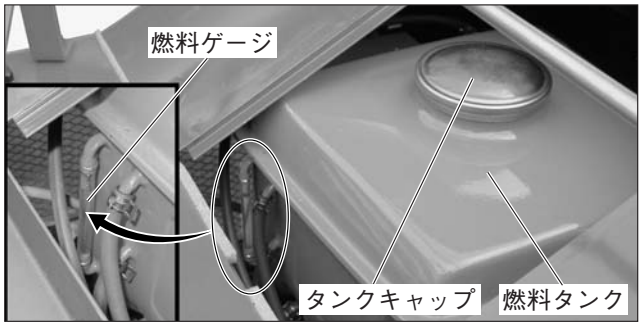
3．燃料給油のしかた

1．燃料の給油

❶**給油**…タンクキャップを開け，フィルタを通して燃料を補給します。

・使用燃料…ディーゼル軽油

・タンク容量…7.0 L

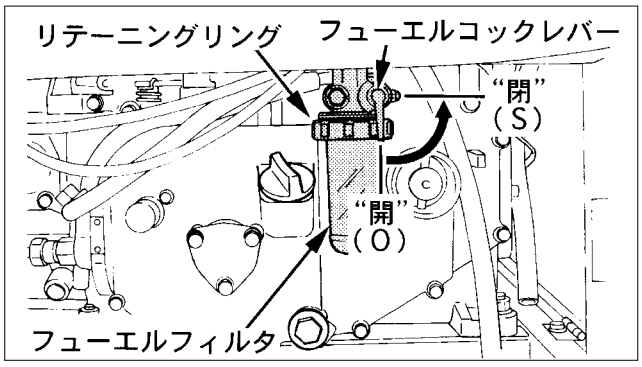


取扱いのポイント

●燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油してください。

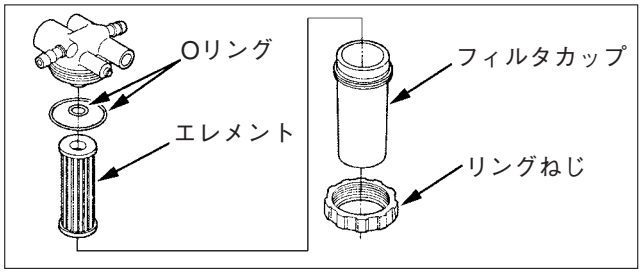
2．燃料フィルタの掃除

❶ フューエルフィルタのコックを“閉”(S)にしてください。



❷ リテーニング（リングねじ）をゆるめてフィルタカップを取外し内部及びOリング（2個）を軽油で洗浄します。

❸ 新しいフィルタエレメントと交換します。(交換必要のとき)



❹ フィルタカップを取付けたリテーニング（リングねじ）で締付けてください。このときOリング（2個）を忘れずに締付けてください。

取扱いのポイント

●燃料内にちりやほこりが混入すると，フューエルポンプや噴射ノズルが摩耗しますので，フューエルフィルタの洗浄には，特にちりやほこりが混入しないよう注意してください。

●フューエルフィルタの清掃・交換後はエア抜きを必ず行なってください。

3．エア抜きのしかた

燃料のエア抜きは次項のようなときに行なう必要があります。

・フューエルフィルタ及びフューエルパイプを取外したとき。(洗浄・交換後など)

・燃料切れが起きたとき。

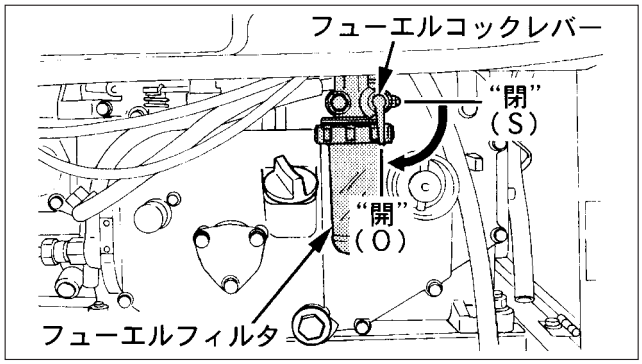
・長時間使用しなっかたとき。

❶ フューエルコックレバーを**“閉”**(S)から**“開”**(O)の位置にして約20秒待ちます。

取扱いのポイント

●自動エア抜き装置付きですのでフューエルコックレバーを開くとパイプ・フィルタ内のエアが自動的に抜けます。

❷ 運転は**“開”**(O）の位置で行ないます。



4．燃料ホースの点検

・燃料ホースの損傷，外皮のはがれ及び継手部より燃料がもれていないか点検します。

・燃料ホースは劣化しますので2年ごとに交換します。

・燃料ホースを交換した時はエア抜きをします。

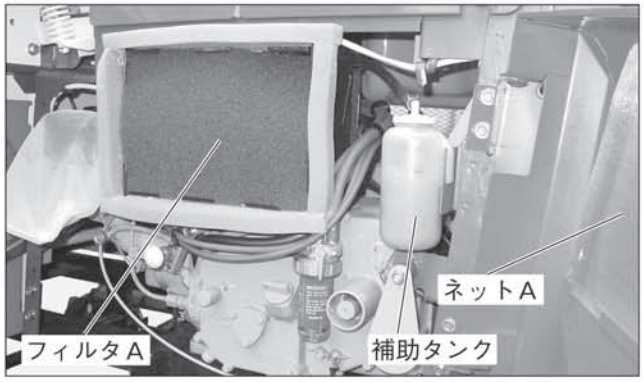
4．冷却水交換のしかた

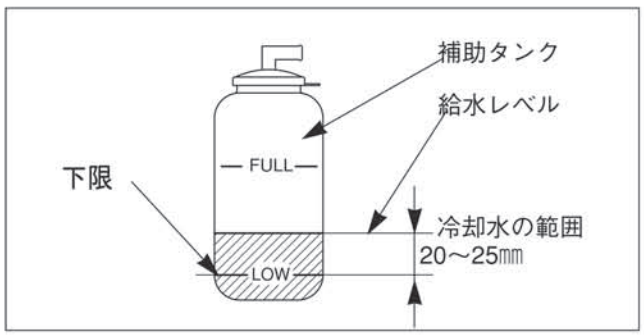
⚠警告 ◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹出しヤケドをすることがあります。冷えてから開けてください。

・ラジエータ内の冷却水は，補助タンクの冷却水が循環することにより給水しています。
・外気温度の高いときや防じん装置が目詰まりしやすい（ワラクズの発生が多い材料・チリの多い場所）作業をするときは，補助タンクの水位に注意し，エンジン回転の低下が激しいときは作業を中止して冷却水を補給します。

1．冷却水の点検

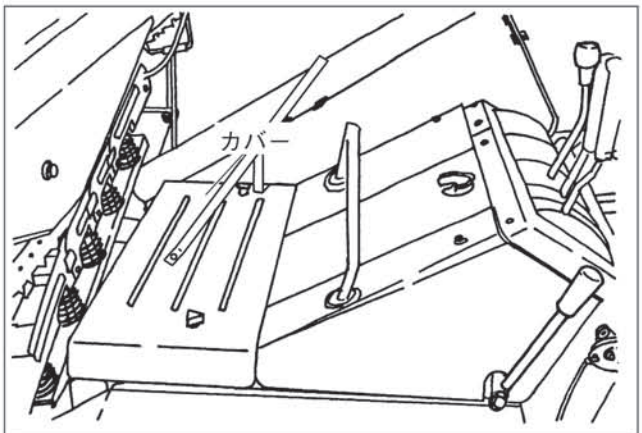
❶**点検**…左側のエンジンカバーを開き，「**補助タンク**」の冷却水がタンクの給水レベルの位置まであるか確認します。

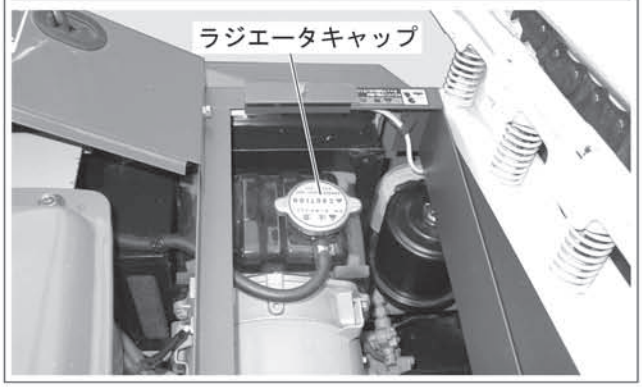




❷**補給**…冷却水が不足している場合は次の要領で補給します。

(1) エンジン上部カバーを開け，ラジエータキャップを外して，冷却水が口元まであるか確認し，不足している場合は清水を供給します。





・**ラジエータ容量…1.6 L**

(2) 左側のエンジンカバーを開き，補助タンクのキャップを開き「**給水レベル**」の位置まで清水を補給します。

・**補助タンク容量…0.1 L**

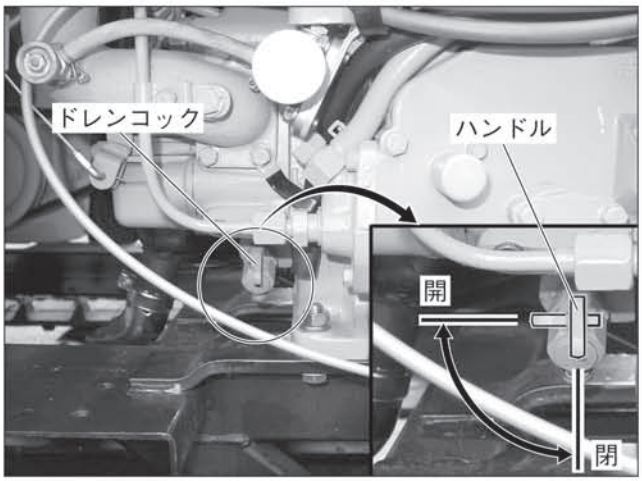
取扱いのポイント

- **補助タンクに給水レベル以上の冷却水を入れると運転中に冷却水があふれ出ます。**
- **冷却水には泥水や塩水を使用しないでください。故障の原因となります。**
- **冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。使用後，冷却水を抜きとるか，または不凍液を混合してご使用ください。**

2．ラジエータ冷却水の交換

(1) エンジンルーム上側のカバーを外し，ラジエータキャップを外します。

(2) エンジンカバーを開き，ドレンコックのハンドルを回し排水します。



(3) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(4) 排水が終わったらドレンコックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

・冷却水量…1.7L（補助タンク含む）

取扱いのポイント

- **一度エンジンをかけると水が循環してラジエータ内の水量が減りますので補給してください。**
- **エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。**
- **ドレンコックは確実に締めてください。冷却水がもれるとエンジンが「オーバーヒート」します。**

3．不凍液の注入のしかた

工場からの出荷の時は，不凍液が注入され**「不凍温度－25℃」**を保っていますが，納入後1年以上経過したものは効力が低下するので，冷却水を**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度	℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度	%	20～25	25～30	20～35	35～40	40～45	45～50

取扱いのポイント

- **不凍液はクボタ不凍液「ロングライフクーラント」（PT）をご使用ください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまで「低速で空運転」をしてください。**

4．ラジエータホースの点検

⚠注意

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹出します。

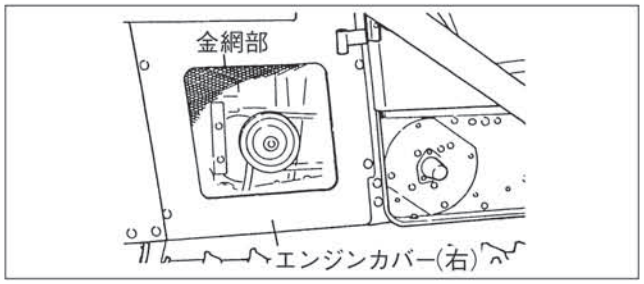
・ラジエータホースの継ぎ部のゆるみやホースが破損し水もれしていないか点検し，増締め又は部品を交換します。

5. 各部の点検と掃除のしかた

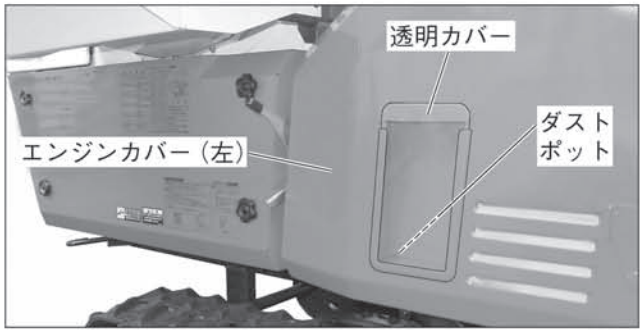
1. エンジンカバーの掃除

⚠警告 ◆火災防止のため，エンジン，マフラ，バッテリ周囲のワラクズを掃除してください。

❶ エンンジンカバー（右）の金網およびエンジンカバー（左）のネットとフィルタに，ワラクズが目詰まりするとエンジン冷却風のとおりが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」します。点検，掃除を行います。



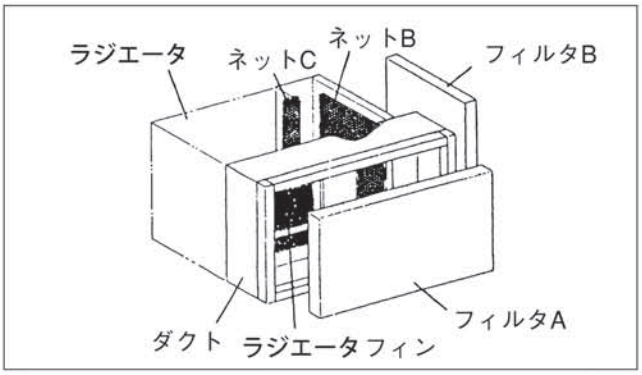
❷ 透明カバーの外部より内部を点検し，ダストポットに，清浄空気と分離されたチリやワラクズがたまっているときは取除きます。



❸ エンジンを停止し，エンジンカバー（左）を開いて，ネットAが目詰まりしているときはネットAを外し，両面のチリを取除きます。

❹ ダクトのフィルタA・フィルタB（ラジエータ補助タンクを外してとる）を外して手または平板上でたたいてチリを取除きます。

フィルタ内部の入りこんだ長ワラも取除きます。



(1) ダクトカバーに付いているフィルタBの裏側にあるネットおよび側面のネットに付着したチリや周囲のチリを取除きます。

(2) ダクトカバーを取外してダクト内部にたまったチリをきれいに取除きます。このときラジエータフィンを点検し，目詰まりをしていれば，圧縮空気を吹き付けてチリを取除きます。

(3) 各部の掃除が終わったら，カバー・フィルタ等はもとの位置に確実に装着します。

(4) 使用後，長時間格納するときは防じんフィルタをきれいに洗浄し，通気の良い場所に保管します。

取扱いのポイント

- **作業前の点検，掃除はエンジンを停止して行います。**
- **防じん装置のネットおよびフィルタが目詰まりをするとエンジンの冷却効果が低下し，オーバーヒートの原因になります。**
- **エンジンを停止した時は，内部のフィルタおよびダストポットを点検し，掃除をしてください。**
- **ネットのチリ除去にはブラシ（歯ブラシ等）を使用すれば容易に掃除することができます。**
- **掃除機で掃除する場合はフィンが変形する恐れがありますので，強く押し当てないでください。**

2．脱こく内部の掃除

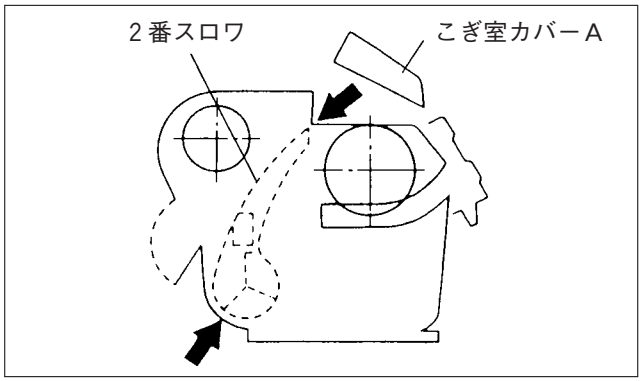
⚠警告 傷害事故防止のために

◆2人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。

また長期格納の時は脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

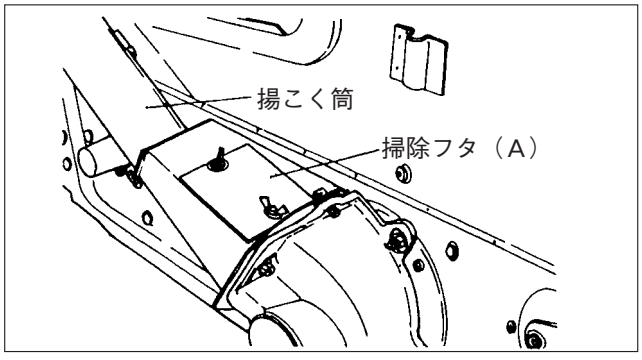
❶ 2番スロワの詰まりと掃除

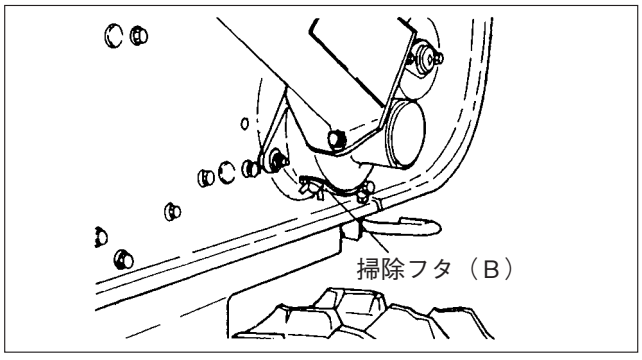
2番スロワに詰まりが発生したときは下図の2個所から掃除をします。



❷ 揚こく筒の掃除

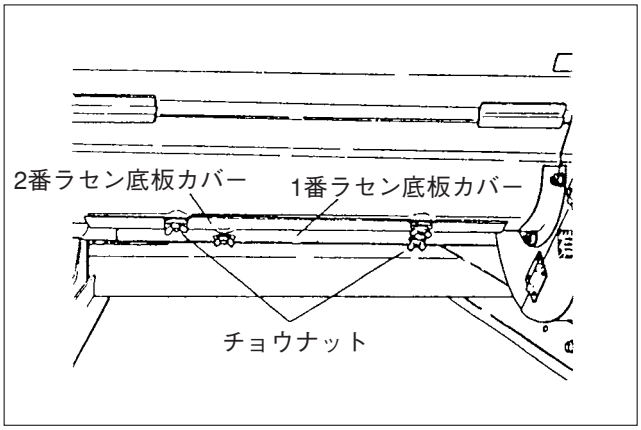
掃除フタ（A），（B）を外して掃除します。





❸ 1番・2番ラセン底板の掃除

1番・2番ラセン底板の各2個所のチョウナットを外し，底板のカバーを開けて内部に残っているこく粒を掃除します。

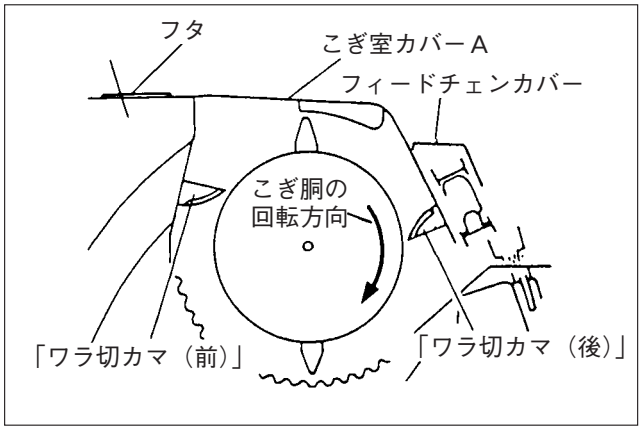


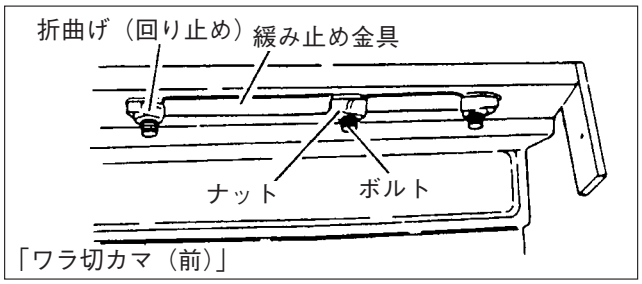
3．ワラ切カマの交換

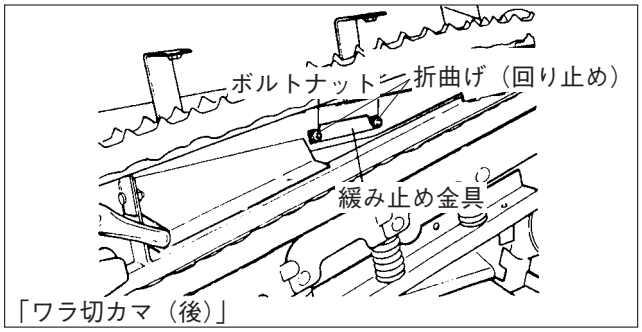
⚠注意 ◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手を掛けないでください。

❶ ワラ切カマの取外し

⑴ ワラ切カマ（前）はこぎ室カバーBのフタを外して，また，ワラ切カマ（後）はフィードチェンカバーを外して行います。







⑵ ワラ切カマの取付ナットは緩み止め金具を折曲げて回り止めがしてあります。

折曲げを元に戻してからナットを緩め，ボルトを外してワラ切カマを取外します。

❷ ワラ切カマの取付け

ワラ切カマの組付け方向を確認してまっすぐに締付けます。

緩み止め金具を確実に折曲げます。

取扱いのポイント

- **ワラ切カマの中央にこぎ歯がくるように取付けてください。**
- **組付けはナットを確実に締付け緩み止め金具を折曲げてナットの回り止めをしておいてください。**
- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下してきますので，ワラ切カマを取外し新品と交換してください。**

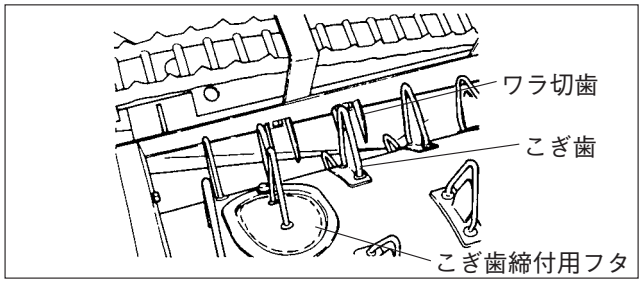
4．こぎ歯の点検

こぎ室カバーAを外してこぎ歯の点検をします。

❶ 緩みがないかを，こぎ歯の先端を手で動かすか，スパナ等で軽くたたいて確認します。

❷ こぎ歯が倒れているときは，ハンマで直角をみながら少しずつ修正します。修正したこぎ歯は前後のワラ切カマと接触しないことを確認します。

❸ 緩んでいるときは2個所のこぎ歯締付け用フタを外して締付けを行います。



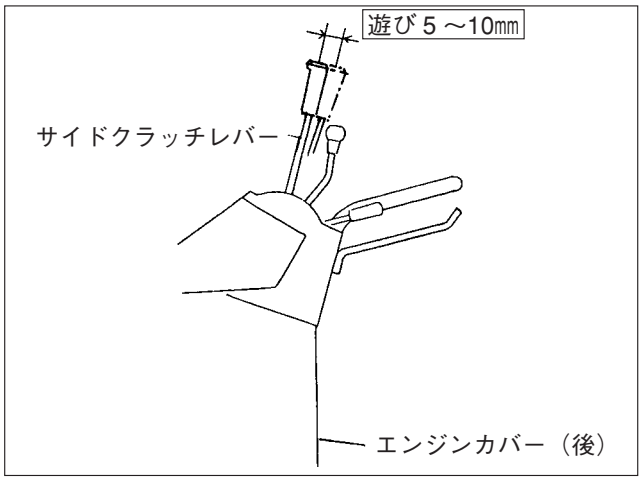
❹ 線径の2/3以上摩耗しているときや折損しているときは，交換します。

6．各部の点検と調整のしかた

使用により各部の摩耗や伸びが生じますので，**「定期点検整備表」**に従って点検し，再調整します。また摩耗の限度を越えた部品は交換し，正しく使用できる状態にします。

1．サイドクラッチレバーの調整

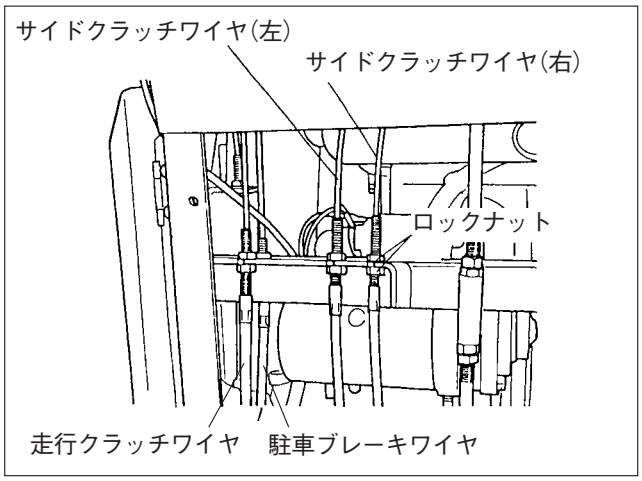
❶ **点検**…左右のサイドクラッチレバーの遊びが**5～10㎜**あり，左右均等になっていますか。



❷ **調整**…⑴ エンジンカバー（後）を外します。

⑵ ロックナットをゆるめて，アジャスタ部でレバーの遊びを調整します。

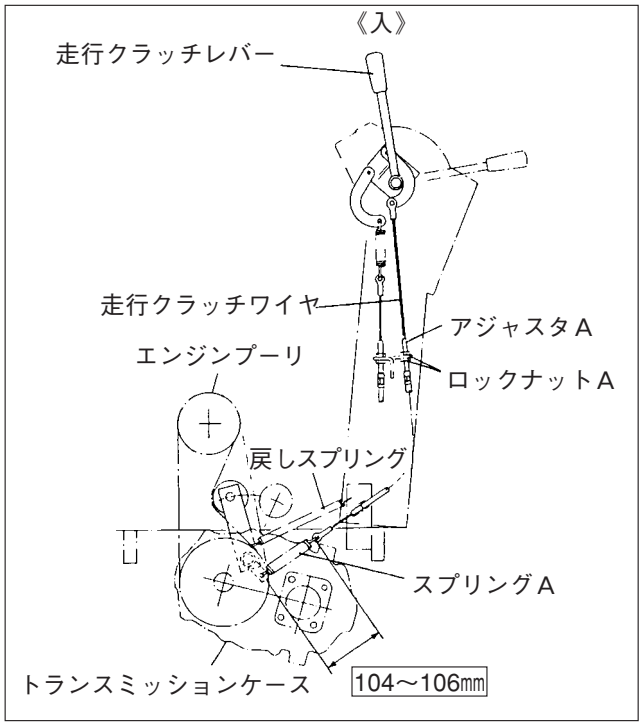
⑶ 左右のレバーの遊びが均等になるように調整します。



2．走行クラッチレバー（駐車ブレーキレバー）の調整

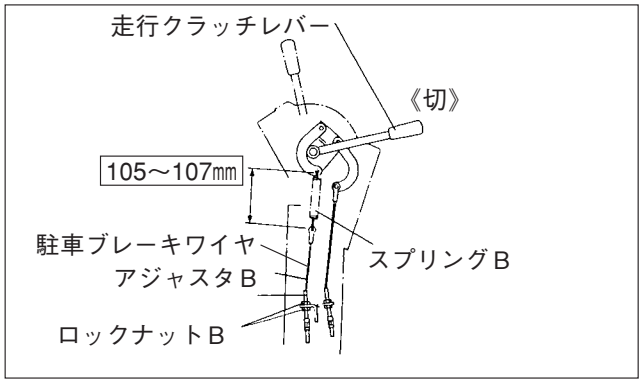
❶ **点検**…⑴ 走行クラッチレバー《**入**》のとき，スプリングＡの長さが**104～106㎜**になっていますか。

⑵ 走行クラッチレバー《**切**》のとき，スプリングＢの長さが**105～107㎜**になっていますか。



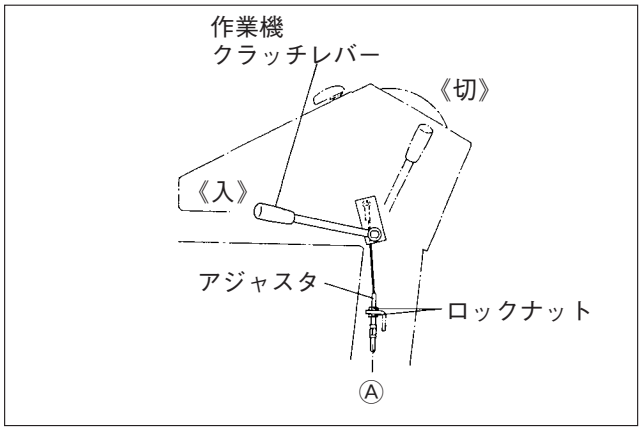
❷ **調整**…⑴ 走行クラッチレバーを《**入**》にしロックナットＡをゆるめて，走行クラッチワイヤのアジャスタＡでスプリングＡの長さが適正になるように調整します。

⑵ 走行クラッチレバーを《**切**》にしロックナットＢをゆるめて，駐車ブレーキワイヤのアジャスタＢでスプリングＢの長さが適正になるように調整します。



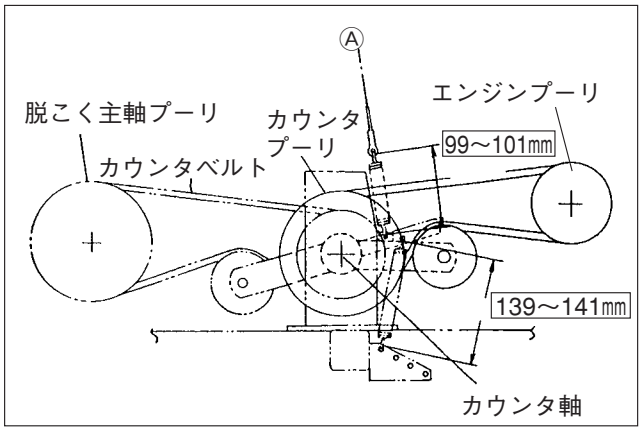
3．作業機クラッチレバーの調整

❶ **点検**…⑴ 作業機クラッチレバー《**入**》のとき，スプリング長さが **99～101㎜** になっていますか。



❷ **調整**…⑴ ロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタでスプリングの長さを調整します。

⑵ 作業機クラッチレバーを《**切**》にした時，脱こく部が停止することを確認します。



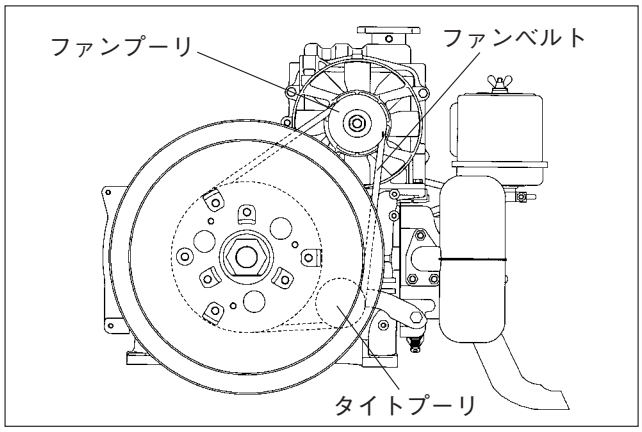
4．脱こくカウンタベルトの調整

❶ **点検**…⑴ スプリング長さが **139～141㎜** になっていますか。

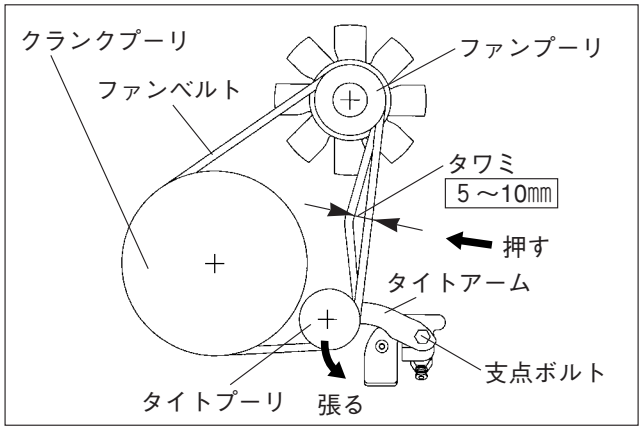
❷ **調整**…⑴ スプリング長さが適正になるように引っ掛け位置を替えます。(上図参照)

5．エンジンファンベルトの調整

❶ **点検**…⑴ 指で押してタワミが **5～10㎜** になっていますか。



❷ **調整**…⑴ 張るときは，タイトアームの支点ボルトをゆるめ，ドライバなどでベルトを張ってから，支点ボルトを固く締付けてください。

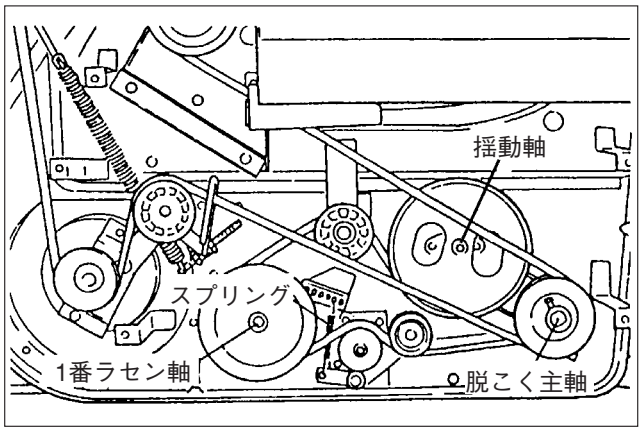


取扱いのポイント

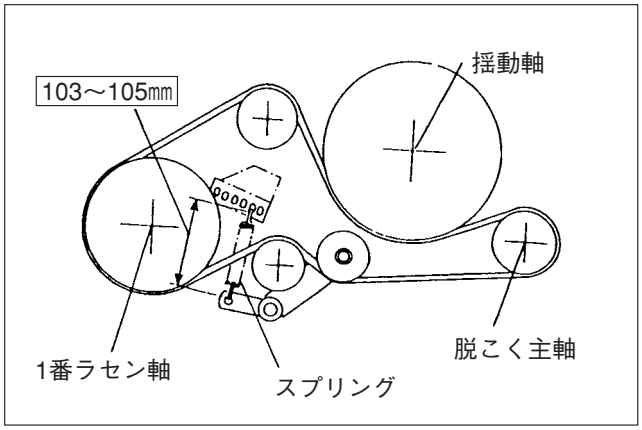
- **ベルトの張りが弱いまま運転するとベルトがスリップし，エンジンの冷却能力が低下するだけでなく，寿命を短くするので，常に点検して適正な張りを保ってください。**
- **ファンベルトが切れた場合は，切れてからしばらくするとラジエータ内の蒸気が噴出し続けるのですぐにエンジンを停止してベルトを交換してください。**

6. 揺動・1番ラセン駆動ベルトの調整

❶ **点検…**(1) スプリング長さが **103～105㎜** になっていますか。

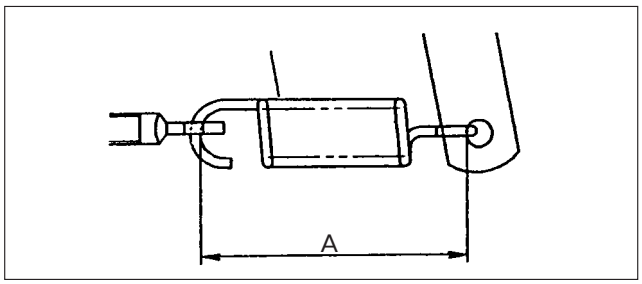


❷ **調整…**引掛け位置を変えてスプリング長さを調整します。



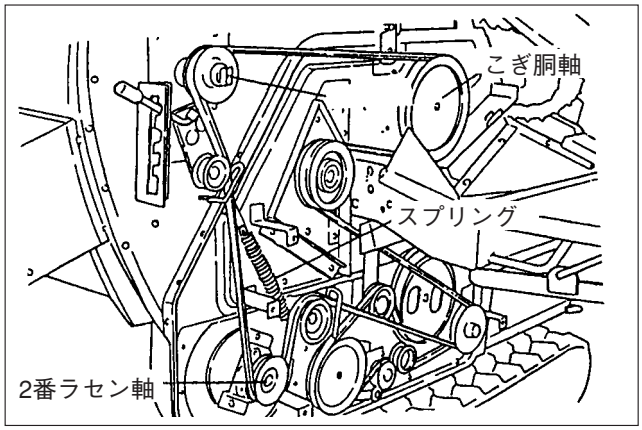
取扱いのポイント

● スプリングの長さはフックの内側で測ります。

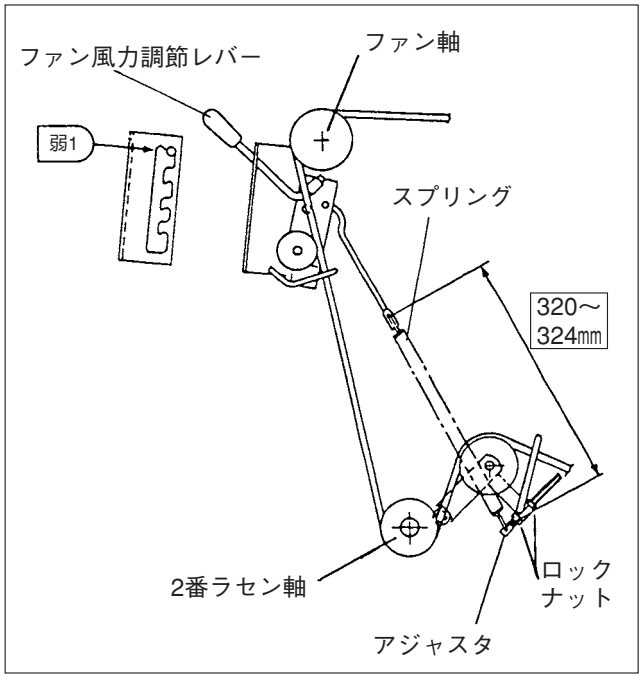


7. 2番ラセン・こぎ胴駆動ベルトの調整

❶ **点検…**(1) レバーを《弱１》の位置にてスプリング長さが **320～324㎜** になっていますか。

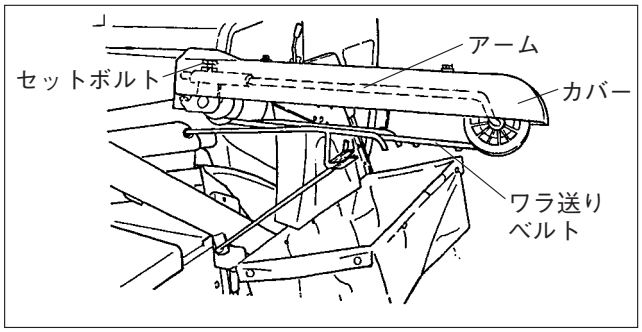


❷ **調整…**アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さが適正になるように調整します。



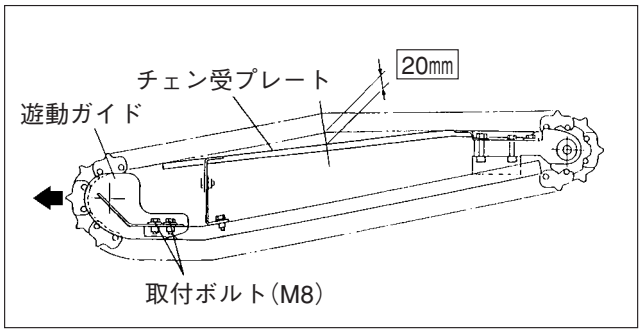
8．ワラ送りベルトの調整

❶ **調整…** 長時間使用するとワラ送りベルトが伸びてきますので，カバー（ボルト２本）を外し，セットボルトをゆるめ，アームを引張ってベルトを張り，セットボルトで固定します。



9．脱こくフィードチェンの調整

❶ **点検…**⑴ フィードチェンにレールが軽く接する状態で上部フィードチェンの中央部を手で引上げ，チェン受けプレートとフィードチェンのスキマが 20㎜ 程度になっていますか。



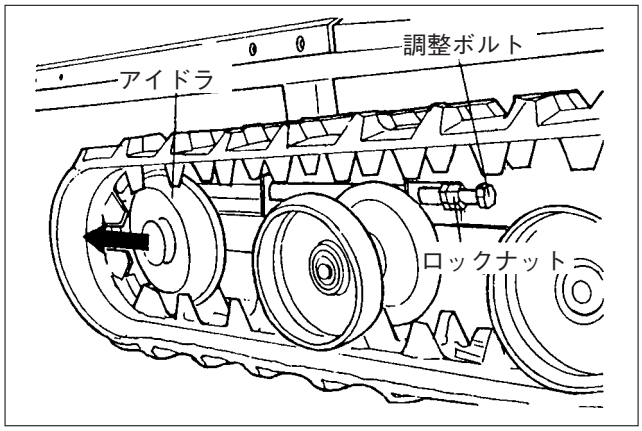
❷ **調整…**⑴ 遊動側の取付ボルト（Ｍ８）を緩め，矢印方向に動かして張ります。

⑵ 張りすぎると無駄な動力を消費するので張りすぎないようにします。

10．クローラの調整

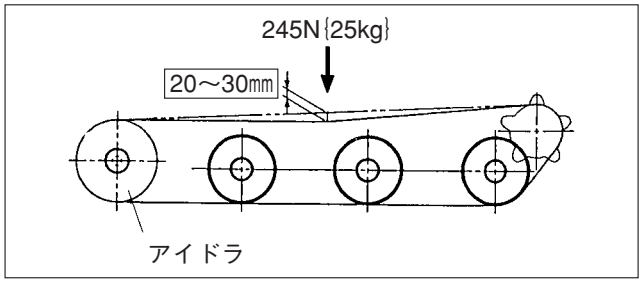
❶ **点検…**⑴ クローラ上部の中央部を245N{25kg}程度で押して，タワミ量が 20～30㎜ になっていますか。

⑵ 左右のクローラの張りは同じになっていますか。



❷ **調整…**⑴ ロックナットをゆるめて，調整ボルトを締込んでアイドラを矢印の方向に張ります。

⑵ 調整後ロックナットで固定します。



7．電装関係の点検のしかた

1．バッテリの点検と充電

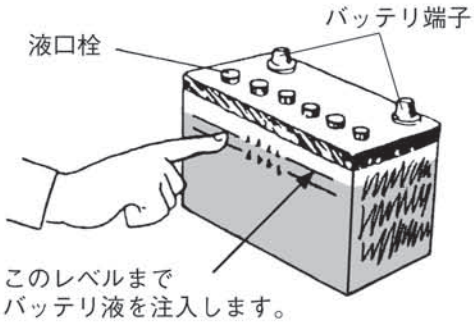
❶ 点検

(1) **残存容量の確認**

・２週間以上運転しないとセル始動が困難になることがありますので補充電します。

・正確な残存容量は「**比重測定**」や「**テスタ**」で行います。

(2) バッテリ液量は液面がレベルラインの上限と下限の間にあるか確認します。
減っていればバッテリ補充液を「**UPPER LEVEL**」まで注水補給します。



(3) バッテリ端子が「**腐食**」していると，電流が流れなくなりますので,「**腐食**」や汚れをサンドペーパーやブラシで取除きます。

❷ 充電

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆バッテリを取外して充電する時「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。「ヤケド」をすることがあります。

◆引火性の高い「水素ガス」を多量に発生し「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり,「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

(1) スタータスイッチを「**停止**」にし，機械からバッテリを取外します。

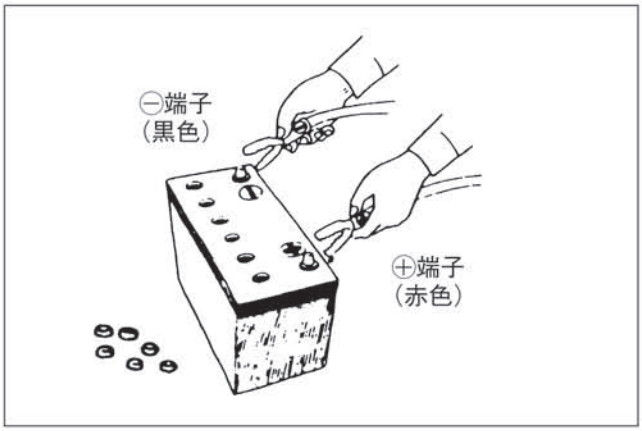
(2) 風通しの良い場所で充電をします。

(3) 急速充電はできるだけさけて，普通充電で行ないます。

(4) バッテリの「液口栓」をすべて取外します。

(5) 充電器のスイッチを「**切**」にしてクリップをバッテリ端子に⊕⊖を正しく取付けます。

(6) ３アンペア程度の充電器で８～10時間で充電できます。



❸ 交換

バッテリを交換する時は指定のものを使います。

指定バッテリ……40B19R
または相当品

2．電気配線の点検

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを「停止」にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆ワイヤハーネス，バッテリコードの損傷がないか点検してください。損傷していると，ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ **点検**…配線端子部の「**緩み**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損うだけでなく,「**ショート（短絡）**」等することがあります。傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ **掃除**…エンジンおよびバッテリ，周囲電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

長期格納のしかた

1．シーズン終了時の手入れ

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」(25～26ページ参照)の「**格納時**」の項目について点検・整備及び掃除を行い，更に次の処置をします。

⚠注意 格納時の点検・整備及び掃除を行う時は次の事に注意して行なってください。

◆回転部などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

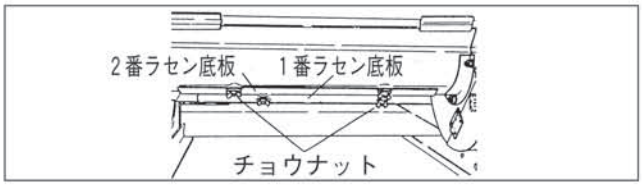
◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

1．機械の掃除

❶ 脱こく内部のゴミ・残留こく粒などをこぎ室カバーA，2番スロワ，揚こく筒などの掃除口よりきれいに取除きます。

1番および2番ラセンはラセン底板カバーをあけて掃除します。



❷ トランスミッションケース・脱こくギヤケースの潤滑油を点検・補給します。

❸ 泥・ワラクズなどを取除き，汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。

取扱いのポイント

- 高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。
- ワイヤハーネスおよびバッテリ⊕コードを点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。
- 燃料ホースの老化や，傷による燃料もれを点検し，もれや傷みがあれば交換してください。
- エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。

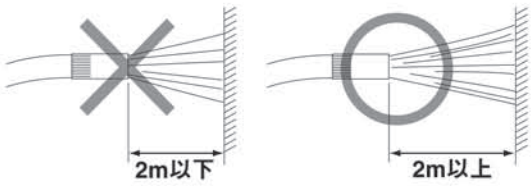
⚠注意 洗車時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2．ホースの破損により，油や燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例) (1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内等への侵入による故障
(3) クローラ，オイルシール等のゴム類，樹脂類等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

近距離洗車厳禁



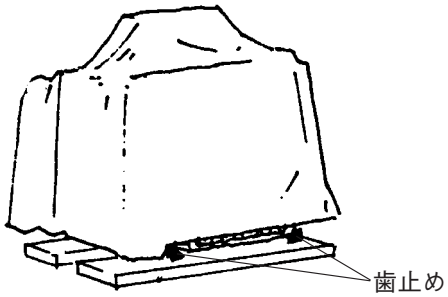
2．サビ止めと注油

❶　クローラを水洗いした後，乾燥させた転輪・アイドラにオイルを塗り格納します。
❷　塗装がはげた個所は補修塗料を塗り，機体のサビやすい個所にはグリスかオイルを塗ります。
❸　締付け部分のネジのゆるみ等を点検し，軸受部・チェン・ワイヤ類には注油しサビないようにします。

3．エンジンの手入れ

❶　各部の汚れを拭取るとともにボルト等のゆるみを点検します。
❷　防じんカバーに付着したチリをきれいに掃除します。
❸　暖機運転をしてからエンジンオイルを交換します。
　オイル交換後，5分間程度暖気運転し，各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。
❹　エアクリーナのエレメントをを掃除します。
❺　燃料フィルタを点検し，汚れていれば掃除します。
❻　新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにします。
❼　冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの**「凍結割れ」**を防ぐため，冷却水を抜くか，不凍液を入れておきます。

4．格納のしかた



　機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び，シートをかけて保管します。
❶　**「クローラ」**の下には板等を敷き**「歯止め」**をします。
❷　変速レバーを《**N**》(中立)，走行クラッチレバーを《**切**》(駐車ブレーキ)，作業機クラッチレバーを《**切**》の位置にします。
❸　**「バッテリ」**を取外します。そして日陰の乾燥した場所に保管します。**「バッテリの取扱い」**の項を参照し，1ケ月に1回，補充電をします。
　本機に取り付けたまま保管するときはアース側(㊀側）を外しておきます。
❹　スタータスイッチの**「始動キー」**を抜取ります。

取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**

2．再使用するときは

・格納後，はじめて使用するときは**「定期点検整備表」**(25～26ページ参照）の**「シーズン前」**の項目について点検した後運転します。

不調時の処置

・不調が発生したら，ただちにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・その時は不調の状況とあわせて「**型式**」・「**機械番号**」をお知らせください。

⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は機械を広い平坦な場所に移動して停車し，エンジンを止めて，各部の回転が止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・調整は，エンジンが冷えてから行なってください。
◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹出しヤケドをすることがあります。冷えてから開けてください。

1．エンジン部

不調の状況	原　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難。	(1) 燃料が入っていない。	・給油する。	31
	(2) 燃料コックレバーが《閉》になっていないか。	・燃料コックレバーを《開》の位置にする。	31
	(3) 燃料系統に空気が入っている。（噴射音がしない）	・燃料タンクに燃料を補給してから，エア抜きをする。	31
	(4) スローブローヒューズが切れている。	・スローブローヒューズを交換する。	8
エンジンの出力不足および自動停止。	(1) 燃料系統に水・ゴミの混入。	・燃料フィルタのエレメントを取外し洗浄する。	31
	(2) エアクリーナの目詰まり。	・エアクリーナのエレメントを取外して掃除する。	30
	(3) ラジエータグリル（防じん装置）・フィン部の目詰まり	・チリ・ホコリを取除く。	34
	(4) ラジエータの冷却水が不足している。	・冷却水を補充する。	32
	(5) エンジンファンベルトのスリップ。	・ファンベルトの張り調整する。	38
	(6) 過負荷運転している。	・各部の調節を適正にし，過負荷運転をさける。	
	(7) エンジンの圧縮圧力がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので「**お買いあげ先**」に相談する。	
	(8) エンジンの回転が十分あがらない。	・コントロールレバー・ワイヤ取付部にゆるみはないか，セットはよいか点検する。	

2．走行部

不調の状況	原　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
直進性が悪い。クローラが外れる。	⑴　クローラの張りが左・右でちがう。 ⑵　クローラがゆるんでいる。	・左右のクローラともに適正な張りになるように調整する。	40
旋回性が悪い。	サイドクラッチレバーの遊びが多い。	・サイドクラッチワイヤの調整をする。	37
走行クラッチが切れない。(停止しない)	走行ベルトが張りすぎている。	・クラッチが完全に切れるように，ワイヤの調整をする。	37
走行クラッチを入れても発進しない。	走行ベルトがスリップしている。	・走行クラッチワイヤを調整をする。	37
駐車ブレーキがきかない。	スプリングセット長は良いか。	・走行クラッチ《切》にてワイヤ調整をする。	37

3．脱こく部

不調の状況	原　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
樋口からこく粒が出ない。 (脱こく部の詰まり)	⑴　こぎ胴回転が規定より低い。 ⑵　ベルトがスリップしている。 ⑶　揚こく筒にこく粒が詰まっている。	・回転計が脱こく材料に適した回転となるようにして使用する。 ・各伝動ベルトの張りを点検し，張りの弱いベルトは調整する。 ・掃除フタを取外して内部のこく粒をきれいに掃除する。	23 39 35
こぎ胴回転がダウンしたまま，もとの回転に戻らない。 (2番スロワの詰まり)	⑴　こぎ胴回転のセットが低い。 ⑵　吸引ファン回転数が低い。	・詰まっているワラクズを取除いて，こぎ胴回転を適正にする。 ・風力調節レバーを《強》にする。 ・排じんスポークをⒷ穴にセットする。	23 21 22
能率があがらない。 (こぎ室内で「ゴトゴト音」がする)	⑴　こぎ胴回転が規定より低い。 ⑵　ワラ切カマが切れない。 ⑶　吸引ファン・送じん量の調節位置が悪い。	・回転数が脱こく材料に適した回転となるようにして使用する。 ・ワラ切カマを交換する。 ・吸引ファン回転・送じん量の調節を適正位置にする。	23 36 21
作業機クラッチを入れても回転しない。	・脱こくベルトがスリップしている。	・作業機クラッチワイヤを調整する。	38

不調の状況	原　因（点検箇所）	処　　置	参　照 ページ
警報ブザーが鳴らない。	(1)　ヒューズが切れている。 (2)　配線の端子が外れている。	・ヒューズを交換する。 ・端子を接続する。	8 8
緊急停止レバーを押しても脱こく部が停止しない。 作業機クラッチが切れない。	・脱こくベルトを張りすぎている。	・作業機クラッチワイヤを調整する。	38

付　　表

1．主要諸元

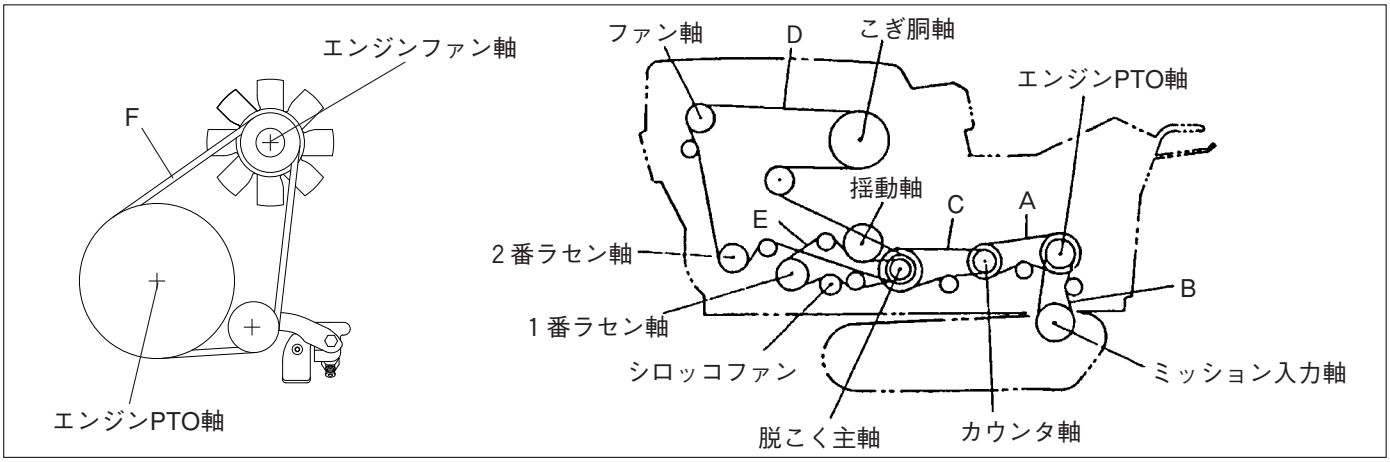
商品名			HS7000
機体寸法	全長	格納時 (mm)	2275
		作業時 (mm)	2665
	全幅	格納時 (mm)	1280
		作業時 (mm)	2345
	全高	格納時 (mm)	1400
		作業時 (mm)	1400
	機体質量 (kg)		413
エンジン	型式名		EA8－E3－MHB2
	種類		水冷4サイクル横型ディーゼル
	排気量 (L{cc})		0.376{376}
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)		5.1{7.0}/2600
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油/7.0
	始動方式		セル式
	バッテリ (V・ah)		12・28
走行部	クローラ	接地長×幅 (mm)	835 × 200
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	12.1{0.124}
	変速段数 (段)		前進：3，後進：1
	走行速度	前進 (m/s)	0.22，0.45，1.02
		後進 (m/s)	0.22
脱穀部	扱胴	径×長さ (mm)	360 × 480
		回転速度 (rpm)	稲：550，麦：600
	選別方式		揺動・圧風・吸引
	揚穀方式		スクリュ揚穀式
	穀粒吐出口 (袋)		後2
操作部	ファン風力調節		レバー切り替え式（4段階）
	稲・麦切替		エンジンコントロールレバー(アクセルレバー)で調節
	掃除口		1番,2番ラセン底板，揚穀筒(縦スクリュケース)，2番スロワケース
	排塵ダクト調節		作業状態と収納状態ワンタッチ調節(工具無しで脱着可能)
	駐車ブレーキ		走行クラッチレバーと連動(切り時駐車ブレーキ作動)
わら処理部	単体カッタ		有（オプション）
	拡散付カッタ		有（オプション）
	大束結束機		有（オプション）
作業能率〔計算値〕 (分/10a)			25～45
安全鑑定番号			申請中

2．ベルト一覧表

記号	伝　動　系　統	本数	部品番号	備　　考
A	エンジンPTO軸－カウンタ軸	1	**LM002 － 00020**	LB－39
B	エンジンPTO軸－ミッション入力軸	1	**LM002 － 00050**	LB－37
C	カウンタ軸－脱こく主軸	1	**LM002 － 00030**	LB－42
D	脱こく主軸－2番ラセン軸－ファン軸－こぎ胴軸	1	**LMH03 － 00261**	LB－138相当
E	脱こく主軸－1番ラセン軸－揺動軸	1	**LM001 － 00010**	LA－50
F	エンジンPTO軸－エンジンファン軸	1	**14911 － 97010**	LM37.6

・ベルトは「純正品」をご使用ください。

「　伝　動　系　統　図　」

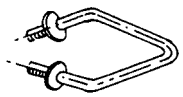
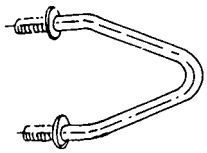
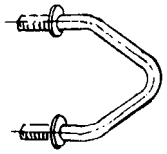
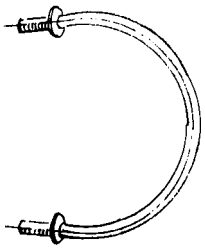
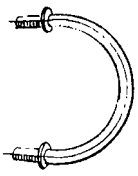
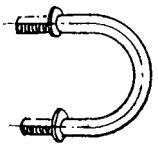
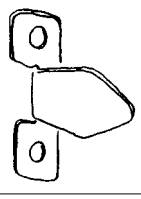
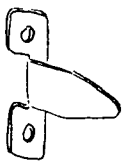


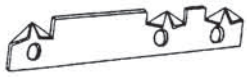
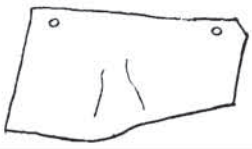
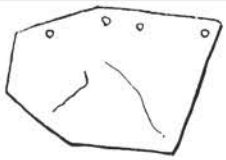
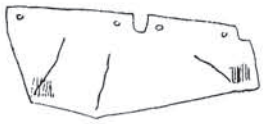
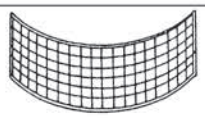
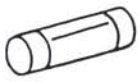
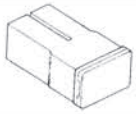
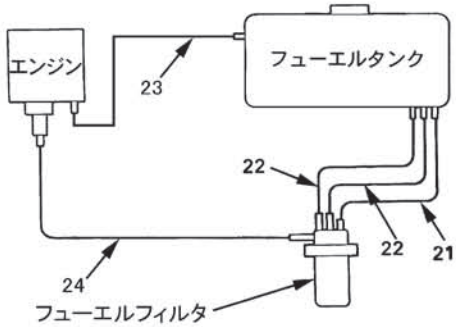
3．アタッチメント（別売）一覧表

・次のアタッチメントを別売りにて準備して
　いますのでご利用ください。

品　　名	型式名（品名）	型式コード（品番）	主な仕様	適応本機型式
大束結束機	ＨＫ－５Ｒ	57446－00000	結束束数：6～10束	全型式
単体カッタ	ＳＨ75ＲＤ－２	57094－00000	刃　　数：11枚 切 断 長：75㎜	↑
拡散付ドロッパカッタ	Ｓ601－75Ｒ２	57431－00000	刃　　数：11枚 切 断 長：75㎜	↑
クローラガイド	クローラガイドキット	LMH07－12141	大束結束機装着時に右クローラ部のフレームに装着	↑

4. 主な消耗部品

No.	部品名称	部品番号	備考
1	並歯	LMH03 ― 00041	
2	補強歯	LMH03 ― 00161	
3	せいそ歯 A	LMH03 ― 00121	
4	せいそ歯 C	LMH03 ― 00141	
5	せいそ歯 B	LMH03 ― 00131	
6	せいそ歯 D	LMH03 ― 00151	
7	こぎ歯 E	LMH03 ― 00011	
8	こぎ歯 F	LMH03 ― 00021	

No.	部品名称	部品番号	備考
9	ワラ切カマ	LMH03 － 00091	
10	ゆるみ止め金具（前）	LMH03 － 00051	
11	ゆるみ止め金具（後）	LMH03 － 00111	
12	入口飛散防止板A（前）	LMH03 － 00281	
13	入口飛散防止板B（前）	LMH03 － 00291	
14	入口飛散防止板C（奥）	LMH03 － 00321	
15	出口飛散防止板	LMH03 － 00311	
16	クリンプ網	LMH03 － 00271	
17	網	LMH03 － 00061	
18	ワラ送り用ベルト	LMH03 － 00071	
19	ヒューズ	LM004 － 00010	10A 
20	スローブローヒューズ	1G111 － 65721	
21	燃料ホース タンク～フィルタ	09661 － 80500	
22	燃料ホース タンク～フィルタ（エア抜用）	09661 － 50500	
23	燃料ホース タンク～ノイズホルダ	1J137 － 42510	
24	燃料ホース フィルタ～エンジン	11131 － 42120	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5. クボタ純正オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

・オイルは，ハーベスタの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
・市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なハーベスタの寿命を縮めることがあります。

● お買求めは，販売店またはJA農協へご用命ください。

● D30又はD10W−30（ディーゼルエンジン用）

20 L　　4 L

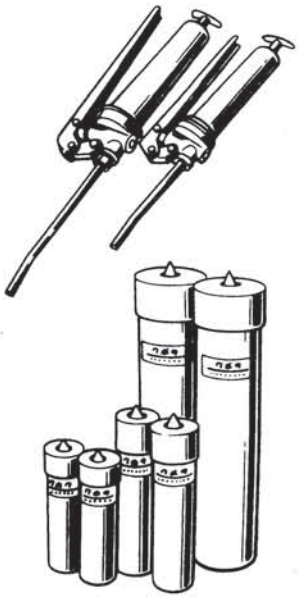
● M90（一般ミッション・各ギヤ用）

20 L　　4 L

● M80B（ミッション油圧兼用）

20 L　　4 L

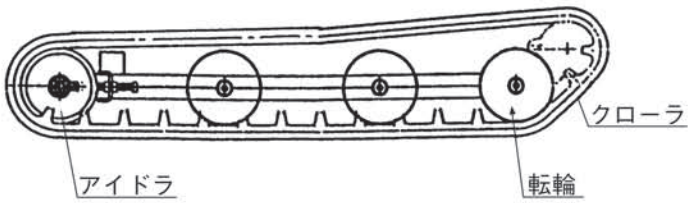
■クボタスペアグリース



60　100　400

6．用語解説（アイウエオ順）

・**アイドラ**…クローラを張る鉄車輪
・**アユミ**…機械を自動車に積込み、積降ろしする時に使用する長い板（金属製のハシゴ型等）
・**エア抜き**…燃料ホースに入った空気（エア）を抜くこと（ディーゼルエンジンは燃料ホースに空気が入ると燃料を送れなくなる）
・**回転計**…こぎ胴の回転速度を表示する計器
・**クローラ**…装軌型の車輪（履帯）



・**ラジエータ**…エンジン冷却水を冷やす水循環装置
・**３番飛散**…排じんダクトからもみが飛び散ること。
・**スタータ**…エンジンを始動する装置
・**転輪**…車体を支えるクローラの鉄車輪
・**排じんダクト**…モミガラ・ワラクズを機外へ排出する筒
・**モミセンサ**……モミ袋へ送り込まれたモミがいっぱいになると警報ブザーで知らせるための感知器。
・**レール台**……フィードチェンの下部にあり，稲束を支えるレール。
・**揚こく筒**…もみをモミ袋の上方へ送り出す筒

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　）　　－		型式名 区分 車台番号（製造番号） エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

北海道事務所：電(011)376-4434	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地３－１
秋田事務所：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182－１
東京事務所：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５－２-36
新潟事務所：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１-14-15
金沢事務所：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956－１
名古屋事務所：電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所：電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所：電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846－１
株式会社四国クボタ本社：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647－３

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(072)241-1375	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64

HS7000
AR. C.1-1. 1. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　5C032-1525-1